

ヲ行使スル者ハ重罪ト爲シ五年ヨリ終身ニ至ル徒刑ニ處シ或ハ二年ニ過キサレ入獄ニ處シ情ニ依リ隘牢及ヒ苦役ヲ加フ  
一 詐欺ノ心ヲ以テ契約書、證書及ヒ其讓與書並ニ契約書、證書ヲ證スル證人ノ姓名手署ヲ偽造變造スル者及ヒ其偽造變造タルヲ知テ之ヲ行使スル者ハ重罪ト爲シ五年ヨリ終身ニ至ル徒刑ニ處シ或ハ二年ニ過キサレ入獄ニ處シ情ニ依リ苦役及ヒ隘牢ヲ加フ

奧太利刑法

第二百一條 (イ)凡ソ人民私有ノ證書類ヲ偽造シ又ハ其正物ヲ變造セシ者及ヒ全ク關係ナキカ或ハ其獨權ニ屬セサル證書類ヲ他人ニ損害ヲ與フヘキ爲メ故ラニ沒失、毀損、磨滅セシ者或ハ贋造ノ紙幣若クハ公債證書及ヒ貨幣等其主犯或ハ共犯者トノ協同ニ依ラスト雖モ贋造物ナルヲ知テ之ヲ流通セシメシ者

第二百二條 詐僞ノ刑ハ大抵六月以上一年以下ノ徒刑トス然レトモ特ニ加等ノ情狀アルニ於テハ一年以上五年以下ニ及フコトヲ得

埃及刑法

第一百七十九條 後段 國債證書會計局ノ證券又ハ其他總テ會計局或ハ公ケノ銀鋪ノ證券ヲ贋造シ又ハ其贋造變造ノ證券ヲ用ヒ又ハ之ヲ國內ニ輸入シタル者ハ有期ノ徒刑又ハ禁獄ノ刑ニ處セラレヘシ但シ其刑期ハ決シテ十年以下タル可カラス

第一百八十八條 何人ニ限ラス前ニ記セシ方法中ノ一ヲ用ヒ私書ヲ贋造シタル者又ハ故ヲニ贋造ノ私書ヲ用ヒタル者ハ一年ヨリ少ナカラス三年ヨリ多カラサル時間禁錮ノ刑ニ處セラレ可シ

米國刑法

第五千四百十三條 合衆國ノ義務及保證ノ文句ハ通用紙幣、公債證書、利子證書、合衆國手形、大藏手形及合衆國ノ官吏ニ出ル預金證書、爲替手形及ヒ議事院ノ決議ニ依テ發行スル印紙等ヲ指ス

第五千四百十四條 詐欺ノ心ヲ以テ合衆國ノ義務又ハ保證ヲ變造偽造スル者ハ五千弗以下ノ贖金ヲ科シ或ハ十五年以下ノ加苦役入獄ニ處ス



印度刑法

第四百六十七條 有價ノ保書又ハ遺囑書又ハ我子ヲ養フ免狀或ハ有價證書ノ讓與元金利金及ヒ分利ノ受取又ハ金錢動産有價ノ書ヲ受授スル等ノ權ヲ與フル委任狀或ハ金錢及ヒ有價ノ證書又ハ動産ノ受領ヲ表スル憑書ヲ偽造スル者ハ終身流若クハ十年ニ止ル各種ノ入獄ニ處シ且贖金ヲ科ス

第四百六十八條 人ヲ欺クノ意ヲ以テ憑書ヲ偽造スル者ハ七年ニ及フ各種ノ入獄及ヒ贖金ニ處ス

土耳其刑法

第四百四十八條 地券、國債證書其他官ヨリ發行シタル證券ヲ偽造變造シ又ハ偽造變造シタル證券ヲ使用シ或ハ土耳其ノ所領内ニ輸入セシ者ハ有期ノ徒刑又ハ禁獄ノ刑ニ處スヘシ但シ此刑ノ期限ハ如何ナル場合ト雖トモ十年以上タルヘシ  
第五百五十五條 前條ニ記載シタル方法ヲ以テ私書ヲ偽造シ又ハ故ラニ其

偽造シタル書類ヲ使用セシ者ハ一年ヨリ少ナカラス三年ヨリ多カラサル禁錮ニ處ス可シ

布哇刑法

一 偽書トハ他人ヲ欺瞞シ及ヒ其權利ヲ害スヘキ目的ヲ以テ文書ヲ偽造シ又ハ變造スルコトヲ云フ  
一 何人ニテモ遺囑書、貸與狀、契約書、爲替券、振出手形或ハ引替證書或ハ代金請求狀其他書類ヲ偽造變造シ其金高百弗以上ナルトキハ十年以下ノ苦役ヲ附スル囚獄ニ處シ且五百弗以内ノ罰金ヲ併科ス

和蘭刑法

第二百二十五條 或ル權利義務又ハ或債務ノ免除ヲ發生シ得ヘキ文書ヲ製造又ハ變造シ其文書ヲ行使シ又ハ他人ヲシテ之ヲ行使セシメント企テタル者ハ若シ之ヲ行使スルニ於テハ損害ヲ生シ得ヘキトキハ文書偽造ノ罪ヲ犯シタルモノトシテ五年以下ノ禁錮ニ處ス  
故意ヲ以テ製造又ハ變造ニ係ル文書ヲ真正ニシテ變造物ニアラストシ



テ行使シタル者モ亦若シ其行使ニ因リ損害ヲ生シ得ヘキトキハ同上ノ刑ニ處ス

第二百二十六條 文書偽造ノ罪ヲ犯シタル者ハ左ノ場合ニ於テハ七年以下ノ禁錮ニ處ス

第一 公正證書ニ關シテ偽造罪ヲ行ヒタルトキ

第二 國家州邑公舎ノ債券又ハ債務ノ認證書ニ關シテ偽造罪ヲ行ヒタルトキ

第三 結社創立又ハ會社ノ株券債券又ハ株券又ハ債券ノ認證書ニ關シテ偽造罪ヲ行ヒタルトキ

第四 前二項ニ掲ケタル書類ニ附屬スル符箋配當金又ハ年金ノ證券ニ關シ又ハ是等ノ書類ニ代ヘテ發行シタル證券ニ關シテ偽造罪ヲ行ヒタルトキ

第五 流通ノ用ニ供スル信用又ハ商業ノ手形ニ關シテ偽造罪ヲ行ヒタルトキ

故意ヲ以テ第一項ニ記載シタル偽造又ハ變造ノ文書ノ一ヲ恰カモ真正ニシテ變造物タラサルカ如ク之ヲ行使シタル者モ亦若シ其行使ノ爲メニ損害ヲ生シ得ヘキトキハ同一ノ刑ニ處ス

第二百三十二條 法律ニ依テ創立セラレタル流通ノ和蘭國立銀行ノ手形ヲ受領スル際其偽造又ハ變造ニ係ルコトヲ知リ之ヲ善良ニシテ變造物ニアラストシテ流通セシムルノ企謀ヲ以テ之ヲ貯藏シ又ハ歐羅巴ノ和蘭王國內ニ輸入シタル者ハ七年以下ノ禁錮ニ處ス

法律ニ依テ創立セラレタル流通ノ和蘭國立銀行ノ手形ノ偽造變造ニ係ルコトヲ知リタル後之ヲ流通セシメタル者ハ三月以下ノ禁錮又ハ三百「フロラン」以下ノ罰金ニ處ス

第二百三十四條 第二百二十六條第二項乃至第五項ニ特定セル犯罪ノ一ヲ行フノ用ニ供スヘキモノナルコトヲ知リテ其原料又ハ器械ヲ貯藏スル者ハ六月以下ノ禁錮又ハ三百「フロラン」以下ノ罰金ニ處ス  
原料及ヒ器械ハ之ヲ沒收ス



第二百三十五條 第二百二十五條乃至第二百二十九條及第二百三十二條ニ特定セル犯罪ノ爲メニ刑ヲ言渡ス場合ニ於テハ第二十八條第一項乃至第四項ニ掲ケタル權利ノ剝奪ヲ宣言スルコトヲ得

那威刑法

第一百七十八條 上來貨幣ニ付キ規定シタルモノハ所持人拂ニシテ振出權利者ニ由來スル活字の有價券並ニ此所持人拂券ニ屬スル利息、賃料又ハ利益配當ノ證券ニモ亦之ヲ適用ス  
有價券署名ヲ有シ又ハ其他個個ノ文字又ハ數字ノ記載ヲ有スルトキハ亦之ヲ活字の有價券ト看做ス

奧太利刑法草案

第一百五十一條乃至第一百五十八條(貨幣偽造ノ項參照)

瑞西刑法典案

第一百四十二條 真正物ニ轉用スル爲メ偽造貨幣、偽造銀行券又ハ偽造流通券ヲ作製シタル者ニハ懲役ヲ科刑ス。行爲者其大數ヲ作製シタルトキハ

其刑ハ三年以上ノ懲役トス

容易ニ偽造ヲ認知スヘキトキ又ハ行爲者輕少ノ價值ヲ有スル二三ノ貨幣ノミヲ作製シタルトキハ三月以上ノ禁錮ヲ裁定スルコトヲ得

自由刑ニハ何ノ場合ト雖モ一萬フランク以下ノ罰金ヲ併科スルコトヲ得  
流通券トハ債務證書、株券、共有券、假定券大數ヲ發行セル質入證書並ニ利息金及ヒ割賦金證書ヲ曰フ

第四百十三條 偽造者ト共謀シテ偽造貨幣、偽造銀行券及ヒ流通券ヲ發行シタル者ニハ懲役又ハ六月以上ノ禁錮ヲ科刑ス

自由刑ニハ一萬フランク以下ノ罰金ヲ併科スルコトヲ得  
第四百十四條 真正ノ貨幣、真正ノ銀行券、真正ノ流通券ヲ變造シテ之ニ高價額ノ銘價ヲ付シタル者ニハ六月以上ノ禁錮又ハ五年以下ノ懲役ヲ科刑ス

自由刑ニハ一萬フランク以下ノ罰金ヲ併科スルコトヲ得

第四百十六條 偽造、變造又ハ減量セルモノナルコトヲ知ルニ拘ハラシ偽



造又ハ變造セル貨幣、偽造又ハ變造セル銀行券、偽造又ハ變造セル流通券又ハ減量セシ鑄貨ヲ真正又ハ不變造又ハ全價額ノモノトシテ發行シタル者ニハ懲役又ハ五千フランク以下ノ罰金ヲ科刑ス

第四百十七條 真正不變造又ハ全價額ノモノトシテ流通セシムル爲メ偽造又ハ變造貨幣又ハ偽造又ハ變造銀行又ハ減量セル鑄貨ノ大數ヲ輸入又ハ仕入レタル者ニハ五年以下ノ懲役又ハ六月以上ノ禁錮ヲ科刑ス。自由刑ニハ五千フランク以下ノ罰金ヲ併科スルコトヲ得

第四百十八條 真正ノモノトシテ轉用スル爲メ偽造ニ係ル官ノ有價券、特ニ郵便印紙又ハ消印ヲ作製シタル者ニハ三月以上ノ禁錮ヲ科刑ス。高額ノ價值ニ轉用スル爲メ真正ノ官ノ有價券ヲ變造シ之ニ高價ノ銘價ヲ付シタル者、價值アルモノトシテ轉用スル爲メ價值ヲ奪取セル有價券ニ其價值ヲ奪取セサル記章ヲ付シタル者ニハ一月以上ノ禁錮ヲ科刑ス。

情ヲ知リテ偽造又ハ變造ノ有價券ヲ真正又ハ不變造ノモノトシテ行使シタル者

情ヲ知リテ價值ヲ奪取セル有價券ヲ全價格ノモノトシテ轉用シタル者ニハ五百フランク以下ノ罰金ヲ科刑ス

第五十二條

本章ノ規定(第三十八條乃至第五十一條)ハ外國ノ鑄貨又ハ紙幣及ヒ外國ノ文書、銀行券、流通券及ヒ有價章及ヒ物品章ニモ亦之ヲ適用ス

第三

釋義 本章ノ規定ハ舊刑法ノ官文書偽造罪及ヒ私文書偽造罪中ヨリ有

價證券ニ關スル部分ヲ抽出シ之ヲ合シテ一部ト爲シ多少修正ヲ加ヘラレタルモノナリ本章ノ罪ハ特別ノ性質ヲ有スル流通證券ニ關スルモノニシテ普通ノ文書ト異ナル所アリ且主トシテ直接ニ財産上ノ利益ヲ目的トスルモノナルヲ以テ之ヲ他ノ文書偽造罪ト區別スル必要アリ其偽造ノミヲ以テ本罪成立ノ要件ト爲シタル所以ハ前章文書偽造罪ニ於テ述ヘタル所ト同一ナルヲ以テ復タ茲ニ贅セス



左ニ各本條ニ付キ説明スヘシ

第六十二條ハ舊刑法第二百四條及ヒ第二百九條ヲ合シ之ニ修正ヲ加ヘラレタルモノニシテ舊刑法ハ公債證書、地券其他官吏ノ公證シタル文書ヲ官文書トシ爲替手形其他裏書ヲ以テ賣買スヘキ證書若クハ金額ト交換スヘキ約定手形ヲ私文書トシ別節ニ規定ヲ設クレトモ如此區別ハ實際ニ必要ナキノミナラス重罪輕罪ノ區別ヲ變シタル本法ノ主義ニ於テハ特ニ此等ノ區別ヲ設クルコトヲ要セサルヲ以テ總テ之ヲ包含シ公債證書、會社ノ株券其他ノ有價證券ニ關スル規定ヲ設ケタルモノノ如シ又舊刑法ハ爲替手形ニ虛偽ノ裏書ヲ爲シタル場合ノミヲ想像スト雖モ爲替手形ノ信用ヲ保護スル上ニ於テハ特リ虛偽ノ裏出ノミヲ取締ルヘキ理由ナキヲ以テ本條ニ於テハ廣ク虛偽ノ記入ト爲シ時急ニ應セシメタルモノノ如シ又舊刑法ハ本條ノ罪ニ輕懲役ヲ科スト雖モ前章文書偽造罪ニ付キ舉示シタル如ク刑ノ範圍狹キニ失シ爲メニ罪狀輕キ者ニ對シテ重刑ヲ科スルノ止ムヲ得サル場合ナキニアラサルト同時ニ罪質重キ者ニ對シテ輕キ刑ヲ科スルノ不便アルヲ以テ本條ハ刑ノ

範圍ヲ擴張シ此不都合ヲ避ケタルモノノ如シ  
公債證書トハ讀テ字ノ如ク政府ノ發スル債券ニシテ金祿公債證書、軍事公債、整理公債ノ類ヲ總稱シ官府ノ證券トハ國庫債券、戰時ニ對スル軍用手票ノ類ヲ云フ

第六十三條ハ前條ノ偽造證券又ハ虛偽ノ記入ヲ爲シタル證券ヲ行使シ又ハ行使ノ目的ヲ以テ之ヲ人ニ交付シ若クハ輸入シタル場合ノ規定ニシテ第一百五十八條及ヒ第六十一條ト同一ノ理由ニ基ツクモノナレトモ特ニ輸入シタル場合ニモ之ヲ適用スル所以ハ此等ノ物タル信用經濟ノ發達ト共ニ殆ト貨幣ノ代用ヲ爲スコトアリ無記名ノ證券ノ如キハ流通ノ點ニ於テ貨幣、紙幣又ハ銀行券ト異ナル所ナケレハ第四百四十八條第二項ノ趣旨ヲ參酌シタルモノナリ

### 第十九章 印章偽造ノ罪

#### 第六十四條 行使ノ目的ヲ以テ御璽、國璽又ハ御名ヲ偽造シ



タル者ハ二年以上ノ有期懲役ニ處ス

御璽、國璽又ハ御名ヲ不正ニ使用シ又ハ偽造シタル御璽、國璽又ハ御名ヲ使用シタル者亦同シ

第六十五條 行使ノ目的ヲ以テ公務所又ハ公務員ノ印章若クハ署名ヲ偽造シタル者ハ三月以上五年以下ノ懲役ニ處ス  
公務所又ハ公務員ノ印章若クハ署名ヲ不正ニ使用シ又ハ偽造シタル公務所又ハ公務員ノ印章若クハ署名ヲ使用シタル者亦同シ

第六十六條 行使ノ目的ヲ以テ公務所ノ記號ヲ偽造シタル者ハ三年以下ノ懲役ニ處ス

公務所ノ記號ヲ不正ニ使用シ又ハ偽造シタル公務所ノ記號ヲ使用シタル者亦同シ

第六十七條 行使ノ目的ヲ以テ他人ノ印章若クハ署名ヲ偽造シタル者ハ三年以下ノ懲役ニ處ス

他人ノ印章若クハ署名ヲ不正ニ使用シ又ハ偽造シタル印章若クハ署名ヲ使用シタル者亦同シ

第六十八條 第六十四條第二項、第六十五條第二項、第六十六條第二項及ヒ前條第二項ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

第一 沿革

第一案 第二百一十一條 御璽、國璽又ハ其影蹟ヲ偽造シタル者又ハ其印影

アル文書ヲ使用シタル者ハ無期懲役ニ處ス

御璽、國璽ヲ不正ニ抑捺シタル者又ハ其印影アル文書ヲ使用シタル者ハ一等有期懲役ニ處ス

第二百二十二條 法律、規則ニ從ヒ船車、量衡等ニ押用スル官署公署



ノ記號、極印ヲ偽造シテ其物品ニ押捺シ又ハ記號、極印ノ影踏ヲ偽造シタル者ハ一年以上四年以下ノ有役禁錮及ヒ五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス

偽造シテ押捺セサル者又ハ單ニ不正ノ押捺ヲ爲シタル者又ハ一ノ物品ヨリ他ノ物品ニ印影ヲ移シタル者ハ一等ヲ減ス

第二百二十三條 官ヨリ發行スル各種ノ印紙、手形用紙、郵便切手、封皮、葉書帶紙ヲ偽造シテ之ヲ販賣シ、販賣ニ供シ又ハ使用シタル者ハ一年以上五年以下ノ有役禁錮及ヒ五十圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス

其偽造シテ販賣使用セサル者及ヒ偽造ニ與セスシテ販賣使用シタル者ハ六月以上三年以下ノ有役禁錮及ヒ五十圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處ス

第二百二十四條 郵便聯合條約國政府ノ發行スル郵便切手、封皮、葉書帶紙ヲ偽造、變造シ又ハ其偽造、變造ニ依ルモノヲ販賣、使用シタル者ハ前ノ例ニ照シ各一等ヲ減ス

第二百二十五條 此節ニ記載シタル輕罪ノ未遂、罪ハ之ヲ罰ス

第二百二十九條 行使ノ目的ヲ以テ御璽、國璽又ハ御名ヲ偽造シタル者ハ三年以上ノ有期懲役ニ處ス

御璽、國璽又ハ御名ヲ不正ニ使用シ又ハ偽造シタル御璽、國璽又ハ御名ヲ使用シタル者亦同シ

第二百九十一條 行使ノ目的ヲ以テ公務所又ハ公務員ノ印章若クハ署名ヲ偽造シタル者ハ五年以下ノ懲役ニ處ス

公務所又ハ公務員ノ印章若クハ署名ヲ不正ニ使用シ又ハ偽造シタル公務所又ハ公務員ノ印章若クハ署名ヲ使用シタル者亦同シ

第二百九十二條 行使ノ目的ヲ以テ公務所ノ記號ヲ偽造シタル者ハ三年以上ノ懲役ニ處ス



第九十三條 行使ノ目的ヲ以テ他人ノ印章署名ヲ偽造シタル者

ハ三年以下ノ懲役ニ處ス

他人ノ印章署名ヲ不正ニ使用シ又ハ偽造シタル印章署名ヲ使用シタル者亦同シ

第九十四條 行使ノ目的ヲ以テ政府ヨリ發行スル印紙郵便切手、

封皮、葉書、帶紙、又ハ郵便聯合條約國政府ノ發行スル郵便切手、封皮

葉書、帶紙ヲ偽造又ハ變造シタル者ハ五年以下ノ懲役ニ處ス

偽造變造ノ印紙郵便切手、封皮、葉書、帶紙ヲ行使シ又ハ行使ノ目的

ヲ以テ之ヲ輸入シタル者亦同シ

第九十五條 第九十條第二項、第九十一條第二項、第九十二

條第二項、第九十三條第二項及ヒ前條第二項ノ未遂罪ハ之ヲ罰

ス

第九十六條 本節ノ罪ヲ犯シタル者ニハ公權剝奪及ヒ監視ヲ附

加スルコトヲ得

第三案

第九十一條 第二案第九十條ニ同シ

第九十二條 第二案第九十一條ニ同シ

第九十三條 第二案第九十二條ニ同シ

第九十四條 行使ノ目的ヲ以テ他人ノ印章若クハ署名ヲ偽造シ

タル者ハ三年以下ノ懲役ニ

ス 他人ノ印章若クハ署名ヲ不正ニ使用シ又ハ偽造シタル印章若ク

ハ署名ヲ使用シタル者亦同シ

第九十五條 第九十一條第二項、第九十二條第二項、第九十

三條第二項及ヒ前條第二項ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

第九十六條 本章ノ罪ヲ犯シタル者ニハ公權剝奪及ヒ監視ヲ附

加スルコトヲ得

第四案

第九十條 第二案ニ同シ

第九十一條 第二案ニ同シ

第九十二條 第二案ニ同シ



第九十三條 第二案ニ同シ

第九十四條 第九十條第二項、第九十一條第二項、第九十二

條第二項及ヒ前條第二項ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

第九十五條 本章ノ罪ヲ犯シタル者ニハ公權剝奪及ヒ監視ヲ附

加スルコトヲ得

第二 參照法律

佛蘭西刑法

第一條 何人ヲ問ハス已ニ一度貼用シタル郵便切手ヲ故ラニ再用スル者

ハ五十フランク以上一千フランク以下ノ罰金ヲ科ス

此罪ヲ再犯シタル者ハ五日以上一月以下ノ禁錮ノ刑且二倍ノ罰金ヲ科

ス

一度貼用セシ切手ヲ賣買シ或ハ其謀試ヲ爲シタル者ハ上ニ定メタル區

別ニ從ヒ前ト同刑ニ處ス可シ(千八百四十九年十月十五日ノ法律)

第三十九條 國璽ヲ贋造シ又ハ贋造ノ璽ヲ用ヒタル者此等ノ犯人ハ無

期ノ徒刑ニ處セラル可シ

第四十條 證券、印紙又ハ伐出サント爲ス樹木ニ印スル官ノ鑿記又ハ金

銀ノ質ヲ極ル爲メノ鑿記ヲ贋造、變造セシ者又ハ贋造、變造ノ印紙或ハ鑿

記ヲ用ヒタル者ハ至重ノ有期ノ徒刑ニ處セラル可シ

第四十二條(千八百六十三年五月十三日如左改ム) 政府ノ名義ヲ以テ各

種ノ物品、商品ニ附ス可キ記號ヲ贋造シ或ハ其贋造ノ記號ヲ用ヒタル者

又ハ官署ノ印及ヒ記號ヲ贋造シ或ハ其贋造ノ印及ヒ記號ヲ用ヒタル者

又ハ郵便切手ヲ贋造シ或ハ其贋造シタル郵便切手ヲ故ラニ用ヒタル者

ハ二年ヨリ少カラス五年ヨリ多カラサル時間禁錮ノ刑ニ處セラル可シ

白耳義刑法

第七十九條 凡ソ國璽ヲ偽造シ若クハ偽璽ヲ用フル者ハ十年ヨリ十五

年マテノ懲役ニ處ス可シ

第八十條 凡ソ(シタニオンナブルナ)國璽又ハ金銀貨ノ極印ヲ偽造若クハ變造ス

ル者



以上偽造或ハ變造ノ國璽或ハ極印ヲ用フル者皆監役  
造幣ニ用フル極印、印記ノ類ヲ偽造若クハ變造スル者

(第五項) 銀行紙券利符各號ヲ以テ分派シタル證券、印紙等ヲ製造スルニ用  
フル印記、極印、挽形類ヲ變造若クハ偽造スル者ハ皆監役

第百八十六條 凡ソ外國ノ印章、證印、極印、記號等ノ第百七十九條及ヒ第百  
八十條ノ用ニ充ツル者ヲ偽造シ若クハ變造シ或ハ偽物ヲ用フル者ハ皆  
監役

第百八十八條 凡ソ郵便切手及ヒ其他貼用證印紙ノ白國竝ニ外國ニ屬ス  
ル者ヲ偽造シ若クハ肆店ニ出シ若クハ用フル者ハ二月ヨリ三年マテノ  
獄ニ處シ及ヒ第三十三條ノ奪權ニ處スルコトアリ

若シ其偽造ヲ果サ、ル者ハ一月ヨリ一年マテノ獄ニ處ス可シ

第百八十九條 凡ソ郵便切手及ヒ貼用證印紙ノ偽造物ヲ得之ヲ用フル者  
ハ八日ヨリ一月マテノ獄ニ處スヘシ

第百九十條 凡ソ郵便切手及ヒ貼用證印紙符契等ノ既ニ用ヒタル跡ヲ消

却スル者

此等ノ印紙ヲ用フル者ハ皆二十六、フランクヨリ三百、フランク迄ノ罰金  
ヲ科ス可シ

英吉利刑法典

一 國印、寶璽、官印及ヒ證券、印紙、銀行札、爲替切手、收納書若クハ遺書等ヲ偽  
造スル者ハ重罪ニ坐シ五年ヨリ終身ニ至ル徒罪ニ處シ或ハ二年ニ止ル  
入獄ニ處シ若クハ苦役及ヒ監牢ヲ加フ

埃太利刑法

第百九十九條 詐僞ハ其所業ノ性質ニ從ヒ左ノ場合ニ於テ之ヲ重罪ト爲  
ス

公用筆記類又ハ官府ノ表點セル極印、押印及ヒ品價印等ヲ製造スル者

第三百三十條 官印ヲ其命ナクシテ猥リニ調製スルカ或ハ其命アリテ調

製セシモノヲ本官ニ納メス關係ナキ他人ニ渡ストキハ之ヲ違式罪トシ

初回ニ於テハ一週以下ノ禁獄再犯ニ於テハ禁獄一月ノ外尙ホ本職業禁



止ニ處ス可シ

### 獨乙刑法

第二百七十五條 左ノ件々ニ於テハ三月ヨリ短カラサル禁錮ニ處ス可シ

第一 故ラニ變造贋造ノ印紙印(謂取證其他)姓名ヲ記シタル印章白紙印板郵便印紙又ハ傳言印紙或ハ印ヲ押シタル狀袋ヲ使用シタル者

第二 眞物トシテ使用スルノ目的ニテ贋造印紙(受取證其他)姓名ヲ記シ

タル印章白紙骨牌往來免券曆書聞紙ニ押ス印板其他活版書ヲ贋造シタル者又ハ郵便印紙傳信印紙及ヒ印ヲ押シタル狀袋ヲ贋造シタル者

第三 印紙印姓名ヲ記シタル印紙印版郵便印紙傳信印紙及ヒ印ヲ押シタル狀袋等ヲ高價ニ賣ルノ目的ニテ偽造シタルモノ

### 魯西亞刑法

第三百二十三條 國璽或ハ皇帝ノ璽印ヲ贋造セシ者或ハ同上ノ偽印ヲ詐僞ノ目的ニ使用セシ者ハ第三百十九條ニ記載セル勅書偽造ノ罪ニ齊シク論セラル可シ

第三百二十四條 公廳ノ印章及ヒ印紙ヲ偽造シ或ハ同上ノ偽造若クハ正證ヨリ複寫セル偽證ヲ不正ノ目的ニ使用セシ者ハ懲治刑ノ第一類第二等刑ニ處セラル可シ

同上ノ贋造變造者若シ之ヲ使用セサルトキハ三等ヲ減セラル可シ又其偽證ヲ早く自ら首服シ以テ其害ヲ受クル者無カラシメシトキハ唯々七日以上三週以下ノ禁錮ニ處セラル可シ

第三百二十五條 直チニ官ヨリ命セラレタルニアラスシテ法ニ背キ官署ノ印章及ヒ印紙ヲ造リシ職人ハ三月以上六月以下ノ禁獄ノ刑ヲ言渡サルヘシ然レトモ該人若シ此印章若クハ印紙ヲ以テ重罪ヲ犯サル可キヲ知テ之ヲ作爲セシトキハ本罪共犯ヲ以テ論セラル可シ

### 埃及刑法

第一百七十九條 國君ノ印璽國璽官署ノ印ヲ贋造シタル者或ハ其贋造セシ印璽ヲ用ヒタル者國債證書會計局ノ證券又ハ其他總テ會計局或ハ公ケノ銀鋪ノ證券ヲ贋造シ又ハ其贋造變造ノ證券ヲ用ヒ又ハ之ヲ國內ニ輸



入シタル者ハ有期ノ徒刑又ハ禁獄ノ刑ニ處セラレ可シ  
但シ其刑期ハ決シテ十年以下タル可カラス

第百八十一條 政府ノ名目ヲ以テ各種ノ物品或ハ商品ニ附ス可キ璽印、鑿記、記號ヲ贋造シタル者官署、官許アル會社、商居ノ印記、鑿記、記號ヲ用ヒタル者ハ三年ノ時間禁錮ノ刑ニ處セラレ且ツ損害ノ償ヲ爲ス可キ旨ヲ言渡サル可シ

米國刑法

第五千四百十九條 裁判所ノ印及裁判官其他裁判所官吏ノ印ヲ偽造スル者及其偽造タルヲ知テ之ヲ使用スル者ハ五百弗以下ノ贖金ヲ科シ且五年以下ノ入獄ニ處ス

第五千四百六十四條 郵便印紙及ヒ其極印板具ヲ偽造スル者及ヒ其偽造タルヲ知テ之ヲ使用販賣シ又ハ之ヲ使用販賣スルヲ圖テ之ヲ所有スル者及ヒ其權ナクシテ郵便印紙ヲ出版シ其極印ヲ造作シ及ヒ受クルノ權ナキ人ニ之ヲ授クル者ハ五百弗以下ノ贖金ヲ科シ或ハ五年以下ノ加苦

獄ニ處シ或ハ入獄贖金ヲ併用シテ之ヲ罰ス

第五千四百六十五條 外國政府ノ郵便印紙ヲ偽造スル者及ヒ其偽造タルヲ知テ之ヲ行使スル者ハ二年以上十年以下ノ加苦役入獄ニ處ス

土耳其刑法

第百四十八條 政府又ハ官署ノ印ヲ偽造シ或ハ其偽印ヲ使用シタル者地券、國債證書其他官ヨリ發行シタル證券ヲ偽造變造シ又ハ偽造變造シタル證券ヲ使用シ或ハ土耳其ノ所領内ニ輸入セシ者ハ有期ノ徒刑又ハ禁獄ノ刑ニ處ス可シ但此刑ノ期限ハ如何ナル場合ト雖モ十年以上タルヘシ

第百四十九條 官ニ屬スル印紙ヲ偽造シ又ハ變造シタル者ハ十年以下ノ有期ノ徒刑及ヒ禁獄ニ處ス可シ真正ノ印紙ヲ不當ナル方法ヲ以テ得タル後チ國家ノ利益ニ害アル事ニ之ヲ使用シタル者ハ三年ノ禁錮ニ處ス可シ

第百五十條 政府ノ名ヲ以テ各種ノ物品、商貨ニ押用ス可キ印章、記號ヲ偽



造シタル者官署又ハ官ノ許可ヲ得タル會社、商館ノ印章、記號ヲ偽造シタル者偽造ノ印章、記號ヲ使用シタル者ハ並ニ三年ノ禁錮ニ處シ且此偽造ノ爲メニ釀シタル損失ヲ償ハシム可シ前條ニ記載シタル用法ニ充ツ可キ真正ノ印章、記號ヲ不當ナル方法ヲ以テ得タル後官府、商社又ハ他ノ營業ノ利益ニ害アル事ニ使用シタル者ハ六月ヨリ少ナカラズ一年ヨリ多カラサル禁錮ニ處シ且償金ヲ完納セシム可シ

印度刑法

第二百五十五條 課税ノ目的ヲ以テ政府ヨリ發行スル所ノ印紙ヲ偽造シ又ハ之ヲ偽造スルノ一事ヲ行フ者ハ終身流若クハ十年ニ止ル各種ノ入獄及ヒ贖金ニ處スヘシ

第二百五十九條 課税ノ目的ヲ以テ政府ヨリ發行スル所ノ印紙ノ賈物タルヲ知リ之ヲ眞物ト爲シテ用ヒン爲メ之ヲ所持スル者ハ七年ニ及フ各種ノ入獄及ヒ贖金ニ處ス可シ

第二百六十條 課税ノ目的ヲ以テ政府ヨリ發行スル所ノ印紙ノ賈物タル

ヲ知リ之ヲ眞物トシテ使用スル者ハ七年ニ止ル各種ノ入獄若クハ贖金ニ處シ又ハ贖金入獄ヲ併科ス

第二百六十二條 政府ニ損ヲ被ラヌルノ意ヲ以テ既ニ用ヒタル政府ノ印紙ヲ再用スル者ハ二年ニ止ル各種ノ入獄若クハ贖金ニ處シ又ハ入獄贖金ヲ併科ス

第二百六十三條 政府ニ損ヲ被ラヌルノ意ヲ以テ政府ノ印紙ヨリ既ニ用ヒタルヲ表スルノ記號ヲ刪去シ或ハ如此記號ヲ刪去シタル印紙ヲ所持賣與行使スル者ハ三年ニ止ル各種ノ入獄若クハ贖金ニ處シ又ハ入獄贖金ヲ併科ス

和蘭刑法

第二百十六條 左ニ記スル者ハ六年以下ノ禁錮ニ處ス

第一 眞正ニシテ且變造物ニアラストシテ自ラ之ヲ行使シ又ハ他人ヲシテ之ヲ行使セシムル企圖ヲ以テ和蘭國ニ於テ發行スル印紙ヲ偽造又ハ變造シタルモノ



第二 同上ノ企謀ヲ以テ真正ノ極印ヲ不法ニ行使シ因テ以テ前上ノ印紙ヲ製造シタルモノ

(原註) 本條ニ掲クル印紙ハ印紙税ノ印紙及ヒ郵便電信ノ印紙ナリ刑法ハ國璽ノ偽造ヲ豫想セス然レトモ國璽ノ使用ヲ命スル所ノ法律上規ノ定ナキコトハ吾人ノ知ル所ナリ

第二百十七條 左ニ記スル者ハ五年以下ノ禁錮ニ處ス

第一 法律ヲ要スル和蘭國ノ記印又ハ製造ノ標識ヲ偽造シテ之ヲ金銀ノ工作物上ニ押付シ又ハ真正ノ記印又ハ標識ヲ製造シ其記印又ハ標識ヲ真正ニシテ且變造物ニアラストシテ其工作物ヲ行使シ又ハ他人ヲシテ之ヲ行使セシメント企テタル者

第二 同上ノ企謀ニ出テ真正ノ極印ヲ不法ニ使用シ因テ以テ記印又ハ標識ヲ偽造シ之ヲ前記ノ工作物上ニ押付シタル者

第三 法律ニ要スル和蘭國ノ記印又ハ製造ノ標識ヲ其本來押付シアリタル金銀ノ工作物以外ノモノニ押付シ貼付又ハ移付シ其記印又ハ標

識ヲ本來押付シアリタルモノトシテ其工作物ヲ行使シ又ハ他人ヲシテ之ヲ行使セシメント企テタル者

第二百十八條 左ニ記スル者ハ三年以下ノ禁錮ニ處ス

第一 和蘭國ノ記印ヲ偽造シテ之ヲ標本ニ從ハシム可キ物件上ニ押付シ又ハ真正ノ記印ヲ變造シ其記印ヲ真正ニシテ且變造物ニアラストシテ其物件ヲ行使シ又ハ他人ヲシテ之ヲ行使セシメント企テタル者  
第二 同一ノ企謀ニ出テ真正ノ極印ヲ不法ニ使用シ因テ以テ前記ノ物件上ニ記印ヲ押付シタル者

第二百十九條 左ニ記スル者ハ二年以下ノ禁錮ニ處ス

第一 詐偽ヲ以テ商品又ハ其包被上ニ第二百十七條及ヒ第二百十八條ニ掲ケラレタル記印ニシテ法律上ノ規定ニ依リ押付ス可キモノ以外ノ記印ヲ押付シ恰モ其記印カ真正ニシテ且偽造物ニアラサルカ如クニ其商品ヲ行使シ又ハ他人ヲシテ之ヲ行使セシメント企テタル者  
第二 同上ノ企謀ニ出テ真正ノ極印ヲ不法ニ使用シ因テ以テ商品又ハ



其包被上ニ記印ヲ押付シタル者

第三 商品又ハ其包被上ニ押付スヘキモノニアラサル真正ノ記印ヲ押付シ恰モ其記印カ其商品上ニ押付スヘキモノナルカ如ク其商品ヲ行使シ又ハ他人ヲシテ之ヲ行使セシメント企テタル者

第二百二十條 偽造變造又ハ不法ニ製造シタル外國ノ印紙標識又ハ記印又ハ不法ニ之ヲ貼付シタル物件ヲ故意ヲ以テ恰カモ其印紙標識又ハ記印ハ真正ニシテ變造物ニアラス不法ニ製造セラレタルモノニアラス又不法ニ其物件ニ貼付セラレタルモノニアラサルカ如ク使用シ販賣シ販賣ニ供シ之ヲ販賣スルカ爲メニ貯藏シ又ハ歐羅巴ノ和蘭王國內ニ輸入シタル者ハ第二百十六條乃至第二百十九條ノ區別ニ從ヒ同條ニ掲ケタル刑ニ處ス

第二百二十一條 標本ニ從ハシムヘキ物件上ニ施シタル排除ノ記印ヲ取去リ恰カモ其物件カ排除セラレサリシ如ク之ヲ行使シ又ハ他人ヲシテ之ヲ行使セシメント企テタル者ハ一年以下ノ禁錮ニ處ス

故意ヲ以テ前記ノ物件ヲ恰カモ排除セラレサリシカ如ク行使シ販賣シ販賣ニ供シ之ヲ交付シ又ハ販賣ニ供スルカ爲メ之ヲ貯藏シタル者モ亦同一ノ刑ニ處ス

第二百二十二條 和蘭國ニ發行シ且一旦使用済ニ係ル印紙上ノ消印ヲ取去リ恰カモ其印紙カ未タ使用セラレサリシカ如ク之ヲ行使シ又ハ他人ヲシテ之ヲ行使セシメント企テタル者ハ三年以下ノ禁錮又ハ三百フロリン以下ノ罰金ニ處ス

故意ヲ以テ消印アル前記ノ印紙ヲ恰カモ未タ使用セラレサリシカ如ク行使シ販賣ニ供シ之ヲ交付シ又ハ販賣ニ供スルカ爲メ之ヲ貯藏シタル者モ亦同一ノ刑ニ處ス

第二百二十三條 第二百十六條ニ特記セル犯罪ノ一ヲ行フノ用ニ供スヘキモノナルコトヲ知リテ其原料又ハ器械ヲ貯蓄シタル者ハ六月以下ノ禁錮又ハ三百フロリン以下ノ罰金ニ處ス  
其原料及ヒ器械ハ之ヲ沒收ス



第二百二十四條 第二百十六條乃至第二百二十二條ニ特定セル犯罪ノ人ニ因リテ刑ヲ言渡ス場合ニ於テハ第二十八條第一項乃至第四項ニ掲ケタル權利ノ剝奪ヲ宣告スルコトヲ得

那威刑法

第八十六條 文書偽造ノ準備ノ爲メ偽造又ハ變造ノ用ニ供ス可キコト明確ナル虚偽ノ印、印證、記號又ハ其他ノ物件ヲ作製シ又ハ取得シタル者又ハ此種ノ意向ヲ以テ真正ノ印、印證又ハ記號ヲ充用シタル者又ハ其協力者ニハ三年以下ノ禁錮ヲ科刑ス

奧太利刑法草案

第二百二十九條 左ノ者ハ拘留又ハ三百フロラン以下ノ罰金ヲ以テ處刑セラルルモノトス

第一 金銀貨物ノ純分ヲ表示スル用ニ供スル官ノ徽號刻印ヲ挽刻シ又ハ變更シタル者

第二 這般ノ徽號ヲ押刻スル用ニ供スル印章ヲ官ノ許可ナクシテ所有

シ又ハ官ノ依託ナクシテ造リタル者

第三 官廳ノ依託ニ依テ造リタル這般ノ印章ヲ官廳以外ノ者ニ交付シ又ハ亡失若クハ濫用ニ對シテ相當ニ保管セサル者

第一號ニ記載シタル徽號ハ除去ス可キモノトス

第二號ニ記載シタル物件ハ沒收ス可キモノトス

第四百三十條 何人タリトモ官廳ノ依託ナクシテ官印ヲ造リ又ハ官廳ノ依託ニ依テ造リタル印ヲ官廳以外ノ者ニ交付シ又ハ亡失若クハ濫用ニ對シテ相當ニ保管セサル者ハ三百フロラン以下ノ罰金ヲ以テ處刑セララルモノトス

官廳ノ依託ナクシテ造リタル官印ハ沒收ス可キモノトス

瑞西刑法典案

第四百十九條 官ノ記章、特ニ家畜、木材又ハ其他ノ物品又ハ物件ト換フ可キ印章、消印、記號ヲ作製シ又ハ製造シタル者ニハ三月以上ノ禁錮ヲ科刑ス。情ヲ知リテ此種ノ偽造又ハ變造ノ官ノ記章ヲ行使シタル者



不法ニ使用スル爲メ官ノ記章ヲ製造スル裝置ヲ支配スル者及ヒ此種ノ  
裝置ヲ不法ニ使用シタル者ニハ一月以上ノ禁錮ヲ科刑ス  
第五十二條 本章ノ規定(第三百三十八條乃至第三百五十一條)ハ外國ノ鑄貨  
又ハ紙幣及ヒ外國ノ文書、銀行券、流通券及ヒ有價章及ヒ物品章ニモ亦之  
ヲ適用ス

唐律

諸偽造皇帝八寶者斬太皇太后、皇太后、皇后、皇太子寶者絞皇太子妃寶者流三千里  
諸偽寫官文書印者流二千里餘印徒一年

明律

凡偽造諸衙門印信及曆日符驗、夜巡銅牌、茶鹽引者、斬有能告捕者、官給賞銀五十兩、偽造關防印記者、杖一百、徒三年、告捕者、官給賞銀三十兩、爲從及知情行用者、各一減、一等若造而未成者、又減一等、其當該官司知而聽行、與同罪、不知者、坐  
清律

與明律同

第三 釋義 本章ハ舊刑法第二編第四章中其第二節及ヒ第四節ノ私印偽造罪ノ規定ヲ合シ之ニ修正ヲ加ヘタルモノナリ、今舊刑法ニ對比シ修正ノ主要ナル點ヲ列舉スレハ左ノ如シ

第一 舊刑法ハ官印偽造罪ニ付テハ各其偽造又ハ使用ノ行爲ヲ罰シタリ本法モ亦印章偽造罪ニハ偽造ナル行爲ヲ以テ成立ノ要件ト爲スコト舊刑法ト同一ナリト雖モ其偽造印ヲ使用シテ文書ヲ偽造シタル場合ハ之ヲ文書偽造罪ノ中ニ規定シ本章ニ於テハ單ニ印章ヲ偽造シ眞印ヲ不正ニ使用シ又ハ偽造印ヲ使用スルモ文書ヲ偽造セサル場合ノミヲ規定シタリ又舊刑法ハ私印偽造罪ニ付テハ偽造及ヒ使用ノ二行爲ヲ以テ犯罪成立ノ要件ト爲スト雖モ本法ハ之ヲ改メ前ニ舉示シタル如ク偽造ノミヲ以テ成立ノ要件ト爲シ使用ノ場合ハ官印ト等シク此ニ因テ文書ヲ偽造シタルトキハ之ヲ文書偽造罪ト爲シ單ニ眞印ヲ不正ニ使用シ又ハ偽造印ヲ使用シテ文書ヲ偽印セサル場合ノミヲ本章ニ規定シタリ而シテ本章ニ於テ單ニ偽造ノ



行爲ノミヲ以テ罪ノ成立要件ト爲シタルハ他ノ偽造罪ニ付キ修正セラレタルト同一ノ理由ニ出テタルモノノ如シ

第二 舊刑法第九十八條及ヒ第九十九條ハ特別法ニ規定スルヲ妥當ナリトノ理由ヲ以テ削除セラレタルモノノ如シ

第三 文書偽造罪ト同一ノ理由ニ因リ官印若クハ私印ノ規定ヲ擴張シ況ク公務所公務員及ヒ一私人ノ印章ニ關スル規定ヲ設ケラレタリ

第四 文書偽造罪ト同シク舊刑法ハ印章偽造罪ノ刑ノ範圍狹キニ失スルヲ以テ之ヲ擴張セリ而シテ本法ハ本章ノ罪ヲ單ニ印章偽造ノ場合ニ限り從テ之ヲ使用スルモ文書偽造ト爲ラサル場合ノミヲ規定スルヲ以テ其罪狀現行法ニ比シ稍輕キ所アルカ故ニ一般ニ刑ノ程度ヲ低下シタルモノノ如シ

左ニ各本條ニ付キ説明ヲ爲スヘシ

第六十四條第一項ハ舊刑法第九十四條ト同一趣旨ノ規定ニシテ偽璽ヲ使用シテ文書ヲ偽造シタル場合ハ文書偽造罪ノ中ニ規定セラレタルヲ以テ

削除セラレタルモノノ如ク第二項前段ハ舊刑法第九十七條中御璽國璽盜用ノ規定ト其趣旨ヲ同フシ後段ハ偽造シタル御璽國璽又ハ御名ヲ使用スルモ文書ヲ偽造セサリシ場合ノ規定ニシテ是亦偽造ト同シク之ヲ處罰スルノ必要ヲ認メタルニ由ルモノノ如シ

第六十五條第一項ハ舊刑法第九十五條ト同一趣旨ノ規定ニシテ偽印ヲ使用シ文書ヲ偽造シタル場合ハ前條ト同シク文書偽造罪ト爲シタルヲ以テ之ヲ削除セリ第二項前段ハ舊刑法第九十七條中官印盜用ト同一趣旨ノ規定ニシテ後段ハ偽造官印ヲ使用スルモ文書ヲ偽造セサリシ場合ノ規定ニシテ前條第二項末段ノ規定ニ倣ヒ偽造ト同シク之ヲ處罰スルノ趣旨ヲ明ニシタルモノノ如シ

第六十六條第一項ハ舊刑法第九十六條ト同一趣旨ノ規定ニシテ舊刑法ハ產物商品等ニ用フル記號ト書籍什物等ニ用フル記號トヲ區別スト雖モ如此區別ハ實際ノ適用上必要ナキノミナラス解釋上却テ混雜ヲ來タス虞アルヲ以テ本法ハ此區別ヲ廢シ一般ニ記號偽造ノ罪ト爲シタルモノノ如シ而シ



テ偽造記號ヲ使用シテ文書ヲ偽造シタル場合ハ前二條ト同一ノ理由ニ基キ之ヲ削除シタルモノノ如シ第二項前段ハ舊刑法第九十七條記號盜用ノ規定ト全ク同一ノ趣旨ニ出テ後段ハ偽造シタル記號ヲ使用スルニ際シ文書ヲ偽造セサリシ場合ノ規定ニシテ記號偽造ト同シク之ヲ處罰セリ

第六十七條ハ舊刑法第二百八條ト趣旨ニ於テ異ナル所ナク偽造私書ヲ使用シテ文書ヲ偽造シタル場合ハ之ヲ文書偽造罪ト爲シタルヲ以テ削除シ第二項後段ハ偽造シタル私印ヲ使用スルモ文書ヲ偽造セサリシ場合ノ規定ニシテ本法ハ之ヲ私印偽造ト同シク處罰スルノ必要ヲ認メタリ

第六十八條ハ舊刑法第二百條ニ該當ス而シテ本條ヲ設ケタル趣旨ハ第六十四條乃至第六十七條ノ各第二項ノ未遂罪ハ之ヲ處罰スルノ必要アルヲ以テナルヘシ然レトモ單ニ偽造又ハ變造ノ未遂ハ之ヲ處罰スルノ必要ナキヲ以テ除外シタルハ舊刑法ト異ナル所ナリトス

第四 疑問及説明

第一 第六十五條第二項ニ公務所又ハ公務員ノ印章若クハ署名ヲ不正ニ

使用シ云々トアリ文書ニ關係ナクシテ署名ノミヲ不正ニ使用スルトハ如何ナル場合ナリヤ假リニ其場合アリトスルモ印章ノ偽造ト同一ニ見ルヘキ理由如何

署名ヲ不正ニ使用スル場合ハ實際頻繁ニ起ルヘキモノニアラサルモ或ル製造品等ニ至テハ官吏カ署名ヲ爲ス場合ハ絶無ナリト云フヘガラス既ニ印章ニ就テ不正ノ偽造ヲ認メタル以上ハ特ニ場合ノ少ナシト云フ理由ヲ以テ署名ヲ除外スヘキ理由ナキヲ以テナルヘシ

第二 公務所ノ記號トアル中ニハ菊花御紋章ヲ含ムヤ

皇室ノ御紋章ハ此中ニ包含セス但菊花御紋章ト雖モ宮内省ノ紋トシテ使用セラルル場合假令ハ宮内省ノ提灯ニ菊ノ紋章ヲ付ケンレヲ以テ公務所ノ記號ト爲スコトアリトセハ勿論包含スヘシ

第二十章 偽證ノ罪

第六十九條 法律ニ依リ宣誓シタル證人虚偽ノ陳述ヲ爲シタルトキハ三月以上十年以下ノ懲役ニ處ス



第七十條 前條ノ罪ヲ犯シタル者證言シタル事件ノ裁判確定前又ハ懲戒處分前自白シタルトキハ其罪ヲ減輕又ハ免除スルコトヲ得

第七十一條 法律ニ依リ宣誓シタル鑑定人又ハ通事虚偽ノ鑑定又ハ通譯ヲ爲シタルトキハ前二條ノ例ニ同シ

第一 沿革

第一案 第六十六條 豫審公判ヲ問ハス刑事ニ付キ證人トシテ事實ヲ供述ス可キコトヲ命セラレタル者宣誓ヲ爲シタル上不實ノ事ヲ構造シ若クハ眞實ノ事ヲ掩蔽シ其他虚偽ノ方法ヲ以テ被告人ノ利益ト爲ル可キ供述ヲ爲シタルトキハ其訴件ノ結局如何ニ拘ハラズ左ノ區別ニ從テ處斷ス  
一 違警罪事件ニ係ルトキハ十一日以上二月以下ノ有役禁錮又ハ五圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

二 輕罪事件ニ係ルトキハ二月以上一年以下ノ有役禁錮及ヒ五圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處ス  
三 重罪事件ニ係ルトキハ四月以上二年以下ノ有役禁錮及ヒ十圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス  
第六十七條 被告人ノ害ト爲ル可キ偽證ヲ爲ス者ハ左ノ區別ニ從テ處斷ス

一 違警罪事件ニ係ルトキハ一月以上六月以下ノ有役禁錮及ヒ五圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處ス  
二 輕罪事件ニ係ルトキハ六月以上二年以下ノ有役禁錮及ヒ十圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス  
三 重罪事件ニ係ルトキハ二年以上五年以下ノ有役禁錮及ヒ二十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第六十八條 輕罪事件ノ被告人偽證ノ爲メ前條第二號ニ記載シタル刑ヨリ重キ刑ニ處セラレタルトキハ偽證者ヲ二年以上五年



以下ノ有役禁錮及ヒ五十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

重罪事件ノ被告人偽證ノ爲メ前條第三號ニ記載シタル刑ヨリ重キ刑ニ處セラレタルトキハ偽證書ヲ三等有期懲役ニ處ス

第六十九條 被告人偽證ノ爲メ死刑ニ處セラレタルトキハ偽證者ヲ無期懲役ニ處ス若シ被告人ヲ死刑ニ陥ル、ノ意思アリタルトキハ死刑ニ處ス

何レノ場合ニ於テモ被告人死刑ノ執行ヲ受ケサルトキハ各一等ヲ減ス

第七十條 民事商事又ハ行政ニ關スル訴訟事件ニ付キ偽證ヲ爲シタル者ハ二月以上二年以下ノ有役禁錮及ヒ五十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第七十一條 裁判所ヨリ鑑定又ハ通辯ヲ命セラレタル者虛偽ノ供述ヲ爲シタルトキハ前數條ニ記載シタル偽證ノ例ニ擬シテ處斷ス

七十二條 裁判所ヨリ事實參考人トシテ供述ス可キコトヲ命セラレタル者虛偽ノ供述ヲ爲シタルトキハ前數條ノ刑ニ各一等ヲ減ス

七十三條 子孫其父母祖父母ノ害ト爲ル可キ虛偽ノ供述ヲ爲シタル者ハ各本刑ニ一等ヲ加フ  
シタル者ハ各本刑ニ一等ヲ加フ  
親屬ノ利益ト爲ル可キ虛偽ノ供述ヲ爲シタル者ハ其罪ヲ宥恕シテ本刑ヲ免ス

自己ノ刑事上訴追セラレ、コトヲ恐レ虛偽ノ供述ヲ爲シタル者亦同シ

七十四條 賄賂脅迫偽計其他ノ方法ヲ以テ證人鑑定人通事又ハ事實參考人ヲシテ虛偽ノ供述ヲ爲サシメタル者ハ自ラ虛偽ノ供述ヲ爲シタル者ト同ク論シ前數條ノ例ニ照シテ處斷ス

七十五條 此節ニ記載シタル罪ヲ犯シタル者其事件ノ判決前自首シタルトキハ本刑ヲ免ス



若シ其事件ノ判決ニ屬シ控訴アリタルトキ其控訴ノ判決前自首シタル者亦同シ

第二案

第九十七條 法律ニ依リ宣誓シテ證人トナリタル者虚偽ノ陳述ヲ爲シタルトキ十年以下ノ懲役ニ處ス

第九十八條 前條ノ罪ヲ犯シタル者證言シタル事件ノ裁判確定前又ハ懲戒處分前自首シタルトキハ其刑ヲ減輕又ハ免除スルコトヲ得

第九十九條 法律ニ依リ宣誓シテ鑑定人又ハ通事トナリタル者虚偽ノ鑑定又ハ通譯ヲ爲シタルトキハ前二條ノ例ニ依ル

第二百條 本節ノ罪ヲ犯シタル者ニハ公權剝奪ヲ附加スレコトヲ得

第三案

第九十七條 法令ニ依リ宣誓シテ證人ト爲リタル者虚偽ノ陳述ヲ爲シタルトキ十年以下ノ懲役ニ處ス

第九十八條 第二案ニ同シ

第九十九條 法令ニ依リ宣誓シテ鑑定人又ハ通事ト爲リタル者

虚偽ノ鑑定又ハ通譯ヲ爲シタルトキハ前二條ノ例ニ依ル

第二百條 本章ノ罪ヲ犯シタル者ニハ公權剝奪ヲ附加スルコトヲ得

第四案

第九十六條 第二案第九十七條ニ同シ

第九十七條 第二案第九十八條ニ同シ

第九十八條 第二案第九十九條ニ同シ

第九十九條 本章ノ罪ヲ犯シタル者ニハ公權剝奪ヲ附加スルコトヲ得

第二 參照法律

佛蘭西刑法

第三百六十一條 重罪ノ事ニ付キ被告人ニ對シ害ヲ加フヘキ爲メ又ハ被

告人ヲ曲庇スヘキ爲メ偽證ヲ述ヘシ者ノ徒刑場内ニ於テ使役スル刑ニ

處セラル可シ然レトモ被告人徒刑場内ニ於テ使役スル刑ヨリ更ニ重キ

刑法釋義 第二編 罪



刑ニ處セラレシ時ハ其被告人ニ害ヲ加フヘキ爲メ偽證ヲ述ヘシ者被告人ノ受ケシ刑ト同一ノ刑ニ處セラル可シ

第三百六十二條 輕罪ノ事ニ付キ被告人ニ對シ害ヲ加フヘキ爲メ又ハ被告人ヲ曲庇スヘキ爲メ偽證ヲ述ヘシ者ハ二年以上五年以下ノ禁錮且五十フランク以下ノ罰金ノ言渡ヲ受ク可シ

若シ被告人五年以上ノ禁錮ニ處セラレシトキハ其被告人ニ對シ害ヲ加フヘキ爲メ偽證ヲ述ヘシ者其被告人ノ受ケシ刑ト同一ノ刑ニ處セラル可シ

註誤ノ事ニ付キ被告人ニ對シ害ヲ加フヘキ爲メ又ハ被告人ヲ曲庇スヘキ爲メ偽證ヲ述ヘシ者ハ一年以上三年以下ノ禁錮且十六フランク以上五百フランク以下ノ罰金ニ處ス

此二個ノ場合ニ於テ其犯人ハ其刑ヲ受ケシ日ヨリ五年以上十年以下ノ時間第四十二條ニ記シタル權利ヲ行フノ禁ヲ受ケ且同上期間監視ニ付スルコトヲ得

第三百六十三條(千八百六十三年五月十三日如左改ム) 民事ニ付キ偽證ヲ述フル者ハ二年ヨリ少カラス五年ヨリ多カラサル時間禁錮ノ刑ニ處セラレ且五十フランクヨリ少カラス二千フランクヨリ多カラサル罰金ノ言渡ヲ受ク可シ但其犯人ニハ前條ニ記セシ附加ノ刑ヲ受ケシムルコトヲ得ヘシ

第三百六十四條 重罪ノ刑ニ付キ金銀又ハ其他ノ謝報ヲ受ケ又ハ約束ヲ爲シテ偽證ヲ述ヘシ者ハ有期徒刑ニ處ス但此規則ト第三百六十一條ノ次項ニ記シタル刑ヲ用フルノ規則ト相觸ルルコトナカル可シ  
輕罪ノ事又ハ民事ニ付キ金銀又ハ其他ノ謝報ヲ受ケ又ハ約束ヲ爲シテ偽證ヲ述ヘシ者ハ徒刑場内ニ於テ使役スル刑ニ處セラル可シ  
註誤ノ事ニ付キ金銀又ハ其他ノ謝報ヲ受ケ又ハ約束ヲ爲シテ偽證ヲ述ヘシ者ハ二年ヨリ少カラス五年ヨリ多カラサル時間禁錮ノ刑ニ處セラレ且五十フランクヨリ少カラス二千フランクヨリ多カラサル罰金ノ言渡ヲ受クヘシ



又其犯人ハ第三百六十二條ニ記シタル附加ノ刑ヲ受ケシムルコトヲ得  
ヘシ

何レノ場合ニ於テモ偽證ヲ述ヘシ者ノ受取リシ品物ハ沒收ス

第三百六十五條 金銀及ヒ其他ノ謝報ヲ與ヘ又ハ約束ヲ爲シテ偽證ヲ述  
ヘシ者ハ其偽證ヲ述ヘシ者ト同一ノ刑ニ處ス但其刑ノ區別ハ第三百六  
十一條、第三百六十二條、第三百六十三條、第三百六十四條ニ循フ可シ

白耳義刑法

第二百十五條 凡重罪犯ノ證據人ニシテ偽證スル者ハ其犯人ノ爲メニス  
ルト否トヲ論セス監視ニ處ス

第二百十八條 凡輕罪犯ノ證據人ニシテ偽證スル者ハ犯人ノ爲メニスル  
ト否トヲ論セス六月以上五年以下ノ入獄ニ處ス

第二百十九條 凡違警罪ノ證據人ニシテ偽證スル者ハ犯人ノ爲メニスル  
ト否トヲ論セス三月以上一年以下ノ入獄ニ處ス

第二百二十條 凡民事訴訟ノ證據人ニシテ偽證スル者ハ二月以上三年以

下ノ入獄ニ處ス

第二百二十一條 凡原告被告ノ利害ヲ論セス重罪輕罪違警罪民事訴訟等  
ニ於ケル譯官若クハ鑑定人ニシテ偽ル者ハ第二百五條、第二百十六條、  
第二百十八條、第二百十九條、第二百二十條ニ依テ論シ證據人ニシテ偽ル  
者ニ同シ

若シ重罪事件ノ鑑定人ニシテ誓ヲ爲サス偽ル者ハ第二百十七條ノ法ニ  
處スヘシ

第二百二十三條 凡證據人若クハ鑑定人若クハ譯官ヲ蠱誘シ詐ラシムル  
者ハ罪蠱誘セララルル者ニ同シ即チ第二百五條ヨリ第二百二十二條マ  
テノ區別ニ從フ

第二百二十四條 凡財ヲ受ケ若クハ受クヘキヲ聽シ偽證スル者ハ本刑ノ  
外仍ホ五十フランクヨリ三千フランクニ至ル罰金ヲ科ス其財ヲ贈ル者  
モ同罪

獨乙刑法



第一百五十三條 凡誓辭ヲ乞ハレ又回誓ヲ乞ハレ又官ヨリ誓辭ヲ命シタルニ故ラニ虚偽ノ誓辭ヲ爲シタル者ハ十年ヨリ長カラサル徒刑ニ處ス可シ

第五十四條 凡誓辭ヲ爲ス可キ官廳ニ於テ誓辭ヲ爲シテ虚偽ノ鑑定ヲ故ラニ實ト申立又鑑定者ノ虚偽ノ鑑定ヲ故ラニ實ト申立タル者又ハ證據及ヒ鑑定ヲ申立ツル前官廳ニ於テ誓辭ヲ爲シタルヲ虚偽ノ證據及鑑定者ノ虚偽ノ申立ナリト故ラニ其誓辭ヲ廢棄セントシタル者ハ前同刑ニ處スヘシ(十年ヨリ長カラサル徒刑)

若シ其虚偽ノ證據又鑑定者ノ虚偽ノ申立等裁判所ニ於テ被告人ノ害トナリタル時又之レニ因テ其被告人死刑徒刑其他五年以上ニ至ル實決ノ刑ニ處セラレタル時ハ三年ヨリ短カラサル徒刑ニ處ス可シ

第五十七條 若シ證人及ヒ鑑定人(百五十四條見合)虚偽ノ誓辭ヲ爲シ又之レニ換ユヘキ虚偽ノ盟約ヲ爲シタルトキハ處決スヘキ刑ヲ左ノ件々ニ於テハ長期トシテ本刑ノ半又短期トシテハ其四分一ニ減等スルコトヲ

得ヘシ

第一 若シ實ヲ告レハ反テ自己ノ重罪及ヒ輕罪トナル罪ヲ論セラルヘキニ恐レテ實ヲ告ケサル時

第二 證據等申立ツルヲ辭スヘキ權アリテ且其權ヲ告知セラレスシテ人ヲ曲庇スル爲メニ虚偽ノ申立ヲ爲シタル時(凡親族ノ爲メニハ證人ニ對シテモ辭スルノ權アリ)

第五十八條 若シ虚偽ノ誓辭ヲ爲シ又誓辭ニ換ルヘキ虚偽ノ盟約ヲ爲シ虚偽ノ(証人鑑定人)申立ヲ爲シタル者未タ其偽誓偽盟(發見シ)ヲ出訴セラレサル内又鞫問ヲ受ケサル内又其偽誓偽盟ニ因テ他人ノ害トナラサル内(害トナルトハ其偽誓偽盟ノ爲メニ)偽誓偽盟ヲ爲シタル官廳へ自首シテ之ヲ解ク時ハ前條ニ因リ其刑ヲ減等スルコトヲ得ヘシ

第六十條 人ヲシテ虚偽ノ誓辭ヲ爲サシメント鼓動シタル者ハ二年ヨリ長カラサル禁獄ニ處シ仍ホ公權ヲ剝奪シ又人ヲシテ誓辭ニ換フヘキ虚偽ノ盟約ヲ爲サシメント鼓動シタル者ハ六月ヨリ長カラサル禁獄ニ



處ス可シ之ヲ犯サントセシ所業モ亦禁獄ニ處ス可シ  
 第六十二條 裁判所ニ於テ裁判官ノ目前ニテ誓辭ヲ爲シ約定シタル保  
 證及約束ヲ故ラニ背變シタル者ハ二年ヨリ長カラサル禁獄ニ處ス可シ  
 第六十三條 第五百十三條ヨリ第五十六條ニ至ル條々ニ記シタル事  
 ヲ忽懈怠ニヨリ犯シタル者ハ一年ヨリ長カラサル禁獄ニ處ス可シ其  
 事ニ付キ未タ出訴セラレサル内又其人ニ對シ未タ鞫問ヲ開カサル内又  
 其事ニ因テ他人ノ害トナラサル内官廳ニ自首シテ之ヲ解ク時ハ其罪ヲ  
 免スヘシ

英吉利刑法典

凡經典ニ口吻シ盟詞ヲ爲シテ人ノ確證ヲ告ルニ其實事ヲ言ハサル者ハ輕  
 罪ニ坐シ五年ヨリ七年ニ止ル徒罪ニ處シ或ハ入獄ニ處シ若クハ苦役ヲ加  
 フ  
 若シ其餘ノ官司ニ盟詞ヲ爲シ事ヲ告ルニ實ヲ以テセサル者モ罪亦同シ  
 若シ人ヲ教唆シア盟ヲ爲サシメ實ヲ告ケサラシムル者モ罪亦同シ

埃及刑法

第二百六十條 何人ニ限ラス重罪ノ訴訟ニ付キ其被告人ヲ枉害スル爲メ  
 又ハ之ヲ曲庇スル爲メ偽證ヲ述ヘタル者ハ有期ノ徒刑ニ處セラル可シ  
 第二百六十一條 若シ重罪ノ被告人其偽證ノ爲メ有期ノ徒刑ヨリ更ニ重  
 キ刑ニ處セラレタル時ハ其偽證ヲ述ヘタル犯人ノレト同一ノ刑ニ處セ  
 ラル可シ

第二百六十二條 何人ニ限ラス輕罪又ハ註誤ノ訴訟ニ付キ其被告人ヲ枉  
 害スル爲メ又ハ之ヲ曲庇スル爲メ偽證ヲ述ヘタル者ハ一月ヨリ少ナカ  
 ラス五月ヨリ多カラサル時間禁錮ノ刑ニ處セラル可シ  
 第二百六十三條 民法上ノ事ニ付キ偽證ヲ述ヘシ者ハ六月以上一年以下  
 ノ禁錮ニ處ス

第二百六十四條 偽證ヲ述ヘタル者之レカ爲メ金高又ハ酬謝ヲ受ケ或ハ  
 約束ヲ爲シタル時ハ其贈遺物又ハ約束ニ當レル罰金ヲ言渡サレ且ツ其  
 贈遺又ハ約束ヲ爲シタル者竝ニ之ヲ受ケタル者ハ共ニ同シク納賄ノ刑



ニ處セラル可シ

六四六

### 奧太利刑法

第二百四條 偽誓ヲ作り以テ詐僞ノ重罪ヲ犯ス者ハ(第九十九條イ)以下ノ如キ(第二百二條及ヒ第二百三條ニ掲ケタル時間重徒刑ニ處ス可シ然レトモ其偽誓ヲ以テ甚シキ巨害ヲ生セシムルニ於テハ終身重徒刑ニ處スルコトアル可シ

### 魯西亞刑法

第一千六十八條 誓詞ヲ爲シテ間糺サルル證人裁判所ニ於テ偽證ヲ述フル時ハ第二百五十八條乃至第二百六十二條ニ據テ刑セラル可シ  
其從事セル職務或ハ遵奉セル宗教ノ故其他凡ソ法律ニ於テ他人ヨリ誓詞ヲ促サルルト雖モ之ヲ爲サスシテ能ク陳述スヘキ權アル身分ノ者裁判所ニ於テ偽證ヲ陳フルトキハ同上ノ刑ニ處セラル可シ  
他人ヲ教唆シテ偽證ヲナサシムル者ハ教唆ノ罪トシ(第二百六條ニ從テ)刑セラル可シ

### 第一千六十九條

誓詞ヲ爲サス裁判所ニ於テ不實ノ陳述ヲナス者ハ情狀ニ從テ三週以上三月以下ノ禁錮或ハ三月以上六月以下ノ禁獄ノ刑トス然レトモ收賂其他私欲ノ爲メニ裁判所ニ於テ故ラニ偽證ヲ陳フル者ハ(第二百五十八條第二百五十九條及ヒ第二百六十二條ニ從テ)之ヲ刑スヘシ

### 第一千七十條

誓詞ヲ爲サ、ル證人若シ被告人ノ死傷或ハ近親ナル時之ヲ釋放セシム可キ目的ヲ以テ裁判所ニ於テ偽證ヲ陳フルトキハ三日以上七日以下ノ禁錮ノ刑ニ處セラル可シ

### 第一千七十一條

其他ニ就テ間糺サルル時偽事ヲ陳フル者ハ左ノ規則ヲ以テ刑セラル可シ

(一) 單ニ其陳述上ニ於テハ不實ナシト雖モ自他多少見聞セル景況ヲ隱蔽スル者ハ七日以上三週以下ノ禁錮

(二) 其知リタル事件ヲ固ク執テ不知ト言立ツル者ハ三週以上三月以下

### 禁錮



(三) 故ラニ全ク不實ヲ陳述スル者ハ三月以上六月以下禁錮  
印度刑法

第九十一條 法ニ於テ誓詞又ハ法ノ明文ニ因テ事實ヲ陳スル責ヲ受ケ  
或ハ法ニ於テ事ヲ告クルノ責アル者其實ナラサルヲ知テ之ヲ陳告スル  
之ヲ偽證ト云フ

證明一、此條ノ陳告ハ文書或ハ言詞ヲ以テスルニ拘ハラズ

證明二、證人ノ信用ニ係ル詐偽ノ陳告ハ此條ニ含ム而シテ人其信セサ  
ル事ヲ信スト陳スルモ其知ラサル事ヲ知ルト陳スルモ同ク偽證ノ罪ナ  
リ

第九十二條 事情ヲ設ケ或ハ帳簿記録ニ偽ヲ登記シ或ハ偽言ヲ載スル  
文書ヲ作り以テ裁判所又ハ其他官吏或ハ私裁人ノ面前ニ之ヲ憑證トナ  
シ以テ緊要ナル事ニ付テ其意見ヲ誤ラセント圖ル之ヲ稱シテ偽證ヲ造  
ルト云フ

第九十三條 故意ニ裁判手續中ニ偽證ヲ申陳シ或ハ裁判手續中ニ之ヲ

用フルヲ圖テ偽證ヲ造ル者ハ七年ニ止ル各種ノ入獄及ヒ贖金ニ處シ若  
シ裁判手續中ニ非ラスシテ偽證ヲ申陳シ或ハ偽證ヲ作ル者ハ三年ニ止  
ル各種ノ入獄及ヒ贖金ニ處スヘシ

說明一、軍事裁判所ノ審問モ裁判手續ナリ

說明二、裁判所ニ於ケル手續ニ先チ裁判所外ノ審査モ亦裁判手續ノ一  
段ナリ

說明三、法ニ從ヒ裁判所ノ令スル所ノ審査ハ縱令裁判所外ニ在ルト雖  
モ裁判手續ノ一段ナリ

第九十四條 因テ人ヲ死罪ニ斷セラレシメント圖リ又ハ其因テ人ヲ死  
罪ニ斷セシムルニ至ルヲ知テ偽證ヲ陳シ或ハ偽證ヲ造ル者ハ終身流又  
ハ十年ニ止ル加苦役入獄ニ處シ贖金ヲ科スヘシ無辜ノ人死刑ニ判斷處  
決セラルトキハ死刑又ハ上ニ記載スル刑ニ處スヘシ(千八百七十年決  
議第二十七第二第六第七條ヲ見ヨ)

第九十五條 人ヲ終身流若クハ七年以上ノ入獄ニ處スヘキ罪ニ斷セラ  
刑法釋義 第二編 四  
六四九



レシムルヲ圖リ又ハ其因テ人ヲ其罪ニ斷セシムルニ至ルヲ知テ偽證ヲ陳シ或ハ偽證ヲ造ル者ハ反坐ス(一千八百七十年決議第二十七條第二條第七條ヲ見ヨ)

米國刑法

第五千三百九十二條 實ヲ陳セント誓テ知ナカラ不實ヲ陳スル者ハ背誓ノ罪トシ二千弗以下ノ贖金及五年以下ノ加苦役入獄ニ處シ且裁判所ニ於テ證ヲ立ツルヲ禁ス

土耳其刑法

第二百七條 何人ニ限ラス重罪ニ付被告人ヲ害シ又ハ利スヘキ偽證ヲ述ヘシ者ハ公ケニ肆スノ刑ヲ附加セル有期ノ徒刑ニ處ス可シ  
若シ被告人偽證ノ爲メ有期ノ徒刑ヨリ更ニ重キ刑ニ處セラレタル時ハ其被告人ヲ害ス可キ偽證ヲ述ヘシ者ハ同一ノ刑ニ處スヘシ  
第二百八條 懲治罪又ハ違警罪ニ付被告人ヲ害シ又ハ利スヘキ偽證ノ罪ヲ犯シタル者ハ一月ヨリ少ナカラス五月ヨリ多カラサル禁錮ニ處ス可シ

シ

第二百九條 民事ニ付偽證ヲ爲シタル者ハ六月ヨリ少ナカラス一年ヨリ多カラサル禁錮ニ處ス可シ

第二百十條 金額ヲ受收シテ偽證ヲ述ヘタル者ハ其受收シタル金額ニ等シキ罰金ヲ科ス且雙方ヲ其收賄ノ罪ノ爲メニ定メタル刑ニ處ス可シ

和蘭刑法

第二百七條 法律ノ規定カ宣誓ヲ以テ確信シタル陳述ヲ必要トシ又ハ其陳述ニ法律上ノ特定ノ結果ヲ付スル場合ニ於テ自身ニ又ハ其特別ノ代人ヲ以テ口頭又ハ書面ニテ宣誓ノ上虛偽ノ陳述ヲ爲シタル者ハ六年以下ノ禁錮ニ處ス

刑事々件ニ於テ被告人又ハ嫌疑ヲ受ケタル人ヲ害シテ偽誓ヲ爲シタルトキハ犯人ヲ九年以下ノ禁錮ニ處ス

法律ニ依リ宣誓ニ代用スル約束又ハ確言ハ宣誓ト看做ス

第二十八條第一項乃至第四項ニ列舉シタル權利ノ剝奪ヲ宣告スルコト



ヲ得

那威刑法

第六十三條 裁判所ニ於テ宣誓ヲ經テ虚偽ノ陳述ヲ爲シタル者ニハ六月乃至八年ノ禁錮ヲ科刑ス

法律上宣誓ヲ命シ得ル限リハ裁判所外ニ於テ宣誓ヲ經テ虚偽ノ陳述ヲ爲シタル者ニモ亦同一ニ科刑ス可シ

第六十四條 既濟ノ宣誓ヲ指呼シテ爲シタル陳述ハ宣誓シテ爲シタル陳述ト之ヲ同視ス

法律上宣誓ニ代ヘタル確保ハ之ヲ宣誓ト同視ス

第六十五條 第六十三條ノ刑ハ同條ニ記載シタル場合ニ於テ不實ナルコトヲ覺知スルニ拘ハラズ他人ヲシテ宣誓シテ陳述ヲ爲サシメタル者又ハ其協力者ニモ亦之ヲ科ス

第六十六條 陳述ノ義務ヲ負フ場合ニ於テ裁判所又ハ公證人ニ對シテハ口頭又ハ書面ニ依リ公ノ官廳ニ對シ虚偽ノ陳述ヲ爲シタル者ニハ二

年以下ノ禁錮ヲ科刑ス減輕ス可キ場合アルトキハ金刑ヲ適用スルコトヲ得

前述シタル場合ニ於テ不實ナルコトヲ覺知スルニ拘ハラズ他人ヲシテ陳述ヲ爲サシメタル者又ハ其協力者ニハ同一ニ科刑ス

第六十七條 被罪者刑事手續ニ於テ虚偽ノ陳述ヲ爲シタルトキハ第六十三條及ヒ第六十六條ニ依ル科刑ヲ爲サス

自己又ハ親屬科刑ヲ受ケ又ハ名望ヲ喪失スル虞アルニ因リテ眞實ヲ陳述シ難キ場合ニ於テ宣誓ヲ經スシテ虚偽ノ陳述ヲ爲シタル者モ亦同シ  
第二項ノ場合ニ於テ宣誓ヲ經テ虚偽ノ陳述ヲ爲シタルトキハ五年以下ノ禁錮ヲ科ス

埃太利刑法草案

第五十九條 何人タリトモ眞實ナル供述ヲ裁判所又ハ他ノ宣誓ヲ爲サシムル權アル官廳又ハ其委託ヲ受ケタル仲裁人ノ前ニ於テ宣誓ヲ以テ確メ又ハ前ニ宣誓ヲ爲シテ斯ル供述ヲ爲シタル者ハ偽證ノ罰アルモノ



トシテ五年以下ノ懲役又ハ三月ヨリ少ナカラサル禁錮ヲ以テ處刑セラ  
ルルモノトス其ノ他自己又ハ他人ニ財産上ノ利益ヲ得又ハ得サラシム  
ル爲メ偽誓ヲ爲シタル者ハ五千「フロラン」以下ノ罰金ヲ言渡スヲ得ルモ  
ノトス

其ノ奉スル宗教ニ仍リ宣誓ヲ爲スコトヲ許サレタルモノト認メタル者  
ハ法律ニ從ヒ判事カ眞實供述ノ保證トスルヲ許シタル拍手ハ宣誓ト同  
一ニ看做サルルモノトス

第六十條 何人タリトモ裁判所又ハ仲裁人ノ前ニ於テ宣誓ヲ爲サスシ  
テ詐欺ノ證言詐欺ノ報告又ハ詐欺ノ鑑定ヲ爲シタル者ハ禁錮ヲ以テ處  
刑セララルモノトス

辯護士又ハ公證人又ハ官職若クハ公職ヲ有スル者ニ對スル懲戒訊問ニ  
於テ爲シタル詐欺ノ供述ニモ亦此刑ヲ適用スルモノトス

第六十一條 刑事ニ於テ被罪者ノ不利益ノ爲メ偽誓又ハ詐欺ノ供述ヲ  
爲シタルトキハ十年以下ノ懲役ヲ言渡ス可キモノトス

偽誓ノ場合ニ於テ若シ被罪者カ懲役又ハ其他ノ三年ヲ起ユル自由刑又  
ハ之ヨリ重キ刑ヲ言渡サレタルトキハ偽誓者ハ三年ヨリ少ナカラサル  
懲役ヲ以テ處刑セララルモノトス

被罪者カ全ク無罪トナルカ又ハ唯違警罪ヲ言渡サルルカ又ハ偽誓又ハ  
詐欺ノ供述カ裁判ノ上ニ一モ影響ヲ及ホササルコト明白ナルトキハ懲  
役五年以下又ハ禁錮ニ處ス但偽誓ノ場合ニ於テハ一年詐欺ノ供述ノ場  
合ニ於テハ六月ヨリ少ナキコトヲ得サルモノトス

罰金ニ關スル第六十條ノ規定ハ又這般ノ場合ニモ適用セララルモノ  
トス

第六十二條 若シ被罪者カ詐欺ノ供述ヲ爲シタル事件ニ關スル裁判前  
又ハ之ニ依リ他人ニ損害ヲ被ラシムル前其他其供述ノ詐欺ナルコトヲ  
發覺セララルノ前乃チ己レニ對シテ其鑿穿ヲ開始セララル前ニ之ヲ取  
消シタルトキハ第六十條乃至第六十二條ニ記載セル詐欺ノ供述ハ  
處刑セララルモノトス



第六十三條 左ノ場合ニ於テハ第六十條乃至第六十一條ニ記載シタル詐欺ノ供述ハ三月以下ノ禁錮ニ處セラルルモノトス

第一 眞實ヲ述フルトキハ己レ自ラ又ハ己レト刑事訴訟法第五百十二條第一號ニ記載シタル關係アル者ニ重罪又ハ輕罪ノ糺罪又ハ有罪判決ヲ來ス可キノ事情アリテ止ムヲ得ス犯罪者カ詐欺ノ供述ヲナシタルトキ

第二 第六十三條ノ場合ノ外其詐ナルコトヲ發覺セラルル前乃チ己レニ對シテ鑿穿ヲ開始セラルル前犯罪者カ其詐欺ノ供述ヲ取消シタルトキ但シ此ノ取消シニ依テ他人ニ不法ノ損害ヲ除去シタルトキニ限ル

第六十四條 犯罪者ニ不利ナル詐欺ノ供述ヲナシ(第六十條乃至第六十二條之ニ自由刑ヲ受ケシメタルトキハ詐欺ノ供述ニ依テナシタル罰ス可キ所爲ノ時効ハ其ノ自由刑ノ執行ヲ終リタル後チ又ハ消滅シタル後チ始メテ始マルモノトス

第六十五條 第六十條第六十一條及ヒ第六十二條ニ記載シタル所爲ヲ過失ニ依テ行フタルトキハ六月以下ノ禁錮又ハ五百フロリン以下ノ罰金ニ處スルモノトス

第六十三條ノ規定ハ又此場合ニモ適用スルモノトス

第六十六條 何人タリトモ他人ヲシテ第六十條乃至第六十二條ニ記載シタル罰ス可キ所爲ノ一ヲ行ハシメントシタル者ハ若シ其罰ス可キ所爲カ其ノ働キニ依ルニアラスシテ止メラレタルトキハ懲役五年以下又ハ禁錮ヲ以テ處刑セラルルモノトス且自己又ハ他人ニ不法ノ財産上ノ利益ヲ得又ハ得セシムル爲メ此教唆ヲ爲シタル者ニハ前記ノ刑ト共ニ千フロリン以下ノ罰金ヲ附加スルコトヲ得ルモノトス

第六十七條 第六十條乃至第六十二條第六十六條又ハ第六十九條ニ記載シタル所爲ノタメニ刑ヲ言渡サレタルトキハ同時ニ被害者ニ犯罪者ノ費用ヲ以テ其判決ヲ廣告スルノ權利ヲ言渡スモノトス又廣告ノ方法竝ニ其期間ハ判決ヲ以テ之ヲ定ム可キモノトス



第九十六條 裁判手續ニ於テ證人トシテ情ヲ知リ虛偽ノ供述ヲ爲シ又ハ鑑定人トシテ良知ニ反シ虛偽ノ鑑定又ハ虛偽ノ報告ヲ爲シ又ハ通譯トシテ情ヲ知リ虛偽ノ翻譯ヲ爲シタル者ニハ六月以上ノ禁錮又ハ八年以下ノ懲役ヲ科刑ス自由刑ニハ五千フランクノ罰金ヲ併科スルコトヲ得

證人其虛偽ノ證言ヲ鑑定人其虛偽ノ鑑定又ハ其虛偽ノ報告ヲ通譯人其虛偽ノ翻譯ヲ自己ノ行爲ニ付キ刑事通告ヲ受クル前且ツ刑事其證言鑑定報告又ハ翻譯ヲ其判決ノ基礎ト爲ササル前正誤シタルトキハ判事ハ自由ノ心證ニ從ヒ其刑ヲ減輕シ又ハ免除スルコトヲ得

第九十七條

證人ヲ虛偽ノ證言ニ鑑定人ヲ虛偽ノ鑑定又ハ報告ニ通譯人ヲ虛偽ノ翻譯ニ誑誘センコトヲ計畫シタル者ニハ三月以上ノ禁錮又ハ二年以下ノ懲役ヲ科刑ス自由刑ニハ二千フランク以下ノ罰金ヲ併科スルコトヲ得

第九十八條

裁判手續ニ於テ過失ニ依リ證人トシテ虛偽ノ供述ヲ爲シ又ハ鑑定人トシテ虛偽ノ鑑定又ハ報告ヲ爲シ又ハ通譯人トシテ虛偽ノ翻譯ヲ爲シタル者ニハ禁錮又ハ五千フランク以下ノ罰金ヲ科刑ス

第三

釋義

本章ハ舊刑法第二編第四章第六節ノ規定ニ修正ヲ加ヘタルモノニシテ今其主要ナル修正ノ點ヲ列舉スレハ左ノ如シ

第一 舊刑法ハ刑事ニ關スル證人ト民事商事又ハ行政裁判ニ關スル證人トヲ區別スト雖モ畢竟僞證シタル刑事ノ證人ニ對シ科スヘキ刑ニ付キ詳細ナル區別ヲ爲シタル結果ニ過キス本法ハ次ニ説明スル如ク刑事ニ關スル證人ノ僞證ニ科スヘキ刑ヲ變更シタルヲ以テ刑事ト他ノ民事商事又ハ行政事件トヲ區別スルノ必要消滅シタリ是ヲ以テ司法裁判所ニ於テスルト行政裁判所ニ於テスルト又ハ其他ノ特別裁判所ニ於テスルトヲ問ハス證人トシテ僞證シタル場合ニ關シ同一ノ規定ヲ設ケタルモノノ如シ

第二 舊刑法ハ刑事ニ關スル僞證ヲ分チ被告人ヲ曲庇スル目的ニ出テタルモノト之ヲ陷害スル目的ニ出テタルモノトニ區別シ其刑ヲ異ニシ又僞證



ニ因リ被告人正當ノ刑ヲ免カレタル場合ハ曲庇ノ刑ニ一等ヲ加重シ或ハ偽證ノ爲メ被告人刑ニ處セラレタル場合ニ在テハ反坐ノ刑ヲ科スル等罪ノ情狀ニ因リ細密ナル規定ヲ設クト雖モ爲メニ却テ適用上ノ不便ヲ來タシ疑義ヲ生スルコト少ナカラス本法ハ此弊ヲ避ケン爲メ總テ此等ノ情狀ハ之ヲ裁判所ノ認定ニ一任シテ適宜ノ刑ヲ科セシメンコトヲ期シ此等煩雜ナル規定ハ全ク之ヲ削除シタルモノノ如シ

第三 現行法第二百二十五條ハ偽證ノ教唆ノ場合ナルヲ以テ本法ハ之ヲ總則ノ規定ニ讓リ削除シタルモノノ如シ

本法カ偽證罪ヲ認メタル所以ノモノハ從來各學者ノ唱道スル如ク畢竟事實ノ真相ヲ闡明シ裁判ノ正鵠ヲ得セシメントスルノ目的ニ出テタルモノニシテ有限ノ司法機關ヲ以テ無限ノ司法事務ヲ取扱フニ當テハ勢ヒ普通人民ノ認識ヲ頼ムノ已ヲ得サルノ事情アルヲ以テナリ

左ニ各本條修正ノ理由ヲ説明シ以テ其意義ヲ明ニスヘシ  
第六十九條ハ舊刑法第二百十八條乃至第二百二十三條ノ規定ヲ修正シタ

ルモノニシテ前既ニ説明シタル如ク本法ハ刑事裁判所ニ於テスルト他ノ裁判所ニ於テスルトヲ問ハス凡テ虛偽ノ陳述ヲ爲シタル者ヲ處罰スルノ方針ヲ執リタルヲ以テ刑事ノ偽證ニ付テモ詳細ナル規定ヲ廢棄シ總テ裁判所ヲシテ情狀ニ因リ刑ヲ定メシムルコト爲シタリ而シテ本條ハ廣ク法律ニ依リ宣誓シタル證人ト規定シタルカ故ニ司法裁判所、行政裁判所又ハ其他ノ裁判所ノ命ニ因リ宣誓シテ證人ト爲リタル者カ虛偽ノ陳述ヲ爲シタルトキハ悉ク之ヲ處罰スルノ意義ヲ明カニシタルモノナレハ各種ノ情狀ヲ包含スル極メテ廣汎ナル條文ナレハ隨テ刑ノ範圍モ亦十分ニ之ヲ擴張シ裁判所ヲシテ自由ニ適當ノ刑ヲ科セシムルコトト爲シタルモノノ如シ

第七十條ハ舊刑法第二百二十六條ノ趣旨ヲ少シク修正シタルモノナリ即チ舊刑法ハ其事件ノ裁判宣告前自首シタルトキハ本刑ヲ免スルコトト爲シタレトモ本法ハ其事件ノ裁判確定前又ハ懲戒處分前被告人カ偽證シタルコトヲ自首スレハ其刑ヲ減輕又ハ免除スルコトヲ得ト修正シ一方ニ於テハ自首ヲ自白ト修正シ以テ刑ヲ減輕スヘキ場合ヲ多クシ一方ニ於テハ自首以外



ノ自白ニモ恩典ヲ及ホスヲ以テ必ス本刑ヲ免除スル法制ヲ採ラサリシモノ  
ノ如シ

第七十一條ハ舊刑法第二百二十四條ト全ク同一趣旨ノ規定ニシテ別ニ説  
明ヲ加フルノ要ヲ見ス

第四 疑問及説明

宣誓シテ證人ト爲ル資格ナキ者カ誤テ證人ト爲リ虚偽ノ陳述ヲ爲シタルト  
キハ偽證罪ヲ成立スルヤ  
宣誓シテ證人ト爲リタル以上ハ固ヨリ處罰スルヲ妨ケサルヘシ

第二十一章 誣告ノ罪

第七十二條 人ヲシテ刑事又ハ懲戒ノ處分ヲ受ケシムル目  
的ヲ以テ虚偽ノ申告ヲ爲シタル者ハ第六十九條ノ例ニ同  
シ

第七十三條 前條ノ罪ヲ犯シタル者申告シタル事件ノ裁判

確定前又ハ懲戒處分前自白シタルトキハ其罪ヲ減輕又ハ免  
除スルコトヲ得

第一 沿革

第一案 第七十六條 人ヲ罪ニ陷ルルノ意ヲ以テ不實ノ事ヲ告訴告發シ  
タル者ハ誣告ノ罪ト爲シ二月以上三年以下ノ有役禁錮及ヒ五圓  
以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

子孫其父母祖父母ニ對シ本條ノ罪ヲ犯シタル者ハ一等ヲ加フ  
第七十七條 誣告ヲ爲シタル者被害者ニ對シ未タ訴追ノ始マラ  
サル前ニ於テ其告訴告發ヲ取消シタルトキハ本刑ヲ免ス

第二案 第二百一條 人ヲシテ刑事又ハ懲戒ノ處分ヲ受ケシムル目的ヲ以  
テ不實ノ申告ヲ爲シタル者ハ第九十七條及ヒ第二百條ノ例ニ  
依ル

第二百二條 前條ノ罪ヲ犯シタル者申告シタル事件ノ裁判確定前  
又ハ懲戒處分前自白シタルトキハ其刑ヲ減輕又ハ免除スルコト



ヲ得

第三案 第二案ニ同シ

第四案 第二百條 人ヲシテ刑事事又ハ懲戒ノ處分ヲ受ケシムル目的ヲ以テ

虚偽ノ申告ヲ爲シタル者ハ第九十六條及ヒ第九十九條ノ例

ニ依リ處斷ス

第二百一條 第二案第二百二條ニ同シ

第二 參照法律

佛蘭西刑法

第三百七十三條 裁判官吏又ハ行政警察官又ハ司法警察官ニ一人又ハ數

人ヲ讒訴スル書面ヲ出セシ者ハ一月ヨリ少カラス一年ヨリ多カラサル

時間禁錮ノ刑ニ處セラレ且百フランクヨリ少カラス三千フランクヨリ

多カラサル罰金ノ言渡ヲ受ク可シ

第三百七十六條 第三百七十三條ニ記シタル如ク重劇ニシテ且公ケナラ

ナル誣罔ハ誣誤ノ刑ノミヲ以テ罰セラル可シ

白耳義刑法

第四百四十三條

左條ニ記載スル如ク事實ヲ舉ケ人ヲ讒シ其名譽ヲ失フ

コトヲ致ス而テ法律之レカ證ヲ爲スヲ許シ其確證無キ者ハ讒告ヲ以テ

論シ又法律之レカ證ヲ爲スヲ許ス可カラサル者ハ誣罔ヲ以テ論ス可シ

(讒告ニハ二種アリ一ハ告ケル所ノ事跡ヲ證スルヲ許ス例ハハ貨幣製造

ナシ等總テアリ一ハ告ケル所ノ事跡ヲ證スルヲ許ス例ハハ貨幣製造

レハ之カ證ヲ爲ス例ハハ貨幣製造ナシ等總テアリ一ハ告ケル所ノ事跡ヲ證スルヲ許ス例ハハ貨幣製造

第四百四十五條 左ノ犯者ハ十五日ヨリ六月マテノ獄ニ處シ五十フラン

クヨリ一千フランク迄ノ罰金ヲ科ス可シ

文書ヲ以テ人ヲ官ニ讒訴スル者

文書ヲ以テ人ヲ其所屬ノ長官ニ讒告スル者

第四百四十六條 諸會院(議院會社等總テ公事)ヲ讒告シ若クハ誣罔スル者

ハ人ヲ讒告誣罔スル者ト同罪トス

第四百四十七條 諸官吏及ヒ會院等ヲ其公事得公務ヲ舉ケ讒告スル者ハ

法律ニ於テ其事ノ確證ヲ立ルヲ許シ又讒告ヲ被ル者モ其事ノ否ナルヲ



證スルヲ許ス可シ

若シ私事ヲ以テ讒告スル者ハ唯裁判及ヒ官ノ處置ニ依テ證スルヲ得ル  
ノミ他ノ狀ヲ具スルヲ許サス

若シ其讒告スル所官ヨリ搜索ス可ク未タ確證ヲ得サル事タレハ官ノ裁  
判ヲ爲スマテ讒告ノ犯ヲ問ハス

第四百五十條 本章ニ記載スル輕罪中讒訴ヲ除クノ外ハ唯其誣罔讒告ヲ  
被ムル者ノ訴フルヲ待テ刑ニ處ス可シ

若シ讒告誣罔ヲ被ル者之ヲ訴ヘ其否ヲ證セント欲シ果サスシテ死スル  
歟若クハ已ニ死セル人ヲ讒誣スルトキハ死去ノ夫妻或ハ卑族ノ親第三  
等ニ至ルマテノ者ノ訴フルニ非サレハ讒者ヲ究問スルコトヲ得ス

獨乙刑法

第六十四條 告訴スヘキ事ノ虛偽タルヲ知リテ人ニ處決スヘキ所業ア  
リ又其職務タル義務ニ背キタル事アリト官廳ヘ告訴シタル者ハ一月ヨ  
リ短カラナル禁獄ニ處シ其餘公權ヲ剝奪ス可シ

其告訴シタル事ニ付キ未タ鞫問ヲ終ラサル間ハ虛偽ノ告訴ヲ以テ論ス  
可カラス

第六十五條 虛偽ノ告訴ニ付處決サレタル時ハ裁判所ヨリ其害ヲ被ム  
リタル人(原告人)ニ其犯人(被告人)ノ費用ヲ以テ其刑名宣告書ヲ公布スル  
コトヲ聽ルシ其公布ノ方法竝ニ其時間等ハ宣告書ヲ以テ定ム可シ

西亞刑法

第二十七條 公廳或ハ官吏ニ書面ヲ呈シテ某甲或ハ其婦若クハ某家族  
ノ罪ヲ犯セシト誣告スル者ハ其空架セル罪事及ヒ其他ノ情狀ニ從テ三  
月以上一年以下ノ禁獄ニ處セラレ且ツ第六十一條ノ規則ニ從テ被害者  
ニ對シ謝罪ヲ請ハシメ竝ニ被害者ノ望ミニ任セ榮譽損害ノ償(第二千八  
條)ヲ言渡サル可シ

埃太利刑法

第二百九條 他人ノ重罪ヲ官廳ヘ誣告シ或ハ糺彈若クハ吟味ノ原因ト爲



ルヘク他人ニ罪ヲ歸スル者ハ讒謗ノ重罪ヲ犯スト爲ス

第二百十條 讒謗ノ刑ハ大抵一年以上五年以下ノ重徒刑トス然レトモ左ノ場合ニ於テハ十年ニ至ルコトヲ得ヘシ

- (イ) 讒謗者其言ヲ信用セシメン爲メ特ニ偽計ヲ用ヒシカ或ハ
- (ロ) 其讒謗ヲ以テ被讒謗者ニ甚シキ危険ヲ生セシメ或ハ
- (ハ) 傭丁一族間又ハ指令下ノ者其主長ニ對セル讒謗或ハ官吏其官廳ニ於テ讒謗ヲ爲セシトキ

埃及刑法

第二百六十七條 公ケノ場所或ハ公ケノ集會場ニ於テ發シタル言詞ニ因リ又ハ印刷シタルト否トヲ問ハス處々ニ貼附シ或ハ分配シタル書面ニ因リ偽テ刑罰ヲ受ケシム可キ事柄ヲ人ニ歸シ又ハ衆庶ノ賤辱ヲ受ケシム可キ事柄ヲ人ニ歸シ又ハ惡意ヲ以テ國ノ官吏ニ此類ノ事柄ヲ歸シタル者ハ讒謗ノ罪アリト爲ス可シ

平民ニ此類ノ事柄ヲ歸セシ時ハ其事柄ノ有無ノ證ヲ立ツル事ヲ許サス

第二百六十八條 讒訴ノ罪ヲ犯セシ本人及ヒ其同罪人ハ其讒訴ノ重罪タル可キ事柄ヲ人ニ歸スル時ハ一年ヨリ少ナカラス三年ヨリ多カラサル

時間禁錮ノ刑ニ處セラレ其他ノ類ノ事柄ヲ人ニ歸スル時ハ一月ヨリ少ナカラス六月ヨリ多カラサル時間禁錮ノ刑ニ處セラル可シ

第二百六十九條 惡意ナク正實ノ意ヲ以テ刑法ニ據リ罰ス可キ事柄ヲ司法官吏ニ告訴シタル者ニハ前條ノ刑ヲ適用ス可カラス

第二百七十條 然レトモ惡意詐僞ヲ以テ前條ニ記シタル類ノ事柄ヲ誣告セシ時ハ縱令其告訴ノ外ニ公ケニ讒訴スルコトナシト雖モ其犯人ヲ刑ニ處ス可シ

印度刑法

第二百一十一條 人ニ害ヲ被ラサルノ意ヲ以テ其人ニ對シ刑事ノ處分ヲ爲シ又ハ之ヲ爲サシメ或ハ其人ノ罪ヲ犯シタリト誣告スル者ハ二年ニ止ル各種ノ入獄若クハ贖金ニ處シ又ハ入獄贖金ヲ併科ス若シ其刑事ノ處分ヲ以テ誣告スル所ノ罪死刑終身流若クハ七年以上ノ入獄ニ當ル時ハ



七年ニ止ル各種ノ入獄及ヒ贖金ニ處ス可シ

土耳其刑法

第二百十三條 公衆ノ前ニ於テ演說シ或ハ書面ヲ貼付分配セシメ人ヲ讒毀シ事實ノ存スルカ爲メ人ヲシテ法律上ノ刑ヲ受ケシメ又ハ公衆ノ誹謗ヲ招キ或ハ惡意ヲ以テ官吏ヲ讒毀シタル者ハ誣告ノ輕罪ヲ犯シタルモノト爲ス

其犯人誣告ノ證判然タルニ於テハ讒毀セラレタル者ノ事實相違ナキカ爲メ罹リタル刑ニ處セラレ可シ但シ法律規則ノ定例ニ從ヒ事實ヲ官ニ告ケ及ヒ裁判所ニ人ヲ訴ル場合ハ此規則ヲ用ユヘカラス

羅馬法

誣告ノ狹キ意味ハ無罪ナル者ヲ惡意ヲ以テ告訴スルコトヲ云フ此誣告ヲ禦ク爲メニハ古ヘヨリ告訴人ニ誣告セストノ誓ヲ爲サシムルコトニシテ被告人ハ之レヲ要求スルノ權アリ此誓ヲ爲シタルモノハ裁判ノ終リニ於テ誣告者タルコトノ發露スルトキハ誣告ノ罰ヲ受ク可シ民事ニ付詐僞ノ

訴訟ハ罰金ナルモ刑事ノ誣告ハ法官奏議ニ名譽ヲ奪フノ刑ナリトス然ルニ其犯罪ノ漸次夥多ナルニヨリ一層重ク罰セサルヲ得サルニ至リ因テレムミア法ニハ誣告者ノ額ヒニ五(カ)ル(ミ)ナト(ル)字ノ烙印ヲ捺捺シ且再ヒ告訴人ト爲ルコトヲ得ルノ名譽ヲ奪フ刑ヲ附加セリ  
誣告ノ發企人補助人トモ誣告者ト同罪タリ然レトモ後代ノ帝ハ補助人ノ罰ヲ輕減シグラチアン(ワ)ーレン(ン)ノ如キハ名譽ヲ奪フ刑及ヒ重追放トセリ然レトモユスチニアン(法)書中ニハ之レヲ輕減シ名譽ヲ奪フ刑ノミヲ存セリ  
レムニア法ノ烙印ノ刑ハ直チニ廢棄シ名譽ヲ奪フ刑ハ常ニ存セリ他ノ罰ハ甚タ種々ナリシモ遂ニタリヲ刑ヲ本刑トシアウグストウス(ハ)再三ノ告訴人ハ被告人ニ當ツヘキ罰ニ反坐スルノ責メ勿ル可カラストセリ即チ之ヲ死刑(磔)罪及ヒ火刑サヘモニ處シタルコトアリ又財産沒收及ヒ官職褫奪ヲ爲シタルコトアリチトウス(ノ)如キハ土地ヲ限ル種々ナル追放身體ノ懲戒及ヒ奴隸ニ鬻クコトヲ以テ罰セリ



唐律

諸誣告謀反及大逆者斬從者絞若事害不審原情非誣者上請若告謀大逆謀叛不審者亦如之

諸誣告人者各反坐即許彈之官挾私彈事不事實者亦如之

若告二罪以上重事實及數事等但一事實除其罪重事虛反其所剩即罪至所止者所誣雖不反坐

其告二人以上雖實者多猶以虛者反坐

若上表告人已經聞奏事有不實反坐罪輕者從上書詐不實論

諸告小事虛而獄官因其告檢得重事及事業者若類其事則除其罪離其事則依

誣論

諸誣告人流罪以下前人未加拷掠而告人引虛者減一等若前人已拷者不減即

掠證人亦是謂告親尊長外祖父母夫之祖父母及叔姪部曲誣告主之期親外祖父母者雖虛各不減

明律

凡誣告人答罪者加所誣罪二等流徒杖罪加所誣罪三等各罪止杖一百流三千

里所誣徒罪人已役流罪人已配金經政正放回贖日於犯人名下追徵用過路費給還若曾經典賣田宅者著落犯人備價取贖因而致死隨行有服被親屬一人者絞將犯人財產一半所付被誣之人至死罪所誣之人已決者反坐以死未決者杖一百流三千里加役三年

其犯人如果貧乏無可備償路費取贖田宅亦無財產即付者止科其罪

其被誣之人詐冒不實反誣犯人者亦摠所誣之罪犯人止反坐本罪若告二事以上重事實輕事招虛及數事罪此等但一事告實者皆免罪

若告二事以上輕事實重事招虛或與一事誣輕為重者皆反坐所剩若已於決金撻剩罪未論決笞杖收贖徒流止杖一百余罪亦就收贖至死罪而所誣之人已決者反坐以死未決者止杖一百流三千里

凡為人作詞狀增減情罪誣告人者與犯人同罪若受雇誣告人者與自誣告同受財者計贓以枉法從重論其見人恐而不能伸冤致全得實及為人書寫詞狀而罪無增減者勿論

凡誣告充軍者民告隨充軍役軍告發邊遠充軍



凡因在禁誣指平人者以誣告人論其本犯罪重者從重論  
清律

凡誣告充軍者照所誣地里遠近摺充軍役

誣告人罪應遷往者於流減半准徒二年上加所誣罪三等竝人所將杖罪通論  
余悉與明律同

第三 釋義 本章ハ舊刑法第三編第一章第十二節中誣告ノ罪ノ規定ニ少シク  
修正ヲ加ヘラレタルノミニシテ舊刑法ニ於テハ人ヲシテ行政上ノ懲戒處分  
ヲ受ケシムル爲メノ誣告ニ關スル規定ヲ缺クヲ以テ本法ハ此欠點ヲ補充シ  
タリ又本章ノ位置ヲ變更シタルハ誣告ノ罪ハ主トシテ信用ニ關スルモノニ  
シテ身體ニ對スルハ寧ロ本罪ノ結果ニ過キサレハナリ  
本章ノ罪ハ偽證罪ノ場合ト同シク被告人刑ニ處セラレタルト否トヲ分タス  
處罰ノ程度ハ之ヲ裁判所ノ認定ニ一任スルコトトシ因リテ刑ノ範圍ヲ廣ク  
シタルヲ以テ舊刑法第三百五十七條ハ之ヲ削除シタルモノノ如シ  
左ニ各本條ニ付キ説明スヘシ

第七十二條ハ舊刑法第三百五十五條ヲ修正シタルモノナリ即チ人ヲシテ  
刑事又ハ懲戒ノ處分ヲ受ケシムル目的ヲ以テ虛偽ノ申告ヲ爲シタル場合ノ  
規定ニシテ其處分ハ舊刑法ト同シク偽證罪ノ例ニ依リテ處斷スルコトトセ  
リ

第七十三條ハ舊刑法第三百五十六條ヲ修正シタル規定ニシテ自首ヲ自白  
ト修正シ本刑ヲ免ストアルヲ其刑ヲ減輕又ハ免除スルコトヲ得ト修正シタ  
ルハ共ニ第七十條ト同一ノ趣旨ニ基ツキタルモノナリ

第二十二章 猥褻及ヒ重婚ノ罪

第七十四條 公然猥褻ノ行爲ヲ爲シタル者ハ科料ニ處ス

第七十五條 猥褻ノ文書圖畫其他ノ物ヲ頒布若クハ販賣シ  
又ハ公然之ヲ陳列シタル者ハ五百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ  
處ス販賣ノ目的ヲ以テ之ヲ所持シタル者亦同シ

第七十六條 十三歲以上ノ男女ニ對シ暴行又ハ脅迫ヲ以テ



猥褻ノ行爲ヲ爲シタル者ハ六月以上七年以下ノ懲役ニ處ス  
十三歳ニ滿タサル男女ニ對シ猥褻ノ行爲ヲ爲シタル者亦同  
シ

第一百七十七條 暴行又ハ脅迫ヲ以テ十三歳以上ノ婦女ヲ姦淫  
シタル者ハ強姦ノ罪ト爲シ二年以上ノ有期懲役ニ處ス十三  
歳ニ滿タサル婦女ヲ姦淫シタル者亦同シ

第一百七十八條 人ノ心神喪失若クハ抗拒不能ニ乘シ又ハ之ヲ  
シテ心神ヲ喪失セシメ若クハ抗拒不能ナラシメテ猥褻ノ行  
爲ヲ爲シ又ハ姦淫シタル者ハ前二條ノ例ニ同シ

第一百七十九條 前三條ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

第一百八十條 前四條ノ罪ハ告訴ヲ待テ之ヲ論ス

第一百八十一條 第一百七十六條乃至第一百七十九條ノ罪ヲ犯シ因

テ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ無期又ハ三年以上ノ懲役ニ處ス  
第一百八十二條 營利ノ目的ヲ以テ淫行ノ常習ナキ婦女ヲ勸誘  
シテ姦淫セシメタル者ハ三年以下ノ懲役又ハ五百圓以下ノ  
罰金ニ處ス

第一百八十三條 有夫ノ婦姦通シタルトキハ二年以下ノ懲役ニ  
處ス其相姦シタル者亦同シ

前項ノ罪ハ本夫ノ告訴ヲ待テ之ヲ論ス但本夫姦通ヲ縱容シ  
タルトキハ告訴ノ效ナシ

第一百八十四條 配偶者アル者重ネテ婚姻ヲ爲シタルトキハ二  
年以下ノ懲役ニ處ス其相婚シタル者亦同シ

第一 沿革

第一案 第三百三十五條 暴行脅迫ヲ以テ滿十二歳以上ノ婦女ヲ姦淫シタ



ル者ハ強姦ノ罪ト爲シ三等有期徒刑ニ處ス  
 方略ヲ用ヒテ婦女ヲ睡眠若クハ昏絶セシメ其精神ヲ喪失セシメ  
 テ姦淫シタル者ハ強姦ヲ以テ論ス  
 十二歳ニ滿タル幼年女子ヲ強姦シタル者ハ二等有期徒刑ニ處ス  
 第三百三十六條 睡眠昏絶其他精神ノ喪失ニ乘シテ婦女ヲ姦淫シ  
 タル者ハ前條ノ刑ニ二等ヲ減ス  
 第三百三十七條 十二歳ニ滿タル幼年女子ヲ姦淫シタル者ハ二年以  
 上五年以下ノ有役禁錮ニ處ス  
 第三百三十八條 十二歳ニ滿タル男女ニ對シ猥褻ノ所爲ヲ行ヒ  
 タル者ハ一月以上ノ有役禁錮ニ處ス  
 第三百三十九條 滿十二歳以上ノ男女ニ對シ暴行脅迫ヲ以テ猥褻  
 ノ所爲ヲ行ヒタル者ハ一年以上以下ノ有役禁錮ニ處ス  
 十二歳ニ滿タル幼者ニ對シ暴行脅迫ヲ以テ猥褻ノ所爲ヲ行ヒ  
 タル者ハ二月以上二年以下ノ有役禁錮ニ處ス

第三百四十條 前數條ノ罪ハ被害者又ハ其法律上代理人ノ告訴ア  
 ルニ非サレハ訴追スルコトヲ得ス

第三百四十一條 前數條ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ疾病死傷ニ致シタル  
 者ハ毆打創傷ノ各本條ニ擬シ一等ヲ加ヘ重キニ從テ處斷ス  
 第三百四十二條 十五歳ニ滿サル者又ハ瘋癲、白痴者ノ淫行ヲ勸誘  
 シテ媒合シタル者ハ十一日以上二月以下ノ有役禁錮及ヒ五圓以  
 上五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第三百四十三條 有夫ノ婦姦通シタル者ハ六月以上二年以下ノ有  
 役禁錮ニ處ス其相姦スル者亦同シ

本條ノ罪ハ本夫ノ告訴アルニ非サレハ訴追スルコトヲ得ス但本  
 夫先ニ其姦通ヲ縱容シタルトキハ告訴ノ效ナシ

第二案

第二百三條 公然猥褻ノ行爲ヲ爲シタル者ハ科料ニ處ス  
 第二百四條 猥褻ノ文書圖畫其他ノ物品ヲ頒布シ又ハ公然陳列若  
 クハ販賣スル者ハ科料ニ處ス



本條ノ罪ニハ沒收例ヲ適用ス

第二百五條 十二歳以上ノ男女ニ對シ暴行又ハ脅迫ヲ以テ猥褻ノ行爲ヲ爲シ又ハ其精神障礙若クハ抗拒不能ニ乘シテ猥褻ノ行爲ヲ爲シタル者ハ七年以下ノ懲役ニ處ス

十二歳ニ滿タサル男女ニ對シ猥褻ノ行爲ヲ爲シタル者亦同シ

第二百六條 暴行又ハ脅迫ヲ以テ十二歳以上ノ婦女ヲ姦淫シ又ハ其精神障礙若クハ抗拒不能ニ乘シテ姦淫シタル者ハ強姦ノ罪ト爲シ三年以上ノ有期懲役ニ處ス

十二歳ニ滿タサル幼女ヲ姦淫シタル者亦同シ

第二百七條 第二百五條及ヒ第二百六條ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

第二百八條 第二百五條及ヒ第二百六條ノ罪ハ告訴ヲ待テ之ヲ論ス

第二百九條 第二百五條及ヒ第二百六條ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ無期又ハ五年以上ノ懲役ニ處ス

第二百十條 營利ノ目的ヲ以テ淫行ノ常習ナキ婦女ヲ勸誘シテ姦

淫セシメタル者ハ三年以上ノ懲役又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二百十一條 有夫ノ婦姦通シタル者ハ一年以下ノ懲役ニ處ス有

夫ノ婦ニ姦シタル者亦同シ

本條ノ罪ハ本夫ノ告訴ヲ待テ之ヲ論ス但本夫姦通ヲ縱容シタルトキハ告訴ノ效ナシ

第二百十二條 配偶者アル者重ネテ婚姻ヲ爲シタルトキハ一年以下ノ懲役ニ處ス

第二百十三條 第二百五條、第二百六條及ヒ第二百九條ノ罪ヲ犯シタル者ハ公權剝奪ヲ附加スルコトヲ得

第二百十條ノ罪ヲ犯シ懲役ニ處ス可キ者ニハ公權剝奪及ヒ監視ヲ附加スルコトヲ得

第三案 第二百三條 第二案ニ同シ

第二百四條 猥褻ノ文書圖畫其他ノ物品ヲ頒布シ又ハ公然陳列若



クハ販賣シ又ハ販賣ノ目的ヲ以テ之ヲ所持シタル者ハ百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第二百五條 十二歳以上ノ男女ニ對シ暴行又ハ脅迫ヲ以テ猥褻ノ行爲ヲ爲シ又ハ其精神障礙若クハ抵抗不能ニ乘シテ猥褻ノ行爲ヲ爲シタル者ハ一年以上七年以下ノ懲役ニ處ス

十二歳ニ滿タサル男女ニ對シ猥褻ノ行爲ヲ爲シタル者亦同シ

第二百六條 第二案ニ同シ

第二百七條 前二條ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

第二百八條 第二案ニ同シ

第二百九條 第二案ニ同シ

第二百十條 第二案ニ同シ

第二百十一條 有夫ノ婦姦通シタルトキハ二年以下ノ懲役ニ處ス其相姦シタル者亦同シ

前項ノ罪ハ本夫ノ告訴ヲ待テ之ヲ論ス但本夫姦通ヲ縱容シタル

トキハ告訴ノ效ナシ

第二百十二條 配偶者アル者重ネテ婚姻ヲ爲シタルトキハ二年以下ノ懲役ニ處ス其相婚シタル者亦同シ

第二百十三條 第二案ニ同シ

第四案 第三案ニ同シ

第二 参照法律

佛蘭西刑法

第二百八十七條 風俗ヲ亂ス可キ歌謠冊子畫圖肖像ヲ展示セシ者又ハ分派セシ者ハ十六フランクヨリ少カラス四百フランクヨリ多カラサル罰金ノ言渡ヲ受ケ且一月ヨリ少カラス一年ヨリ多カラサル時間禁錮ノ刑ニ處セラレ其歌謠冊子畫圖及ヒ其他ノ物ヲ彫刻シタル印版及ヒ印本ハ之ヲ沒收ス可シ

第三百三十條千八百六十三年五月十三日如左改ム(公ケニ猥褻ノ所行ヲ爲ス罪ヲ犯セシ者ハ三月ヨリ少カラス三年ヨリ多カラサル時間禁錮ノ



刑ニ處セラレ且十六フランクヨリ少カラス二百フランクヨリ多カラサル罰金ノ言渡ヲ受ク可シ

第三百三十一條 千八百六十三年五月十三日如左改ム 男女ヲ論セス年齢十三歳以下ノ幼者ノ身體ニ對シ暴行ヲ加ヘスシテ猥褻ノ所行ヲ爲シ又ハ之ヲ試ミ爲サントシタル者ハ徒刑場内ニ於テ使役スル刑ニ處セラル可シ

十三歳以上ト雖モ婚姻ヲ結ヒテ未タ後見ヲ免カレサル幼者ノ身體ニ對シ其尊屬ノ親ヨリ猥褻ノ所行ヲ爲シ又ハ試ミ爲サントシタル時ハ其犯人同上ノ刑ニ處セラル可シ

第三百三十二條 強姦ノ罪ヲ犯シタル者ハ有期ノ徒刑ニ處セラル可シ

若シ滿十五歳以下ノ幼者ニ對シ強姦ノ罪ヲ犯シタル者ハ至重ナル有期ノ徒刑ニ處セラル可シ

男女ヲ論セス人ニ對シ暴行ヲ以テ猥褻ノ所行ヲ爲シ又ハ試ミ爲サントシタル者ハ徒刑場内ニ於テ使役スル刑ニ處セラル可シ

若シ滿十五歳以下ノ幼者ニ對シ此罪ヲ犯シタル者ハ有期ノ徒刑ニ處セラル可シ

第三百三十三條 千八百六十三年五月十三日如左改ム 若シ其犯人暴行ヲ受ケシ者ノ尊屬ノ親タル時又ハ其犯人其暴行ヲ受ケシ者ノ指令ヲ爲ス者タル時又ハ其犯人其暴行ヲ受ケシ者ノ授業師或ハ其雇人ノ僕婢タル時或ハ其犯人官吏又ハ僧徒タル時或ハ其他何者ヲ論セス其罪ヲ犯スニ付キ一人又ハ數人ノ助ヲ得タル時ハ第三百三十一條ノ首項ニ記セン場合ニ於テハ有期ノ徒刑ニ處セラレ前條ニ記シタル場合ニ於テハ無期ノ徒刑ニ處セラル可シ

第三百三十四條 男女ヲ論セス二十一歳以下ノ幼者ノ淫行ヲ誘起シ又ハ誘助シ又ハ容易ナラシム可キ事ヲ爲スヲ常トシ風俗ヲ亂サント爲ス者ハ六月ヨリ少カラス二年ヨリ多カラサル時間禁錮ノ刑ニ處セラレ且五十フランクヨリ少カラス五百フランクヨリ多カラサル罰金ノ言渡ヲ受ク可シ



若シ父母又ハ後見人又ハ其他幼者ヲ管照ス可キ任ヲ受ケシ者其淫行ヲ誘起シ又ハ誘助シ又ハ容易ナラシム可キ事ヲ爲シタル時ハ其犯人二年ヨリ少カラス四年ヨリ多カラサル時間禁錮ノ刑ニ處セラレ且三百フランクヨリ少カラス千フランクヨリ多カラサル罰金ノ言渡ヲ受ク可シ

第三百三十五條 前條ニ記シタル輕罪ヲ犯セシ者ハ後見ノ職及ヒ管財人ノ職ヲ行フノ禁ヲ受ケ且親屬會議ニ列班スルノ禁ヲ受ク可シ但シ前條ノ首項ニ記シタル犯人ハ二年ヨリ少カラス五年ヨリ多カラサル時間其禁ヲ受ケ前條ノ次項ニ記シタル犯人ハ十年ヨリ少カラス二十年ヨリ多カラサル時間其禁ヲ受ク可シ

若シ父母ノ其罪ヲ犯セシ時ハ民法第一編第九卷ニ記シタル所ニ從ヒ其子ノ身體及ヒ財産ニ對シ行フ可キ權利ノ剝奪ヲ受ク可シ

何レノ場合ニ於テモ其犯人ハ裁判所ノ言渡ニ因リ政府ノ監察ヲ受ケシムル事ヲ得可シ但シ此期限ノ差別ハ此等ニ記シタル後見及ヒ管財人ノ職務ヲ行フノ禁及ヒ親族會議ニ列班スルノ禁ヲ受クル期限ノ差別ト同

一タル可シ

第三百三十六條 婦ノ姦通ハ夫ニ非サレハ之ヲ訴フ可カラス但シ第三百三十九條ニ記スル場合ニ於テハ夫其婦ノ姦通ヲ訴フルノ權ヲ失フ可シ

第三百三十七條 姦通ノ證アル婦ハ三月ヨリ少カラス二年ヨリ多カラサル時間禁錮ノ刑ニ處セラレ可シ

夫其姦通セシ婦ヲ再娶スルコトヲ肯スル時ハ其刑ヲ停止スルコトヲ得可シ

第三百三十八條 姦夫ハ姦婦ト同期ノ時間禁錮ノ刑ニ處セラレ且百フランクヨリ少カラス二千フランクヨリ多カラサル罰金ノ言渡ヲ受ク可シ

姦通シタルノ證ハ現ニ其罪犯ヲ行フヲ知リタル事又ハ其罪ヲ訴ヘラレシ者ノ記シタル書狀及ヒ其他ノ書類ニ限ル可シ

第三百三十九條 夫ノ其家ニ娼婦ヲ蓄ヒ置キ其婦ノ訴訟ニ因テ其罪證ノ發覺シタル時ハ其夫百フランクヨリ少カラス二千フランクヨリ多カラサル罰金ノ言渡ヲ受ク可シ



第三百四十條 未タ前婚ヲ解カサル中更ニ再婚ヲ爲シタル者ハ有期ノ徒刑ニ處セラル可シ

未タ前婚ヲ解カサル中更ニ再婚ヲ爲サシメタル官吏ノ其事ヲ知テ許セシ時ハ其官吏同上ノ刑ニ處セラル可シ

出版條例第八條 凡第一條ニ記シタル書籍冊子畫圖彫鐫物貼付書等ヲ用ヒテ修身敬神ノ道ヲ害シ或ハ國ノ風儀ヲ亂ル者ハ一月ヨリ少カラス一年ヨリ多カラサル時間禁錮ノ刑ニ處セラレ且ツ十六フランクヨリ少カラス五百フランクヨリ多カラサル罰金ヲ言渡サル可シ

白耳義刑法

第三百七十二條 暴行恐喝ヲ用ヒスシテ十四歳未満ノ男女ヲ姦シ及ヒ其補助ヲ得テ姦スル者ハ一年ヨリ五年マテノ獄ニ處ス可シ

若シ十一歳未満ノ男女ナルトキハ監役ニ處ス可シ

第三百七十三條 強暴恐喝ヲ用ヒテ姦ヲ犯ス者ハ六月ヨリ五年マテノ獄ニ處ス可シ

若シ十四歳未満ノ男女ヲ犯ス者ハ監役ニ處ス可シ

第三百七十四條 犯トハ已ニ行フ者ヲ云ヒ其成否ヲ論セス

第三百七十五條 強暴恐喝詐計ヲ用ヒ或ハ疾病ニ因テ其心ヲ失フ者若クハ暫時智覺ヲ失フ者若クハ他ノ方略ヲ用テ昏迷セシメ強姦スル者ハ監役ニ處ス可シ

若シ十四歳未満ノ男女ヲ姦スル者ハ十年ヨリ十五年マテノ懲役ニ處ス可シ

第三百七十六條 強姦ニ因テ死ニ致ス者ハ十五年ヨリ二十年マテノ懲役ニ處ス可シ

第三百七十七條 若シ其尊屬ノ親ニシテ卑族ノ親ヲ犯ス者

若シ其尊長ニシテ犯ス者

若シ其教師婢僕或ハ尊族尊長ノ婢僕ニシテ犯ス者

若シ内外官吏教僧等其威權ヲ用テ犯ス者或ハ内外科醫師產科軍醫等其托セラル、者ヲ犯ス者



以上ノ者若シ第三百七十三條、第三百七十五條、第三百七十六條ノ犯姦ニシテ他人ノ加助ニ因ル者ハ皆第二百六十六條ニ依テ加等ス

第三百七十八條 此五章ニ掲クル所ノ諸犯人ハ本刑ノ外尙第三十一條一三四五ノ奪權ニ處ス可シ

若シ其父母ニシテ其子ヲ犯ス者ハ民法第一卷第九編ニ掲載スル父母ノ權利ヲ失フ可シ

第三百七十九條 常ニ人ノ色情ヲ鼓舞幫助シ或ハ十四歳以上ノ幼者ノ放蕩淫欲ヲ飽カシメ風俗ヲ亂ス者ハ三月ヨリ二年マテノ獄ニ處シ若シ幼者十四歳未滿ノ者ノ淫行ヲ爲サシムル者ハ二年ヨリ五年マテノ獄ニ處ス可シ

第三百八十條 上條ノ犯十一歳未滿ノ者ニ關スル時ハ監役ニ處ス可シ 其特ニ手ヲ試ミルノミノ者ハ無罪

第三百八十一條 幼者ノ尊族ノ親

其尊長ノ者

其教師婢僕或ハ尊族尊長教師等ノ婢僕

官吏或ハ教僧ニシテ前條ノ罪ヲ犯ス者ハ第二百六十六條ニ依テ加等ス 第三百八十二條 此章ノ諸犯罪ハ本刑ノ外尙ホ五十フランクヨリ一千フランク迄ノ罰金ヲ科シ及ヒ第三十一條一三四五ノ奪權ヲ科ス

若シ幼者ノ父母ニシテ犯ス者ハ民法第一卷第九編ノ父母タルノ權利ヲ剝奪ス可シ

此等ノ犯罪ハ尙五年ヨリ十年マテノ監禁ニ處スルコトアリ

第三百八十三條 凡ソ風俗ヲ害スル書畫歌謠等ヲ販賣分派展示スル者ハ其印刷書寫ヲ論セス八日ヨリ六月マテノ獄ニ處シ二十六フランクヨリ五百フランクマテノ罰金ヲ科ス可シ

第三百八十四條 凡ソ前條ノ犯ニ於テ書畫等ノ著作人タル者印刷師及ヒ他ノ方法ヲ用ヒテ再寫スル者ハ一月ヨリ一年マテノ獄ニ處シ五十フランクヨリ一千フランク迄ノ罰金ヲ科ス可シ



第三百八十五條 凡衆目ヲ憚ラス淫事ヲ爲ス者ハ八日ヨリ一年マテノ獄ニ處シ二十六「フランク」ヨリ五百「フランク」迄ノ罰金ヲ科ス可シ裸體ニテ街路ヲ行ク等モ此類ナリ

第三百八十六條 凡ソ此章ノ諸犯罪ハ第三十一條一三四及五ノ奪權ニ處スルコトアリ

第三百八十七條 姦婦罪ニ伏スル者ハ三月ヨリ二年迄ノ獄ニ處ス可シ若シ其本夫再娶シ罪ヲ請フモノハ刑ヲ止ム

第三百八十八條 姦夫ハ罪姦婦ニ同シ 姦夫ノ證トス可キ者ハ其所犯ヲ現ニ看認ル外ハ唯其書翰及ヒ他ノ書跡ヲ以テ證ス可シ

第三百八十九條 夫其家ニ外婦ヲ蓄フル罪ニ伏スル者ハ一月ヨリ一年マテノ獄ニ處ス可シ

若シ其婦放免ヲ請フコトアレハ其罪ヲ免ス 第三百九十條 姦婦姦夫ハ其妻ノ出訴スルニ非レハ問ハス

第三百九十一條 已ニ許嫁セル者ニシテ未タ其約ヲ廢セス更ニ他ニ許嫁スル者ハ監役ニ處ス可シ

獨乙刑法

第三百七十一條 婚姻ヲ契約シタル者未タ前婚ヲ解カス又其離別ヲ届出ナル以前後姻ヲ契約シタル者又婚姻ヲ結ハサル人婚姻ヲ結ヒタル人ト知リテ故ラニ其人ト契約シタル者ハ五年ヨリ長カラサル徒刑ニ處ス可シ 若シ酌量輕減アル時ハ六月ヨリ短カラサル禁獄ニ處ス可シ

其期滿免除ノ年限ハ兩度ノ婚姻中其一ヲ解キ其届出ヲ爲シタル日ヨリ起算ス可シ

第三百七十二條 有夫姦ニ因テ離婚ニ及フ時ハ其有罪ノ配偶者(姦婦)及ヒ其附從(姦夫)ハ各六月ヨリ長カラサル禁獄ニ處ス可シ 訴ヲ待テ其罪ヲ論ス

第三百七十三條 尊屬ノ親及ヒ卑屬ノ親共ニ相姦シタル時其尊屬ノ親ハ五年ヨリ長カラサル徒刑ニ處シ其卑屬ノ親ハ二年ヨリ長カラサル禁獄ニ



處ス可シ

姻族ノ尊族ノ親及ヒ卑族ノ親又ハ兄弟姉妹共ニ相姦シタル時ハ二年ヨリ長カラサル禁獄ニ處ス可シ

禁獄ノ刑ト共ニ公權ヲ剝奪ス可シ

宗系ノ親及ヒ卑屬姻屬ノ親共ニ未タ滿十八歳ニ至ラサレハ其罪ヲ免ス  
第百七十四條 左ノ件々ニ於テハ五年ヨリ長カラサル徒刑ニ處ス可シ

第一 後見人其後見ヲ爲シタル子ニ對シ品行ヲ亂ル所業ヲ爲シ養父母養育父母(人ノ子ヲ預リ)其子ニ對シ風俗ニ觸ルル所業ヲ爲シ又僧官授業師其少年生徒(授業師ノ宅ニ入塾シ又ハ)ニ若シ同種ノ所業ヲ爲シタル時

第二 官吏自ラ鞠問ヲ爲ス可キ人又監守ス可キ人ニ對シ風俗ニ觸ルル所業ヲ爲シタル時

第三 健康事務ニ附屬シタル官吏小吏醫師及ヒ其餘人又獄内或ハ病人及ヒ無力貧窮ノ土人及ヒ其他ノ人ヲ入ル可キ爲ニ設ケタル公館等ノ

吏其囚人及ヒ其入館人ニ對シ風俗ニ觸レタル所業ヲ爲シタル時

若シ酌量輕減アル時ハ六月ヨリ短カラサル禁獄ニ處ス可シ

第百七十五條 男子互ニ又ハ獸類ト天然ニ逆フタル淫行ヲ爲シタル者ハ禁獄ニ處シ其餘公權ヲ剝奪ス可シ

第百七十六條 左ノ件々ニ於テハ十年ヨリ長カラサル徒刑ニ處ス可シ  
第一 暴行ノ助ヲ以テ婦人ニ對シ風俗ニ觸レタル所業ヲ爲シ又ハ其婦人ノ身體及ヒ生命ニ對シ現今危難ニ及フヘク恐嚇シ強ヒテ其所業ヲ肯ンセシメタル者

第二 精神昏耗シタル婦人及ヒ瘋癲病アル婦人ヲ擅ニ爲シタル者

第三 十四歳以下ノ人ニ對シ風俗ニ觸レタル所業ヲ爲シ又其所業ヲ爲スヘク決心セシメ又之ヲ肯ンセシメタル者

若シ酌量輕減アル時ハ六月ヨリ短カラサル禁獄ニ處ス可シ

第百七十七條 婦人ヲ強姦シ又其身體生命ニ對シ現今危難ニ及フヘク脅迫シ強テ之レヲ肯ンセシメ又姦スルノ目的ニテ精神知覺ヲ失ハシメタ



ル後ニ之ヲ姦シタル者ハ徒刑ニ處ス可シ

若シ酌量輕減アル時ハ一年ヨリ短カラサル禁獄ニ處ス可シ

第七十八條 第七十六條及ヒ第七十七條ニ記シタル所業ノ一箇ヨリシテ其害ヲ被リタル者ヲ死ニ致シタル時ハ十年ヨリ短カラサル徒刑又無期ノ徒刑ニ處ス可シ

此時ハ訴ヲ待タス其罪ヲ論ス可シ

第七十九條 婚姻ノ禮式ヲ爲スヘクト欺キ又他ノ治術ヲ以テ昏迷ヲ生セシメ其自ラ配偶者ト妄信セルニ乘シ其婦人ヲ擅ニ爲シタル者ハ五年ヨリ長カラサル徒刑ニ處ス可シ

若シ酌量輕減アル時ハ六月ヨリ短カラサル禁獄ニ處ス

訴ヲ待テ其罪ヲ論ス

第八十條 平常又ハ利ヲ得ル爲メニ容止シ又ハ補助シ又ハ媒合シテ淫行ヲ容易ナラシメタル者ハ媒合者トナシ禁獄ニ處シ其餘公權ヲ剝奪シ仍ホ警視ノ監護ニ附ス可シ

第八十一條 媒介者ハ平常其事ヲ行ハス又其事ヨリシテ利ヲ得ルニ非ラサル時ト雖トモ左ノ件々ニ於テハ五年ヨリ長カラサル徒刑ニ處ス可シ

第一 若シ其淫行ヲ容易ナラシメン爲メ詐術ヲ行フタル時

第二 若シ父母後見人僧官授業師其子及ヒ生徒養育者等ヲ以テ媒介ノ罪ヲ犯ス時

徒刑ノ外公權ヲ剝奪シ仍ホ警視ノ監護ニ附ス可シ

第八十二條 未タ十六歳ニ滿タサル處女(ホタチ一歳モ男子ニ)ヲ和誘シテ

姦シタル者ハ一年ヨリ長カラサル禁獄ニ處ス可シ

姦セラレタル處女ノ父母及ヒ其後見人ヨリ訴フルヲ待ツテ其罪ヲ論ス可シ

第八十三條 公然ニ猥褻ノ所業ヲ爲シタル者ハ二年ヨリ長カラサル禁

獄五百マルク以下ノ罰金ニ處シ仍ホ公權ヲ剝奪ス可シ

第八十四條 猥褻ノ書畫類ヲ或ル方法ヲ以テ販賣シ又之レヲ分配シ又



之レヲ廣メ又人民集會スル場所ニ之レヲ出シ又之レヲ貼示シタル者ハ百ターレルヨリ多カラサル罰金又六月ヨリ長カラサル禁獄ニ處ス可シ  
英吉利刑法典

- 一 ヴキクトリヤ即位二十年二十一年第八十三編 何人ニテモ他人ノ猥褻ナル書冊畫圖彫鐫物等ヲ販賣貸展覧分派スル目的ヲ以テ貯蓄シ又ハ之ヲ印刷スルコトヲ察知シ之ヲ訴告スル時ハ裁判官ハ警察吏ヲシテ晝間其家屋ニ入り之ヲ搜索スヘキ證票ヲ出スコトヲ得其品物ハ沒收シテ之ヲ破棄シ仍ホ輕罪ニ處ス
- 淫事ヲ衆人ニ示シ或ハ猥褻ノ書冊畫圖等ヲ公ニ販賣展示スル者ハ贖金或ハ入獄或ハ贖金入獄ニ苦役ヲ加フ
- 一 猥褻ノ所業ヲ以テ婦人ヲ褻ヒ或ハ十二歳以下ノ幼女ヲ姦セント試ムル者ハ二年ニ過キササル苦役ヲ加ヘ或ハ加ヘサル入獄ニ處ス
- 一 十歳以下ノ幼女ヲ姦スル者ハ和スルト雖トモ重罪ニ坐シ五年ヨリ終身ニ至ル徒罪ニ處シ或ハ二年ニ及フ入獄ニ處シ若クハ苦役ヲ加フ

若シ十歳以上二十歳以下ノ少女ヲ姦スル者及ヒ十二歳以下ノ幼女ヲ姦セントシ未タ成ラサル者若クハ二十一歳以下ノ少女ヲ誑騙シテ他人ニ媒姦スル者ハ竝ニ和スルト雖トモ輕罪ニ坐シ五年ノ徒罪或ハ二年ニ及フ入獄ニ處ス

若シ娼妓ト雖トモ之ヲ強姦スル者ハ仍ホ此律ニ依ル

- 一 雜姦及ヒ獸姦ヲ犯ス者ハ竝ニ重罪ニ坐シ十年ヨリ終身ニ至ル徒罪ニ處斷ス雜姦セララルモノモ亦同シ
- 若シ謀テ未タ成ラサル者ハ輕罪ニ坐シ五年ヨリ十年ニ至ル徒罪ニ處シ或ハ一年ニ過キササル入獄ニ處シ若クハ苦役ヲ加フ
- 一 本夫若クハ本妻アリテ更ニ餘人ト婚姻スル者ハ縱ヒ外國ニ在テ犯スト雖トモ重罪ニ坐シ五年ヨリ七年ニ止ル徒罪ニ處シ或ハ二年ニ止ル獄ニ處シ若クハ苦役ヲ加フ
- 其外國人ノ他國ニ行キ再婚スル者及ヒ夫若クハ妻其家ヲ出テ七年ヲ過キテ還ラス又其生死ヲ知ラスシテ再婚スルモノハ此限ニアラス



一 世襲スヘキ及ヒ財産アル所ノ人ノ長女ヲ利ヲ圖リ略誘隠閉シテ姦汚  
セントシ若クハ其妻ニ爲サント謀リ或ハ他人ニ妨姐セシメ姦汚セシメ  
ント謀リ或ハ二十一歳以下ノ女ヲ誑誘隠閉シテ妻ニ爲サントシ若クハ  
姦汚セント謀リ或ハ人ノ女ヲ強略スル者ハ竝ニ重罪ニ坐シ五年ヨリ十  
四年ニ至ル徒罪ニ處シ或ハ二年ニ過キササル入獄ニ處シ若クハ苦役ヲ加フ  
若シ年十六以下ノ幼女ヲ其父母若クハ後見人等ノ意ニ違ヒ略誘シ若ク  
ハ人ヲシテ略誘セシメタル者ハ縦ヒ姦汚セントシ或ハ妻ト爲サントス  
ルノ意ナシト雖モ輕罪ニ坐シ二年ニ至ル入獄ニ處シ若クハ苦役ヲ加フ  
一 人ノ婦女ヲ強姦スル者ハ重罪ニ坐シ五年ヨリ終身ニ至ル徒罪ニ處シ  
或ハ二年ニ過キササル所ノ入獄ニ處シ若クハ苦役ヲ加フ止タ事實ヲ明白  
ニスルコトヲ須要ス  
若シ年十四以下ノ者ハ法ニ於テ強姦ヲ犯スコト能ハサルモノトス若シ  
犯スト雖トモ罪ニ坐セス

埃太利刑法

第五百十六條 書繪或ハ淫奔ノ所業ニ依テ世人ノ風儀品行ヲ害スル者ハ  
違式罪トシ八日以上六月以下ノ重禁獄ニ處ス可シ然レトモ其猥褻ノ所  
業印刷書ニ係ルトキハ輕罪トシ六月以上一年以下ノ重禁獄ニ處ス可シ

魯西亞刑法

第二百八十一條 男或ハ女醜態ノ所業ヲ公然ノ場所ニ於テ行フ者ハ六月  
以上二年以下禁獄ノ刑ニ處セララル可シ  
第一千三百一條 淫奔ヲ誘フヘキ猥褻ノ書畫ヲ出版シ検査官ノ目ヲ避ケ印  
刷或ハ他ノ方法ヲ以テ播傳スル者ハ情狀ニ從ヒ百ルベル以上五百ル  
ベル以下ノ罰金或ハ七日以上三月以下禁錮ノ刑ニ處シ仍ホ其書畫ハ  
悉ク沒收シテ破却スヘシ

第一千三百二條 猥褻ノ像ヲ製造シ之ヲ賣却或ハ他ノ方法ヲ以テ播傳スル  
者或ハ肆店其他公ケノ場所ニ陳列スル者モ前條ノ刑ニ處セララルヘシ  
第一千三百三條 教師教育者及ヒ後見人猥褻ノ書畫ヲ校中ニ播傳シ或ハ其  
委託ヲ受ケシ少年者ニ分付スル者ハ其職ヲ剝キ三月以上六月以下ノ禁



錮ノ刑ニ處セラルヘシ

第千三百四條 公然劇場ニ於テ(舞臺上謠歌或ハ說話ニ猥褻ノ語ヲ交ヘ或ハ其容姿動作ニ淫行ヲ加ヘシ者ハ三日以上三週以下禁錮ノ刑ニ處セラ  
ルヘシ

第千三百五條 公務ノ商議或ハ會同中ニ於テ不正猥褻ノ言語說話ヲ爲セ  
シ者ハ其職務年齡身分其他ノ情狀ニ從ヒ一ルノ上ニ百ルノ上ニ以  
下ノ罰金或ハ一日以上三日以下禁錮ノ刑ニ處セラレ若シ此說話ヲ學校  
或ハ教育院ニ於テ爲ス者ハ第千三百三條ニ從テ刑セララルヘシ

第千九百九十八條 十四歳未満ノ處女ニ對シ暴行ヲ以テ姦淫ヲナス者ハ  
重刑ノ第二類第四等ニ處セラルヘシ

第千九百九十九條 十四歳未満ノ處女ニ對シ暴行ヲ爲サスト雖モ其精神  
ヲ喪失セシメ姦淫ヲナストキハ重刑ノ第二類第五等第六等或ハ第七等  
ニ處セララル可シ凡ソ之ヲ定ムルニハ犯爲ノ情狀犯罪者ノ年齡身分(學術  
ノ如)及ヒ被害ノ後遺等ニ着目スルヲ要ス犯罪者若シ同上ノ如ク少女ノ

不覺ニ乘スルノミナラス併テ其職務ヲ以テ之ヲ管領セルカ或ハ其父母  
後見人若クハ近親ヨリ委託ヲ受ケシ權ヲ妄用スルトキハ重刑ノ第二類  
第四等ニ處セラル可シ

第千九百九十九條 十四歳以上ノ婦女ニ對シ強姦ノ罪ヲ犯ス者ハ重刑ノ第二類第  
六等或ハ第七等ニ處セラル可シ本刑ヲ定ムルモ前條ニ於ケル如ク犯罪  
ノ情狀ヲ參酌スルヲ要ス

第千九百九十九條 左ノ場合ニ於テハ前條ノ刑ニ一等ヲ加フヘシ

- (一) 配偶アル婦人ニ對シ本罪ヲ犯セル時
- (二) 婦人ノ意ニ背キ或ハ詐術ヲ以テ誘出シ本罪ヲ犯ス者
- (三) 苦痛或ハ強虐ヲ加ヘ之ヲ犯ス者
- (四) 豫メ暫時睡眠昏絶ノ術ヲ用ヒテ之ヲ犯ス者
- (五) 後見人財産管理者教師或ハ監獄吏醫師等凡ソ其職務ヲ以テ其婦女  
ヲ監護ス可キ權ヲ與ヘラレ犯ス者
- (六) 被害者或ハ其夫若クハ父母後見人教育者等ノ奴僕ニシテ本罪ヲ犯



ス者

(七) 被害者ノ生命ヲ危クスル者

第三千二條 婦人若シ其強姦ニ依テ死スルトキハ犯人重刑ノ第二類第四等ニ處セラルヘシ

第二千四十五條 耶蘇教ヲ奉スル者既ニ其配偶アルトキ此情ヲ知ル者ト重テ婚姻ヲ爲ストキハ懲治刑ノ第一類第三等或ハ第四等ニ處セラルヘシ又其定偶アルコトヲ匿シテ更ニ他人ト婚姻ヲナストキハ重刑ノ第三類第二等ニ處セラル可シ

若シ同上詐僞罪ノ目的ヲ達ス可キ爲メ僞證ヲ造リ或ハ他ノ詐僞ヲ用ヒシトキハ數罪俱發第五百十六條ノ規則ニ據リ其重キニ從テ刑セラル可シ

右各個ノ場合トモ犯人寺門ノ懲戒ヲ受ク可シ

埃太利刑法

第三百二十五條 婦女ニ對シ危險ノ恐嚇若クハ暴行ヲ加ヘ或ハ神氣ヲ昏迷

スヘキ詐術ヲ用ヒ因テ己レニ抵抗ス可カラサラシメ以テ姦淫ヲ犯ス者ハ強姦ノ重罪ヲ以テ之ヲ論ス可シ

第三百二十六條 強姦ノ刑ハ五年乃至十年ノ重徒刑タル可シ然レトモ其所犯ノ爲メニ被辱者ノ健康若クハ其生命ニ關シ著大ノ患害ヲ繼發セシメシ時ハ其刑期ヲ十年乃至二十年ト爲シ若シ其被辱者ヲ死ニ致セシ時ハ終身ノ重徒刑タルヘシ

第三百二十七條 自ラ抵抗シ能ハサル景況中ニ在ル婦女若クハ知覺ヲ失ヒシ婦女或ハ十四歳未滿ノ處女ニ對シ不法ノ交合ヲ爲セシ者ハ強姦ニ准シ第三百二十六條ニ照シ之ヲ處刑ス可シ

第三百二十八條 十四歳未滿ノ童子、處女若クハ拒抗シ能ハサル景況中ニ在ル婦女或ハ知覺ヲ失ヒシ婦女ニ對シ情欲ヲ慰メン爲メニ第三百二十七條ニ記セシヨリ他ノ方法ヲ以テ猥褻ノ所行ヲ加ヘシ者ハ其所犯ノ第三百二十九條ノ第二項ニ論セシ犯時ニ非サル時ハ偷姦ヲ以テ之ヲ論シ一年乃至五年若シ甚シキ加等ノ情狀アレハ十年迄又第三百二十六條ニ記セシ患



害ノ一ヲ繼發セシムレハ二十年迄ニ至ル重徒刑ニ處ス可シ

第二百二十九條

(甲) 天性ニ背キシ犯姦下ニ掲クル猥褻ノ所行ハ重ヲ以テ之ヲ論スヘシ

(第一) 左ノ各件ヲ天性ニ背キシ犯姦ト爲ス

第一項 動物ニ淫スル者

第二項 同性相姦スル者

第三百十條

其刑ハ一年乃至五年ノ重徒刑タル可シ

然レドモ前條第二項ノ犯罪ニ於テ第二百二十五條ニ記セシ方法ノ一ヲ用

ヒシ者ハ之ヲ五年乃至十年ノ重徒刑ニ處シ第二百二十六條ニ記セシ情狀

ノ一アル者ハ即チ該條ニ示セシ法ニ照シテ刑ス可シ

第三百十二條 猥褻ノ所行ニ誘導スル罪

己レニ其監護發生若クハ其教導ヲ任セラレタル人ヲ誘導シテ猥褻ノ所  
行ヲ爲サシメ若クハ之ヲ背セシメシ者之ヲ猥褻ノ所行ニ誘導スル罪ト

爲ス

善良ノ人ニ媒淫セシ罪

善良ノ人ヲ誘引シテ之ニ淫行ヲ媒セシ者或ハ父母後見人養育師若クハ  
教導師ニシテ兒子幼者若クハ其養育或ハ教導ヲ任セラレタル人ニ淫行  
ヲ媒セシ者之ヲ媒淫ト爲ス

第二百六條 既ニ結婚セシ人更ニ他人ト婚姻ヲ爲スモノ之ヲ二重婚ノ重  
罪ト云フ

第二百七條 已ニ定偶アルノ情ヲ知テ之ト婚姻ヲ爲ス者ハ設ヒ其身自己  
ニ於テハ未婚ノ者ト雖モ二重婚ノ重罪トス

第五百一條 兄弟若クハ異父異母ノ兄弟或ハ親ノ配偶又ハ子女兄弟姉妹  
ノ配偶ト姦スル者ハ違式罪トシ一月以上三月以下ノ禁獄但シ本刑ハ情  
狀ニ從テ苛嚴ヲ加フルコトアルヘシ

本罪ヲ糾彈スルニ誘導ノ罪アル者ハ一月以上三月以下ノ嚴規禁獄又期  
滿後ハ官能ク注意シテ兩者互ニ離絶シ果シテ復タ姦通セサルコトヲ務



ム可シ

第五百二條 密通ヲ爲ス者躬已ニ婚姻ヲ爲セシカ或ハ躬未タ結婚セスト雖モ已ニ定偶アル者ト姦スルトキハ違式罪トシ一月以上六月以下ノ禁獄ニ處スヘシ然レトモ姦婦已ニ定偶アリ其嗣子正シク本夫若クハ密夫ノ血胤ニ係ルヤノ不明ヲ生セシトキハ嚴規ノ刑ニ處ス可シ

第五百三條 然レトモ姦淫ノ糺彈ハ第五百十條ノ如キ罪狀ヲ除クノ外凡テ官ヨリ之ヲ爲スニ非ス唯其凌辱ヲ受ケシ配偶者ノ請願ニ由ル加之配偶者ト雖モ其凌辱ノ所業ヲ知テ猶ホ許諾スルカ或ハ知テ六週間中ニ出訴セザルトキハ復タ其處刑ヲ請願スルノ權ナシ又已ニ處刑宣告スト雖モ被凌辱者更ニ該偶ト其婚ヲ尋キ同生スヘキコトヲ明言スルトキハ該偶ノ刑新ニ消滅ス然レトモ其姦夫ハ之ヲ以テ其刑ヲ輕重セラルヘキコトナシ

第五百四條 家從家長ノ女或ハ其親族ニシテ家政ニ服事スル處女ヲ姦スルトキハ之ヲ違式罪トシ該犯者其家族ニ對セル疎密ニ從テ一月以上三

七〇八

月以下ノ重禁獄ニ處スヘシ

第五百五條 下婢家長ノ子男若クハ同居セル親屬ノ少年者ヲ誘導シテ姦淫ヲ爲スモ亦前條ノ刑ニ準ス

然レモ右兩個ノ違式糺彈及ヒ處刑トモ唯其兩親親屬或ハ後見人ノ請願ニ依テノミ受理スルモノトス

第五百六條 詐僞ヲ以テ結婚ヲ約シ處女ヲ誘ヒ姦通スル者ハ違式罪トシ一月以上三月以下ノ重禁錮ニ處スヘシ又被誘者更ニ贖金ヲ要スルノ權アリ

第五百七條 豫メ成規ノ許可ヲ受ケス又成法ニ從テ結婚シ能ハサル障礙ヲ默示シテ妄リニ其約ヲ結ビ或ハ國法ニ於テ結婚シ能ハサル者外國ニ於テ婚姻ヲ爲ストキハ違式罪トシ三月以上六月以下ノ重禁錮但シ誑誘スル者ハ殊ニ其嚴刑ナルヲ常トス  
女子モ亦其支障ノ狀ヲ祕シ男ヲシテ空シク結約ヲ遂ケ得サラシムルトキハ苛嚴刑ニ處セラレ可シ

刑法精義 第二編 四

七〇九



第五百八條 父母若シ其威ヲ妄用シ其子ヲ強テ非法ノ婚姻ヲ結ハシムル  
トキハ之ヲ違式罪トシ同シク前條ノ刑ニ處スヘシ

第五百九條 身ヲ以テ猥褻ノ所業ニ委シ之ヲ職業トスル者ノ刑ハ各所警  
察廳ノ管スル所トス然レトモ娼妓若シ公然甚シキ法外ノ所業ヲ犯シ或  
ハ少年ノ徒ヲ誘惑シ又ハ躬已ニ微毒ノ傳染セルヲ知テ尙ホ賣淫ノ業ヲ  
止メサルトキハ違式罪トシ一月以上三月以下ノ重禁錮ニ處スヘシ

第五百十條 賣淫ノ業ヲ爲ス者已ニ結婚セシ者ニ係ルトキハ假令其男告  
訴セスト雖モ仍ホ處刑前條ヨリ輕カル可ラス唯定約有ル者ニシテ賣淫  
ヲ爲スハ已ニ加等ノ情狀トシテ判スヘシ

第五百十一條 之ヲ吟味スルニ男若シ其妻ニ許諾シテ賣淫ヲ爲サシメ自  
ラ其事ニ連累スルカ或ハ公然其所業ヲ爲サシメ以テ利ヲ營ムコト發覺  
セルトキハ之ヲ違式罪トシテ三月以上六月以下ノ重禁錮ニ處ス可シ  
但シ情狀ニ從ヒ尙ホ苛嚴ヲ加フルコトアル可シ

第五百十二條 左ノ如キ者ハ媒介ノ違式罪ト爲ス

一 自宅ニ於テ許可ナク賣淫ノ業ヲ營マシムル爲メ娼妓ヲ引テ止宿或  
ハ潜伏セシムル者

二 其賣淫ニ供ス可キ婦女ヲ輸送スル者

三 其他凡ソ右ノ如キ陰賣ノ媒介ヲ爲ス者

第五百十三條 前條違式罪ノ刑ハ三月ヨリ少カラス六月ヨリ多カラサル  
重禁獄トス然レトモ該犯人既ニ久シク其所業ヲ爲セシトキハ之ニ苛嚴  
ヲ加フヘシ

第五百十四條 媒介ノ違式罪ヲ以テ既ニ處刑セラレシ者再犯ヲ爲セシト  
キハ更ニ處刑ノ期ヲ了ヘシ後其住所ヲ放逐スヘシ若シ外國人ナルトキ  
ハ埃國統轄ノ全域外ニ追放ス可シ

第五百十五條 第五百十二條ニ掲載セル媒介違式罪ノ外旅店若クハ飲酒  
舗ノ主人賣淫ノ媒介ヲ爲ストキハ之ヲ違式罪トシ二十五「グル「デル」以上  
二百「グル「デル」以下ノ罰金ニ處ス可シ自後猶ホ其陰賣ヲ爲ストキハ旅店  
若クハ飲酒ノ營業ヲ禁シ將來長ク本業ニ就ク能ハサルコトヲ言渡スヘ



シ然レトモ該舖ノ主人豫知セス其婢自ラ違式罪ヲ犯ストキハ該婢八日  
以上三月以下ノ禁獄ニ處セラル可シ

埃及刑法

第七十二條 風俗ヲ亂ル可キ書類又ハ畫圖ヲ印刷シ或ハ印刷セシメ或  
ハ之ヲ公ケニ頒布セシメシ者ハ埃及ノ貨幣一「リール」ヨリ少ナカラス  
五「リール」ヨリ多カラサル罰金ヲ言渡サレ且二十四時ヨリ少カラス一  
週日ヨリ多カラサル時間禁錮ノ刑ニ處セラル可シ

第二百三十六條 暴行ヲ加フルニ非スシテ十一歳以下ノ幼者ニ對シ猥褻  
ノ罪ヲ犯シタル者ハ六月ヨリ少カス三年ヨリ多カラサル時間禁錮ノ刑  
ニ處セラル可シ

第二百三十七條 暴行ヲ以テ猥褻ノ罪ヲ犯シタル者ハ其害ヲ被リシ者ノ  
何人タルヲ問ハス有期ノ徒刑ニ處セラル可シ

第二百三十八條 前二條ノ場合ニ於テ教育ヲ被リシ者ノ教育或ハ照管ヲ  
爲ス可キ者又ハ之ヲ指令スヘキ者ノ其命ヲ犯シ又ハ害ヲ被リシ者ノ僕

婢或ハ其教育照管ヲ爲シ及ヒ其指令ヲ爲ス者ノ僕婢其罪ヲ犯シタル時  
ハ其犯人五年ヨリ少カラサル時間流刑ニ處セラル可シ

第二百三十九條 既ニ成熟ノ齡ニ至リシ婦女ト結婚ス可キ約束ヲ以テ之  
ヲ欺キ其婦女ニ對シ猥褻ノ罪ヲ犯シ然ル後ニ婚姻ヲ肯ンセサル者ハ其  
約束ノ證書アリ又ハ本人自ラ其約束ヲ爲シタル旨ヲ陳述シ其證アルト  
キハ六日ヨリ少カラス六月ヨリ多カラサル時間禁錮ノ刑ニ處セラル可  
シ

第二百四十條 男女ヲ問ハス二十一歳以下ノ幼者ノ淫行ヲ誘起シ又ハ誘  
助シ又ハ容易ナラシム可キ業ヲ常トシ風俗ヲ亂ス者ハ一月ヨリ少カラ  
ス一年ヨリ多カラサル時間禁錮ノ刑ニ處セラル可シ

第二百四十一條 父母又ハ後見人右ノ罪ヲ犯シタル時ハ六月ヨリ少カラ  
ス一年ヨリ多カラサル時間禁錮ノ刑ニ處セラル可シ

第二百四十二條 婦ノ姦通ノ罪ハ夫ヨリ之ヲ告訴スヘク又夫ノ告訴スル  
能ハサル時ハ夫ノ後見人之ヲ告訴スヘシ



第二百四十三條 姦通ノ罪アル婦ハ三月ヨリ少カラス二年ヨリ多カラサル時間禁錮ノ刑ニ處セラル可シ然レトモ夫其婦ヲ再娶スルコトヲ肯スル時ハ其刑ヲ止ムルコトヲ得ヘシ

第二百四十四條 奸夫ハ奸婦ト同シク三月ヨリ少カラス二年ヨリ多カラサル時間禁錮ノ刑ニ處セラレ且ツ一萬ピアストルノ罰金ヲ言渡サル可シ  
第二百四十五條 奸通ノ證ハ奸夫ノ自證及ヒ現行罪犯ノ外其回教人ノ女室ニ居リシコト竝ニ奸夫ノ書狀又ハ其自重ノ書類ニアリトス其他ノ證ハ之ヲ取上ク可カラス

第二百四十六條 夫ノ其家内ニ娼婦ヲ畜ヒ置キ其婦ノ告訴ニ因リ其證ノ顯ハルル時ハ五百ピアストルヨリ少カラス一萬ピアストルヨリ多カラサル罰金ヲ言渡サル可シ

第二百四十七條 何人ニ限ラス公ケニ猥褻ノ罪ヲ犯セシ者ハ三月ヨリ少カラス一年ヨリ多カラサル時間禁錮ノ刑ニ處セラレ且ツ百ピアストルヨリ少カラス千ピアストルヨリ多カラサル罰金ヲ言渡サル可シ

第二百四十八條 男女ヲ問ハス十八歳以下ノ幼者ニ猥褻ノ詞ヲ言掛ケタル者ハ縦ヒ公ケニ之ヲ爲サスト雖モ一週ヨリ少カラス一月ヨリ多カラサル時間禁錮ノ刑ニ處セラル可シ又其犯人幼者ノ身體ニ手ヲ持チタル時ハ一月ヨリ少カラス三月ヨリ多カラサル時間禁錮ノ刑ニ處セラル可シ但シ公ケニ猥褻ノ罪ヲ犯セシ時其相當ノ刑ニ處セラル可キ規則ト相觸ルルコトナカルヘシ

瑞西刑法

第四條 凡ソ夫若クハ婦ノ前婚ヲ解セサル前ニ他ノ未婚人ト婚ヲ結フトキハ二重婚ニ依テ之ヲ論シ六月以上四年以下ノ徒刑ニ處セラル可シ  
第五條 凡ソ婚姻ヲ結ヒシ夫及ヒ婦ノ若シ其事ノ已ニ他方ニ於テ婚ヲ結ヒ未タ之ヲ解カサル中ナルトキハ二重婚ニ依テ之ヲ論シ二年以上六年以下ノ流刑ニ處セラル可シ

第六條 凡ソ未婚人若シ他人ノ配偶タル夫若クハ婦ナルヲ知リ之ト婚ヲ結ヒシ時ハ二月ヨリ少カラス二年ヨリ多カラサル徒刑ニ處セラル可シ



印度刑法

第二百九十二條 販賣貸借ノ爲メニ淫褻亂俗ノ書畫小説圖形ヲ配分輸入出版シ又ハ故意ヲ以テ此等ヲ公示シ又ハ試ムル者ハ三ヶ月ニ止ル各種ノ入獄若クハ贖金ニ處シ又ハ入獄贖金ヲ併科ス

例外 神社佛閣又ハ佛像ヲ搬運シ其他宗教ノ事ニ用ユル車ノ彫刻圖畫ハ此等ノ限ニ在ラス

第二百九十三條 販賣公示ノ目的ヲ以テ前條ニ記載シタル書畫等ヲ所持スル者ハ三ヶ月ニ止ル有期ノ入獄若クハ贖金ニ處シ又ハ入獄贖金ヲ併科ス

第二百九十四條 共同ノ場所ニ於テ淫褻ノ謠歌ヲ誦吟シ他人ヲ煩擾スルニ至ル者ハ三ヶ月ニ止ル各種ノ入獄若クハ贖金ニ處シ又ハ入獄贖金ヲ併科ス(一千八百七十年決議第二十七號)

第三百七十五條 左ニ掲クル五箇ノ事情ヲ以テ婦人ヲ姦ス之ヲ強姦ト云フ  
第一 婦人ノ意ニ逆フ

第二 婦人ノ承諾ヲ經ス

第三 死傷ノ恐懼ヲ以テ婦人ノ承諾ヲ得ル

第四 男自ラ婦人ノ夫ナラサルヲ知り婦人ヲシテ夫ト信セシメテ其承諾ヲ得ル

第五 十歳以下ノ婦人ノ承諾ヲ得ル

説明 強姦ヲ成スニハ没入ヲ以テ足レリトス

例外 十歳以下ニ非サル己レノ妻ニ通スルハ強姦ノ例ニ在ラス

第三百七十六條 強姦ヲ犯ス者ハ終身流若クハ十年ニ止ル各種ノ入獄ニ處シ且贖金ヲ科ス

第三百七十七條 故ラニ男或ハ女ヲ鷄姦シ或ハ獸ヲ姦スル者ハ十年ニ止ル各種ノ入獄ニ處シ且贖金ヲ科ス

説明 此條ノ犯罪ハ没入ヲ以テ姦ヲ成スニ足レリトス

第四百九十三條 法律上己レト結婚セサル婦人ヲ欺キ法律上己レト結婚シタリト信シ己ト同居又ハ交合セシムル者ハ十年ニ及フ各種ノ入獄ニ



處シ且贖金ヲ科ス

第四百九十四條 夫アリ又ハ妻アリテ更ニ嫁娶スル者ハ七年ニ止ル各種ノ入獄ニ處シ且贖金ヲ科ス

第四百九十五條 配偶トナル者ニ先婚ノ事實ヲ隱シテ前條ノ罪ヲ犯ス者ハ十年ニ止ル各種ノ入獄ニ處シ且贖金ヲ科ス

第四百九十六條 自ラ法律ニ依テ婚姻ヲナスニ非サルヲ知リ婚姻ノ禮ヲ行ヒテ了ル者ハ七年ニ止ル各種ノ入獄ニ處シ且贖金ヲ科ス

第四百九十七條 本夫ノ承諾ナク或ハ其夫アルヲ知リ婦人ト奸通スル者ハ五年ニ止ル各種ノ入獄若クハ贖金ニ處シ又ハ入獄贖金ヲ併科ス

第四百九十八條 人ノ妻タルヲ知リ不法ノ姦通ニ處スルノ意ヲ以テ人ノ妻ヲ誘取シ又ハ如此意ヲ以テ人ノ妻ヲ隱匿或ハ拘引スル者ハ二年ニ止ル各種ノ入獄若クハ贖金ニ處シ又ハ入獄贖金ヲ併科ス

米國刑法

第五千三百四十五條 第五千三百三十九條ニ記載シタル陸地又ハ水上ニ

在テ強姦ヲ犯ス者ハ死刑ニ處ス

第五千三百四十九條 合衆國船舶ニ使用サルル船長士官及ヒ水夫等航海ノ際婚姻ノ約束ヲ爲シ又ハ贈與又ハ脅迫シテ同船ノ航行婦人ヲ姦スル者ハ十二月以下ノ加苦役入獄ニ處シ或ハ一千弗以下ノ贖金ニ處ス但シ其後婚姻ヲ結ビタル者ハ論セス

第五千三百五十條 裁判所前條ノ罪ヲ斷スルトキハ其適意ニ依リ贖金ヲ徵收シテ被姦ノ婦人又ハ其子ニ之ヲ與フルゴトヲ命ズルヲ得ヘシ

第五千三百五十一條 前條ノ罪ヲ斷ズルニハ其船向フ處ノ港ニ到ル後一年内ニ之ヲ勅告スルヲ要ス且獨リ被姦婦人ノ供證ニ據ルヘカラス

第五千三百五十二條 有夫有婦ノ人重ネテ婚スル者ハ重婚ノ罪トナシ五百弗以下ノ贖金ニ處シ或ハ五年以下ノ入獄ニ處ス但シ夫又ハ婦五年間失踪シテ其生死知ルヘカラサルトキ或ハ前婚姻ヲ解クノ裁判ヲ受ゲタルトキハ此限ニ在ラス

第五千三百八十九條 コロンビヤ地方合衆國附屬地及ヒ其他合衆國特轄



内ノ地ニ於テ淫褻俗ヲ亂ルノ圖畫、形像、書籍、文紙及ヒ懷孕ヲ妨ケ又ハ匪法ノ墮孕ヲ致スノ藥種ヲ賣與讓與スル者及ヒ上文品物ノ在ル所之ヲ製スル人又ハ之ヲ製スルノ方法ヲ廣告スル者ハ六月以上五年以下ノ加苦役入獄ニ處シ若クハ百弗以上二千弗以下ノ贖金ニ處シ且裁判所ノ入費ヲ出サシム

土耳其刑法

第三百九條 何人ニ限ラス風俗ヲ亂スヘキ詩文ノ冊子及ヒ猥褻ノ圖畫肖像ヲ印刷發行分配シタル者ハ金ノ一「メジ」ヨリ少ナカラス五「メジ」ジエ「ヨリ」多カラサル罰金ヲ科シ且二十四時間ヨリ少カラス一週間ヨリ多カラサル禁錮ニ處スヘシ

第九十八條 何人ニ限ラス人ニ對シ暴行ヲ以テ猥褻ノ所業ヲ爲シタル者ハ有期ノ徒刑ニ處ス可シ  
若シ犯人意外ニ出テタル事情ニ因リ猥褻ノ暴行ヲ遂ケサルトキハ三月以上ノ禁錮ニ處ス可シ

第九十九條 暴行ヲ以テ猥褻ノ所行ヲ爲シタル者被害者ノ教育又ハ監護ノ任ヲ受ケテ指命ヲ爲ス者タル時又ハ從僕タル時ハ有期ノ徒刑ニ處スヘシ但シ此刑ノ期限ハ五年ヨリ少ナキコトナカルヘシ

第二百條 結婚セサル少女ノ身體ニ對シ強姦ノ罪ヲ犯シタル者ハ徒刑ノ外被害者ノ爲メニ償金ヲ拂フヘキコトノ言渡ヲ受クヘシ  
婚姻ヲ爲スノ約束ヲ以テ丁年ノ女子ヲ欺キ之レヲ弄シタル後其女子ヲ娶ルヲ欲セサル者ハ被害者ニ對シ償金ヲ拂ハシメ且一週間ヨリ少カラ

ス六月ヨリ多カラサル禁錮ニ處スヘシ  
但シ此刑ハ犯人ノ白狀又ハ被害者ノ親屬ヨリ出ス所ノ證據ニ依リ其婚姻ノ約束判然タルノ證アルニアラサレハ之レヲ適用スヘカラス

第二百一條 何人ニ限ラス男女ノ別ナク幼者ノ淫行ヲ誘起シ又ハ誘助シ又ハ容易ナラシム可キコトヲ常業ト爲シ風俗ヲ害スル者ハ一月ヨリ少カラス一年ヨリ多カラサル禁錮ニ處ス可シ  
若シ幼者ノ淫行ヲ誘起シ又ハ誘助シ又ハ容易ナラシメタル者其父母又



ハ後見人タル時ハ六月ヨリ少カラス一年半ヨリ多カラサル禁錮ニ處スヘシ

姦通ハ本夫ニ限り之ヲ訴フルヲ得ヘシ但シ本夫ナキトキハ後見人之ヲ訴フヘシ

姦通ノ證アル婦ハ三月ヨリ少カラス二年ヨリ多カラサル禁錮ニ處ス可シ但シ本夫ノ再ヒ其婦ヲ納ル、ヲ承諾スルトキハ其裁判ヲ停止セシムルヲ得ヘシ

姦通ノ附從ハ三月ヨリ少カラス二年ヨリ多カラサル禁錮ニ處シ其他金ノ五メジジエヨリ少カラス百メジジエヨリ多カラサル罰金ヲ科ス可シ附從タルノ證據ヲ現行犯罪ノ外更ニ回教ヲ奉スル者ノ深聞ニ現在シ又ハ自記ノ書狀其他ノ書類ニ基クヘシ然レトモ本夫又ハ後見人ノ姦通ヲ出訴スル場合ニ於テハ此規定ヲ適用ス可カラス其他ノ淫行收賄ノ所行ニ付テハ通常ノ罪犯ナルトキハ現ニ土耳其帝國ニ行ハル、警察規則ニ從ヒ之ヲ處分ス可シ

第二百二條

何人ニ限ラス公ケニ猥褻ノ所行ヲ爲ス罪ヲ犯シタル者ハ三月ヨリ少カラス一年ヨリ多カラサル禁錮ニ處シ且金ノ一メジジエヨリ少ナカラス十メジジエヨリ多カラサル罰金ヲ科ス可シ

男女ノ別ナク幼者ニ對シ猥褻ノ言ヲ發セシモノハ一週間ヨリ少カラス一月ヨリ多カラサル禁錮ニ處ス可シ其身體ヲ侵セシ者ハ一月ヨリ少カラス三月ヨリ多カラサル禁錮ニ處スヘシ婦女ノミ出入スル場所ニ女粧シテ入りシ男子ハ其ノ所爲ニ依リ三月ヨリ少カラス一年ヨリ多カラサル禁錮ニ處スヘシ若シ其ノ場所ニ於テ前條ニ記載スル刑ヨリ更ニ重キ刑ニ處スヘキ輕重罪ヲ犯シタルトキハ其ノ重キ刑ヲ以テ之レヲ罰スヘシ

和蘭刑法

第二百三十九條

左ノ諸件ヲ犯シタル者ハ二年以下ノ禁錮又ハ三百フロラン以下ノ罰金ニ處ス

一 公然猥褻ノ所行ヲ爲シタル者



二 他人其意思ニ反シテ立會フタルトキニ猥褻ノ所行ヲ爲シタル者  
第二百四十條 風俗ヲ害スル圖書紙片ヲ頒布シ又ハ頒布スルカ爲メ公然  
之ヲ陳列シ若クハ之ヲ店頭ニ貼付貯存シタル者ハ三月以下ノ禁錮又ハ  
三百フラン以下ノ罰金ニ處ス

自己ノ職業執行中本罪ヲ犯シ且其犯罪ノ時ニ同一ノ罪ニ付キ終審裁判  
ノ言渡アリタル時ヨリ未タ二年ヲ經過セザリシトキハ其職業ニ從事ス  
ル權利ヲ剝奪スルコトヲ得

第二百四十一條 左ノ諸件ヲ犯シタル者ハ六月以下ノ禁錮ニ處ス

一 婚姻シタル者姦通罪ヲ犯シタルトキ

二 未婚者其相姦スル者ノ結婚者タルヲ知テ姦通シタルトキ  
本條ノ罪ハ其侮辱セラレタル本夫ノ告訴ヲ待テ之ヲ論ス

此告訴ニ付テハ第六十四條第六十五條及ヒ第六十七條ヲ適用ス

裁判所ノ公庭ニ於テハ審判開始前ニ於テハ此告訴ヲ取消スコトヲ得

第二百四十二條 結婚外ニ於テ暴行又ハ暴行ヲ加ヘント脅迫シテ婦女ヲ

姦淫セントシタル者ハ強姦ヲ以テ論シ十二年以下ノ禁錮ニ處ス

第二百四十三條 結婚外ニ於テ婦女ノ精神知覺ヲ失フタルヲ知テ之ヲ姦  
淫シタル者ハ八年以下ノ禁錮ニ處ス

第二百四十四條 十二歳以下ノ女子ヲ姦淫シタル者ハ十二年以下ノ禁錮  
ニ處ス

第二百四十五條 結婚外ニ於テ十二歳以上十六歳以下ノ女子ヲ姦淫シタ  
ル者ハ八年以下ノ禁錮ニ處ス

本條ノ場合ニ於テハ告訴ヲ待タスシテ其罪ヲ論スト雖モ第二百四十八  
條ノ場合ニ於テハ告訴ヲ待テ其罪ヲ論ス

第二百四十六條 暴行又ハ暴行ヲ加ヘント脅迫シテ猥褻ノ所行ヲ爲シ又  
ハ猥褻ノ所行ヲ受ケシメタル者ハ猥褻ノ罪ヲ以テ論シ八年以下ノ禁錮  
ニ處ス

第二百四十七條 知覺精神ヲ失フタルコトヲ知リテ猥褻ノ所行ヲ加ヘ又  
ハ十六歳以下ノ者ニ猥褻ノ所行ヲ爲シ又ハ猥褻ノ所行ヲ爲サシメ又ハ



受ケシムルゴトヲ獎勵シ或ハ之ニ結婚外ニ於テ他人ヲ姦淫スヘキコトヲ獎勵シタル者ハ六年以下ノ禁錮ニ處ス

第二百四十八條 第二百四十三條及ヒ第二百四十五條乃至第二百四十七條ニ特示シタル犯罪ニ因テ身體ニ重傷ヲ致シタル者ハ十二年以下ノ禁錮ニ處ス

第二百四十二條乃至第二百四十四條ニ特示シタル犯罪ニ因テ人ヲ死ニ致シタル者ハ十五年以下ノ禁錮ニ處ス

第二百四十九條 左ノ數項ニ記載シタル者淫行ヲ爲シタルトキハ六年以下ノ禁錮ニ處ス

一 父母、後見人、監督、後見人、法教師又ハ「ブレセプトール」(常ノ教師ト譯ス母リ破教授者ノ住家ニ通ヒ又ハ宿泊シテ教授スル者ヲ云フ)其監督又ハ支配スヘキ囑託ヲ受ケタル幼者ニ對スルトキ

二 職業場、工場、製造所ノ長又ハ監督者其婢僕又ハ幼年ノ隸屬者ニ對スルトキ

三 官吏其威權ニ服従スヘキ者又ハ其監督ヲ命セラレ若クハ委託サレタル者ニ對スルトキ

四 監獄、懲治場、教育場、育孤院、病院、瘋癲院、惠恤院ノ長、醫師、教訓者、雇人、監督者又ハ僕婢其建物内ニ住スル者ニ對スルトキ  
犯人其淫行ヲ爲シタル幼者ト婚姻ノ契約ヲ結ビタルトキハ本條ニ特示シタル罪ヲ論セス

第二百五十條 左ノ諸項ニ記シタル犯者ハ媒合者ヲ以テ論シ下ノ如ク處斷ス

一 父母、後見人又ハ監督、後見人其兒子タル幼者又ハ其後見ニ附セラレタル幼者若クハ其後見監督ニ附セラレタル幼者ト他人ノ淫行ヲ故ラニ獎勵又ハ補助シタル者ハ四年以下ノ禁錮ニ處ス

二 其他ノ者ニシテ利益ヲ計リ且故意ヲ以テ幼者ト他人トノ淫行ヲ獎勵シ又ハ補助シタル者若クハ故意ヲ以テ幼者ト他人トノ淫行ヲ獎勵補助スルヲ以テ職業トシタル者ハ三年以下ノ禁錮ニ處ス



第二百五十一條 第二百三十九條及ヒ第二百四十一條乃至第二百五十一條ニ特示シタル犯罪ニ付キ處刑ヲ受ケタルトキハ第二十八條第一項乃至第五項ニ列記シタル權利ノ剝奪ヲ宣告スルコトヲ得  
前二箇條ニ特示シタル者自己ノ職務執行中罪ヲ犯シタルトキハ其職務執行ノ權ヲ剝奪スルコトヲ得

那威刑法

第九十一條 強迫ニヨリ猥褻的交通ニ人ヲ強要シタル者又ハ其協力者ニハ五年以下ノ禁錮ヲ科刑ス

公ノ訴追ハ被害者ノ申請ニ依リテノミ之ヲ爲ス  
第九十二條 人ノ身體又ハ健康ニ對スル暴力又ハ恐喝ニ依リ猥褻的交通ニ人ヲ強要シタル者又ハ其協力者ニハ強姦ノ爲メ十年以下ノ禁錮ヲ科刑ス而シテ同衾ヲ爲シタル場合ニ於テハ一年以上ノ禁錮ヲ科刑ス  
被害者其行爲ノ結果死去シ又ハ重大ノ身體傷害又ハ健康損害ヲ受ケタルトキ又ハ罪責者其前本條又ハ第九十一條第九十三條又ハ第九十九

十五條ニ依リ科刑セラレタルコトアルトキハ終身以下ノ禁錮ヲ科スルコトヲ得

第九十三條 知覺喪失又ハ歸責無能力ノ狀況ニ在ル者ト猥褻的交通ヲ爲シタル者又ハ他人此種ノ交通ヲ爲スコトニ協力シタル者ニハ五年以下ノ禁錮ヲ科刑ス而シテ同衾ヲ爲シタル場合ニ於テハ八年以下ノ禁錮ヲ科刑ス

罪ヲ容易ニスル爲メ知覺喪失又ハ歸責無能力ニ陥ラシメタル者又ハ其協力者ニハ第九十二條ニ依リ科刑ス

第九十四條 他人錯誤ニ依リ夫婦的同衾ト思料スルニ乘シテ之ト同衾シタル者又ハ此種ノ同衾ヲ爲スコトニ協力シタル者ニハ四年以下ノ禁錮ヲ科刑ス

公ノ訴追ハ被害者ノ申請ニ依リテノミ之ヲ爲ス

第九十五條 十三歳以下ノ幼者ト猥褻的交通ヲ爲シタル者又ハ他人此種ノ交通ヲ爲スコトニ協力シタル者ニハ第九十二條ニ依リ科刑ス



第九十六條 十六歳以下ノ幼者ト猥褻的交通ヲ爲シタル者ニハ三年以下ノ禁錮ヲ科刑ス

第九十七條 十八歳以下ノ者又ハ自己ノ權力又ハ監督ノ下ニ在ル二十歳以下ノ者ヲ猥褻的交通ニ誑誘シタル者ニハ六月以下ノ禁錮ヲ科刑ス。年齢ニ付キテノ錯誤ハ刑責ヲ除却セス

公ノ訴追ハ被害者ノ申請ニ依リテノミ之ヲ爲ス

第九十八條 甚大ニ詐欺的ナル行動ニ依リ人ヲ猥褻的交通ニ誑誘シタル者ニハ六月以下ノ禁錮ヲ科刑ス而シテ誑誘セラレタル者十八歳ヲ終了セス又ハ二十一歳ニ達セスシテ行爲者ノ權力又ハ監督ノ下ニ在ル者ナルトキハ一年以下ノ禁錮ヲ科刑ス。年齢ニ付キテノ錯誤ハ刑責ヲ除却セス

公ノ訴追ハ被害者ノ申請ニ依リテノミ之ヲ爲ス

第九十九條 左ニ掲クル者ニハ四年以下ノ禁錮ヲ科刑ス

一 其公ノ地位又ハ其醫師僧侶教師又ハ當該者ノ上級者タル地位ノ妄

用ニ依リ機會ヲ作りテ同金ヲ爲シタル者

二 監獄勞役場病院貧民院教育場又ハ其類似ノ設備ニ收容セラレタル者ニシテ其權力又ハ監督ノ下ニ在ル者ト猥褻的交通ヲ爲シタル者

三 其權力又ハ監督ノ下ニ在ル直系卑屬繼子乳子養子被後見人又ハ學生ト猥褻的交通ヲ爲シタル者

第二百條 人ヲ誑誘シ猥褻的交通ヲ爲サシメタル者又ハ他人ノ猥褻的交通ヲ誑誘スルコトニ協力シタル者ニハ一年以下ノ禁錮ヲ科刑ス可シ

公ノ訴追ハ被害者ノ申請ニ依リテノミ之ヲ爲ス

第二百一條 十六歳以下ノ者ト猥褻的交通ヲ爲ス他人ノ行爲ヲ容易ニシタル者ニハ四年以下ノ禁錮ヲ科刑ス

第二百二條 人ヲ誑誘シテ猥褻ノ目的ニ其身體ヲ賣買スル營業ヲ爲サシメタル者又ハ此種ノ誑誘ニ協力シタル者ニハ四年以下ノ禁錮ヲ科刑ス而シテ誑誘者十八歳ナルトキ又ハ此種ノ誑誘ノ目的ノ爲メ外國ニ移送シタルトキハ一年乃至六年ノ禁錮ヲ科刑ス



第二百三條 猥褻ノ目的ニ其身體ヲ賣買スル營業ヲ爲ス者ヲ妨碍シテ此行動ヲ停止セサラシメントシタル者ハ二年以下ノ禁錮ヲ科刑ス

第二百四條 第二百條乃至第二百三條ノ場合ニ於テ行爲者慾心ニ依リ又ハ慣行的ニ行爲ヲ爲シタルトキ又ハ強制的強迫的又ハ偽計的ノ行動ヲ爲シタルトキ又ハ其配偶者其子又ハ其權力又ハ監督ノ下ニ在ル者ノ猥褻行爲ヲ容易ニシ又ハ其公ノ地位又ハ其僧侶醫師又ハ教師タル地位ヲ妄用シタルトキハ前述ノ條項ノ刑ハ其半ハヲ加重スルコトヲ得

業務又ハ營業上罪ヲ犯シタルトキハ行爲者ニハ其業務又ハ營業ヲ續行スル權利ヲ否認スルコトヲ得

第二百五條 第九十九條第一號ニ指稱シタル地位ノ妄用ニ依リ他人ノ猥褻的交通ヲ容易ニシタル者又ハ第九十九條第二號又ハ第三號ニ記述シタル關係ヲ有スル者及ヒ他人間ノ猥褻的交通ヲ容易ニシタル者ニハ五年以下ノ禁錮ヲ科刑ス

第二百六條 慾心ヨリ他人ノ猥褻的交通ヲ容易ニシタル者又ハ慾心ノ目的ニ此交通ヲ利用シタル者ニハ二年以下ノ禁錮ヲ科刑ス特別ノ減刑事由アルトキハ金刑ヲ規定スルコトヲ得

幫助シテ猥褻行爲ヲ爲サシメタル者十八歳以下ナルトキ又ハ猥褻ノ目的ノ爲メ之ヲ外國ニ移送シタルトキハ四年以下ノ禁錮ヲ適用ス可シ

業務又ハ營業上罪ヲ犯シタルトキハ行爲者ニハ其業務又ハ營業ヲ續行スル權利ヲ否認スルコトヲ得

第二百七條 卑屬親ト同衾シタル者ニハ血族相姦ノ爲メ一年乃至八年ノ禁錮ヲ科刑ス而シテ尊族親又ハ兄弟又ハ姉妹ト同衾シタル者ニハ二年以下ノ禁錮ヲ科刑ス

然レトモ十六歳以下ノ者及ヒ十八歳以下ノ卑屬親ハ之ヲ刑セス。其尊屬親ニ誑誘セラレタル場合ニ於テハ二十一歳以下ノ者モ亦同シ

此種ノ同衾ニ協力シタル者ニハ八年以下ノ禁錮ヲ科ス

第二百八條 現在ノ婚姻ニ依リ尊卑ノ姻族タル者相互ニ同衾シタルトキハ各之ニ六月以下ノ禁錮ヲ科ス



第二百七條第二項ハ之ヲ準用ス

此種ノ同衾ニ協力シタル者ニハ一年以下ノ禁錮ヲ科刑ス

第二百九條 既婚者他人ノ配偶者トシテ之ト同衾シタルトキ竝ニ未婚者

既婚者ト同衾シタルトキハ之ニ三月以下ノ禁錮ヲ科刑ス

行爲者ノ一人ノ婚姻存続スル間ハ刑事訴追ハ傷害ヲ受ケタル配偶者ニ

シテ罪ニ因リ離婚セラレタル者ノ申請アルニアラスンハ之ヲ爲サス但

シ刑事ノ件ニ附帶シ離婚ノ爲メ離婚ノ申請ヲ爲シタルトキハ何時ニテ

モ起訴ヲ提起スルコトヲ得

第二百十條 二十一歳ヲ終了シタル者公然ノ婚嫁許約ヲ爲シ又ハ誓言セ

ル婚姻ノ豫約ヲ信認セシメタル結果懐胎セシメタル女子ニ對シ正當ノ

原因ナクシテ之ト婚姻スルコトヲ拒絕シタルトキハ之ニ四月以下ノ禁

錮ヲ科刑ス

上述ノ者自身犯意ニ依リ婚姻ノ障礙ヲ惹起シタルトキハ之ニ同一ノ刑

ヲ科ス

分娩後一年内ニ婚姻ヲ爲サナリシトキハ何ノ場合ト雖トモ之ヲ拒絕ト  
認ム

公ノ訴追ハ被害者ノ申請ニ依リテノミ之ヲ爲ス

第二百十一條 猥褻的内容ヲ有スル公ノ演說又ハ猥褻的内容ヲ有スル演

劇又ハ興行ヲ爲シタル者又ハ此種ノ演說演劇又ハ興行ヲ爲ス行爲ニ協

力シタル者ニハ金刑又ハ一年以下ノ禁錮ヲ科刑ス

公然猥褻ノ文書圖畫又ハ其類似物ヲ販賣又ハ發行シ又ハ其他ノ方法ニ

依リ之ヲ公衆ニ傳播セントシタル者又ハ其協力者ニモ亦同一ニ科刑ス

何人ト雖モ業務又ハ營業上二年内ニ二回前述ノ罪ヲ犯シタル者ニハ其

業務又ハ營業ヲ續行スル權利ヲ否認スルコトヲ得

第二百十二條 猥褻ノ行爲又ハ言語ニ依リ習俗ヲ傷害シタル者ニハ

一 公然

二 習俗ノ傷害ニ同意セサル者ノ面前ニ於テ

三 十六歳以下ノ幼者ノ面前ニ於テ



其傷害ヲ爲シタル場合ニ限リ金刑又ハ一年以下ノ禁錮ヲ科刑ス

罪責者十六歳以下ノ幼者ト猥褻行爲ヲ爲シ又ハ此種ノ幼者ヲ猥褻的行

動ニ誑誘シタルトキハ之ニ三年以下ノ禁錮ヲ科ス

第二號ノ場合ニ於テハ公ノ訴追ハ被害者ノ申請ニ依リテ之ヲ爲ス

第二百十三條 男性間ニ於テ猥褻的交遊ヲ爲シタルトキハ行爲者及ヒ其

協力者ニハ一年以下ノ禁錮ヲ科刑ス

訴追ハ一般ノ福利上之ヲ必要トスルトキニノミ之ヲ爲ス

第二百十四條 第九十一條第九十三條第一項第九十四條第九十

六條第九十七條第九十八條及ヒ第二百十條ノ場合ニ於テ猥褻的交

通ヲ爲シタル者婚姻シタルトキハ何等ノ刑ヲモ之ニ科セス而シテ此關

係ニ付キテノ既婚ノ判決モ亦其效力ヲ失フ

埃太利刑法草案

第八十一條 婚姻ヲ解除セス又ハ無効ノ言渡アラサル前更ラニ婚姻ヲ

爲シタル配偶者竝ニ配偶者ナルコトヲ知テ之ト婚姻ヲ爲シタル未婚者

ハ五年以下ノ懲役又ハ六月ヨリ少ナカラサル禁錮ヲ以テ處刑セラルル  
モノトス

第一ノ婚姻カ無効ナリシトキハ二年以下ノ禁錮ヲ言渡ス可キモノトス

第八十二條 破婚ニアリテハ罪アル配偶者竝ニ其共犯者ハ六月以下ノ

禁錮ヲ以テ處刑セラルルモノトス

未遂ハ之ヲ糺罪セス又裁判上婚姻ヲ分離セラレタル間ニ爲シタル破婚

ハ其婚姻ノ復舊シタルトキニアラサレハ之ヲ糺罪セサルモノトス

榮譽ヲ毀損セラレタル配偶者ノ私訴ヲ待テ處刑ス可キモノニシテ私訴

ヲナスノ權ハ榮譽ヲ毀損セラレタル配偶者ノミニ屬スルモノトス其十

八歳ヲ超ヘサル者ニアリテモ亦同シ

第八十三條 上系又ハ下系(血族間)親族間ノ交接ニアリテハ上系親ハ五

年以下ノ懲役又ハ一年ヨリ少ナカラサル禁錮下系親ハ二年以下ノ禁錮

ヲ以テ處刑セラルルモノトス

上系下系ノ姻族間ノ交接竝ニ同父母若クハ異父母ノ兄弟姉妹ノ交接ニ



アリテハ二年以下ノ禁錮ヲ以テ處刑セララルモノトス  
第百八十四條 左ノ者ハ五年以下ノ懲役又ハ三月ヨリ少ナカラサル禁錮ヲ以テ處刑セララルモノトス

第一 父母養父母又ハ養育父母其子女ニ對シ後見人又ハ共同後見人其ノ被後見人ニ對シ教師又ハ教育者其未丁年生徒又ハ子弟ニ對シ僧侶其ノ禮拜者ニ對シ教師トシテ又ハ之ニ基キテ其教誨ノ下ニ屬スル者ニ對シ又ハ懺悔ヲ受クル僧其ノ懺悔者ニ對シ猥褻ノ行爲ヲ爲ス者

第二 其訊問ヲ受ク可キ人又ハ其監護ニ付セラレタル人ニ對シ猥褻ナル行爲ヲ爲ス官吏

第三 監獄強制職業場又ハ他ノ拘留場又ハ患者貧窮者又ハ其他ノ孤獨者ヲ救護スル公立場ニ就職シ又ハ住食セラレタル官吏又ハ其他ノ就職者醫師又ハ其他ノ看護人ニシテ其公立場ニ入りタル人ニ對シ猥褻ノ行爲ヲ爲ス者

第百八十五條 同一人性間又ハ人獸間ニ於テ爲シタル天理ニ背ク猥褻

ノ所爲ハ禁錮ヲ以テ處刑セララルモノトス

第百八十六條 左ノ者ハ五年以下ノ懲役又ハ六月ヨリ少ナカラサル禁錮ヲ以テ處刑セララルモノトス

第一 何人タリトモ防禦シ能ハサル又ハ思辯ヲ失フタル狀況ニ在ル婦女ニ婚姻前ノ交接ヲ行フ者

第二 十四歳未滿ノ者ニ對シ猥褻ノ所爲ヲナス者又ハ猥褻ノ所爲ヲ爲シ又ハ肯セシメンカ爲メ之ヲ誑誘スル者

此ノ所爲ニヨリ第二百三十一條第一號又ハ第二百三十二條ニ記載シタル結果ノ一ヲ基ケタルトキハ十年以下ノ懲役ヲ以テ處刑セラレ若シ又之ニ依テ被害者ノ死ヲ基ケタルトキハ十五年以下ノ懲役ヲ以テ處刑セララルモノトス

第百八十七條 何人タリトモ暴力ヲ加ヘ又ハ現ニ身體又ハ生命ニ危難ヲ加フルノ脅嚇ヲ以テ人ヲシテ強テ猥褻ノ所爲ヲ肯セシメタル者又ハ防禦シ能ハサル又ハ思辯ヲ失フタル狀況ニ在ル人ニ對シ這般ノ所爲ヲ行



フタル者ハ懲役五年以下又ハ禁錮ヲ以テ處刑セラルモノトス

第百八十八條 何人タリトモ暴力ヲ加ヘ又ハ現ニ身體又ハ生命ニ危難ヲ加フルノ脅嚇ヲ以テ婦女ヲシテ強テ婚姻前ノ交接ヲ背ンセシメ又ハ婚姻前ニ交接スルノ目的ヲ以テ防禦シ能ハサル又ハ思辯ヲ失フタル狀況ニ陥ラシメタル後チ之ヲ行フ者ハ強姦ヲナシタルモノトシテ十五年以下ノ懲役又ハ一年ヨリ少ナカラサル禁錮ヲ以テ處刑セラルモノトス其身體ヲ以テ猥褻ノ業ヲ營ム婦女ニ對シテ強姦ヲ行フタルトキハ一年ヨリ少ナカラサル禁錮ニ處セラルモノトス

此所爲ニ依リ第二百三十一條第一號及ヒ第二百三十二條ニ掲ケタル結果ノ一又ハ被害者ノ死ヲ基ケタルトキハ二十年以下ノ禁錮ニ處セラルモノトス

第百八十九條 何人タリトモ交接ヲ許容セシメンカ爲メ婚式ヲ爲サント詐ハリ又ハ婚姻上ノ交接ナリト思惟スルノ感ヲ誘起セシメ又ハ之ヲ利用シタル者ハ五年以下ノ懲役又ハ六月ヨリ少ナカラサル禁錮ヲ以テ處

刑セラルモノトス

處刑ハ只私訴アルトキニ於テノミ之ヲ爲ス可キモノトス

第百九十條 何人タリトモ他人ノ猥褻ヲ媒助シタル者ハ左ノ場合ニアリテハ猥褻媒助トシテ處刑セラルモノトス

第一 若シ犯罪者カ其身體ヲ以テ猥褻ノ業ヲ營ム婦女ニ關シ發セラレタル警察令ニ背キタルトキ

第二 其身體ヲ以テ猥褻ノ業ヲ營マサル婦女ヲ之ニ誘入シタルトキ

第三 詐術ヲ用ヒテ未成ノ婦女ヲ交接セシメタルトキ

第四 犯罪者カ第百八十五條ノ關係ノ一ヲ有スル者ヲシテ他人ノ色慾ヲ充タス爲メ之ニ其身ヲ任ス可キコトヲ勸誘シタルトキ

第五 人ヲシテ外國ニ於テ猥褻ノ業ヲ營マシムル爲メ之ヲ外國ニ送りタルトキ

第一號ニ記載シタル場合ニ於テハ六月以下ノ禁錮第二號及ヒ第三號ニ記載シタル場合ニ於テハ二年以下ノ禁錮第四號及ヒ第五號ニ記載シ



タル場合ニ於テハ懲役五年以下又ハ禁錮ノ刑ニ處セララルモノトス  
又監視ニ付スルノ言渡ヲ爲スコトヲ得

第九十一條 何人タリトモ十六歳未満ノ未成ナル處女ヲ誘テ交接シタル者ハ一年以下ノ禁錮ヲ以テ處刑セララルモノトス

被誘者ノ父母又ハ後見人ノ私訴ヲ待テ處刑スヘキモノトス

第九十二條 何人タリトモ猥褻ノ行爲ヲナシ又ハ公然隱書ヲ以テ不快ヲ起サシムル者ハ一年以下ノ禁錮又ハ千フロリン以下ノ罰金ヲ以テ處刑セララルモノトス

第九十三條 何人タリトモ人衆ノ前ニ於テ猥褻ノ演說ヲナシタル者及ヒ何人タリトモ猥褻ノ文書又ハ隱書ヲ流布シ公衆ノ群集スル場所ニ貼付シ印刷物ヲ以テ廣告シタル者又ハ印刷ヲ以テ廣告シテ猥褻ノ狀況ヲ誘起シ又ハ情慾ヲ發動セシメント企圖シタル者ハ六月以下ノ禁錮又ハ五百フロリン以下ノ罰金ヲ以テ處刑セララルモノトス

瑞西刑法典案

第九十八條 暴力又ハ重大ノ強迫ニ依リ婦女ニ對シ婚姻外ノ同衾ヲ強要シタル者ニハ懲役ヲ科刑ス

人爲的方法ニ依リ偽計的ニ婦女ヲ知覺喪失又ハ抗拒無能力ニ陥レタル後之ヲ婚姻外ノ同衾ニ妄用シタル者ニハ三年以上ノ懲役ヲ科刑ス

第九十九條 暴力又ハ重大ノ強迫ヲ以テ猥褻行爲ヲ容認シ又ハ實行スルコトヲ人ニ強要シタル者ニハ六年以下ノ懲役又ハ三月以上ノ禁錮ヲ科刑ス

人爲的方法ニ依リ偽計的ニ人ヲ知覺喪失又ハ抗拒無能力ニ陥レタル後之ヲ猥褻行爲ニ妄用シタル者ニハ十年以下ノ懲役ヲ科刑ス

第一百十條 痴愚精神病者智覺喪失又ハ抗拒無能力ノ婦女ナルコトヲ覺知シ之ヲ婚姻以外ノ同衾ニ妄用シタル者ニハ十年以下ノ懲役ヲ科刑ス  
痴愚者精神病者智覺喪失者又ハ抗拒無能力者ナル婦女ヲ猥褻行爲ニ妄用シタル者ニハ六年以下ノ懲役又ハ三月以上ノ禁錮ヲ科刑ス

第一百十一條 精神耗弱ナル婦女又ハ重大ニ精神的健康智覺又ハ抗拒能力



ヲ傷害シタル婦女ナルコトヲ知リ之ヲ婚姻外ノ同衾ニ妄用シタル者ニハ五年以下ノ懲役又ハ三月以上ノ禁錮ヲ科刑ス

十四

第十二條 十五歳ニ達セサル幼者ト共ニ猥褻行為ヲ爲シタル者ニハ十年以下ノ懲役又ハ三月以上ノ禁錮ヲ科刑ス。行為者同衾又ハ同衾類似ノ行為ニ其子ヲ妄用シタルトキハ其刑ハ二年以上ノ懲役トス。十五歳ニ達セサル幼者ヲ誑誘シテ猥褻行為ヲ爲サシメ又ハ性的肉慾ニ依リ十五歳ニ達セサル幼者ヲ目前ニ於テ猥褻行為ヲ爲シタル者ニハ三月以上ノ禁錮又ハ六年以下ノ懲役ヲ科刑ス

第十三條 自己ノ未成年ノ子孫乳子被監督者生徒門生徒弟ト共ニ猥褻行為ヲ爲シタル者又ハ此種ノ未成年者ヲ誑誘シテ猥褻行為ヲ爲サシメタル者

給養場又ハ病院ノ被保護者又ハ囚人被拘留者罪責者トシテ自己ニ從屬スル者ト共ニ猥褻行為ヲ爲シタル者ニハ六年以下ノ懲役又ハ三月以上ノ禁錮ヲ科刑ス。行為者此種ノ者ト同衾シタルトキハ其刑ハ懲役トス

第十四條 第八條乃至第十三條ニ規定シタル罪ニ付キテハ左ノ共通規定アリ

性的妄用ノ結果人ヲ死去セシメタル場合ニ於テハ行為者此結果ヲ豫見シ得ヘカリシトキハ十年以下ノ懲役又ハ終身懲役ヲ科刑ス  
性的妄用ノ結果甚大ニ人ノ健康ヲ損害シタル場合ニ於テ行為者其結果ヲ豫見シ得ヘカリシトキ

行為者慘虐ノ手段ヲ用ヒタルトキハ其刑ハ五年以上ノ懲役トス

第十五條 婦女ノ危急又ハ從屬ヲ利用シ之ヲ同衾ニ誑誘シタル者ニハ禁錮ヲ科刑ス

第十六條 報酬ヲ得テ對利的淫行ニ場所又ハ機會ヲ許與シタル者自利心ヨリ少女ノ對利的淫行ヲ庇護シタル通謀者

ニハ三月以上ノ禁錮又ハ三年以下ノ懲役及ヒ尙ホ一千フランク以下ノ罰金ヲ科刑ス

第十七條 娼妓ヲ有スル者

刑法附屬 第二編 罪



娼妓ト爲ス爲メ少女ヲ買得シタル者又ハ娼妓ヲ賣却シタル者  
ニハ五年以下ノ懲役又ハ六月以上ノ禁錮及ヒ尙ホ一萬フランク以下ノ  
罰金ヲ科刑ス

行爲者刑ノ執行後三年間内ニ再ヒ此種ノ醜業罪ヲ犯シタルトキハ其刑  
ハ十年以下ノ懲役及ヒ二萬フランク以下ノ罰金トス  
其貸間ニ娼妓ヲ居住セシメタル貸貸人ニハ二萬フランク以下ノ罰金ヲ  
科刑ス

第百十八條 偽計強迫又ハ暴力ニ依リ猥褻ノ目的ノ爲メ婦女ヲ他人ニ交  
付セント計畫シタル者ニハ懲役ヲ科刑ス

左ノ場合ニ於テハ其刑ハ五年以上ノ懲役トス

婦女未婚者ナルトキ

婦女行爲者ノ妻子女又ハ孫ナルトキ又ハ其保護監督又ハ監視ヲ行爲  
者ニ信託シタルモノナルトキ

行爲者婦女ヲ娼妓ニ爲サント計畫シタルトキ

猥褻ノ目的ノ爲メ婦女ヲ外國ニ交付セントスルトキ

左ノ場合ニ於テハ其刑ハ十年以上ノ懲役又ハ終身懲役トス

婦女ニ間然ス可キ點ナクシテ猥褻ノ目的ノ爲メ交付セラレタルトキ

第百十九條 自利心ヨリ妻子女又ハ孫女又ハ自己ニ其保護監督又ハ監視

ヲ信託セラレタル婦女ノ自利的淫行ヲ庇護シタルモノニハ五年以下ノ

懲役ヲ科刑ス

第百二十條 公然性的威儀ヲ甚大ニ傷害シタル者ニハ五千フランク以下  
ノ罰金又ハ禁錮ヲ科刑ス

第百二十一條 猥褻ノ文書圖畫又ハ物件ヲ取次、輸入、販賣、提供又ハ流通セ  
シムル爲メ公然廣告シ又ハ陳列シ又ハ營業的ニ貸付シタル者ニハ一千  
フランク以下ノ罰金ヲ科刑ス。罰金ノ外尙禁錮ヲ裁定スルコトヲ得

判事ハ猥褻ノ文書圖畫又ハ物件ヲ毀滅ス

第百二十二條 公然淫行ノ機會ヲ明告シ又ハ情ヲ知リ此種ノ通告ヲ公示  
シ又ハ發行シタル者ニハ五千フランク以下ノ罰金ヲ科刑ス



第二百二十三條 直系親屬又ハ同父母又ハ異父母同胞間ノ同衾ニハ二年以下ノ懲役又ハ禁錮ヲ科刑ス

年長者ノ爲メ誑誘セラレタル年少者ニハ科刑セサルコトヲ得  
血族間ノ姦淫ノ罪ハ二年ヲ以テ其時効ヲ得

第二百二十四條 年少者ト共ニ不自然的淫行ヲ爲シタル年長者ニハ六月以上ノ禁錮ヲ科刑ス

羅馬法  
第二百二十五條 死體ヲ猥褻ニ妄用シタル者ニハ五年以下ノ懲役ニ科刑ス

姦通トハ夫アル婦人ノ他ノ男子ト通シ夫婦ノ信義ヲ破ルヲ云ヒ妻アル男ノ或未婚ノ女ト通スルハ姦通トハ云ハサルナリ古ヘハ此姦通ノ罪ヲ重刑スルコトヲ家長ノ威權及ヒ親族會ニ委スルコトヲ法律ニ於テ認許シ之レニ付テノ監視ヲ後チ檢察官ニ附セリ又犯罪人ノ現場ニ於テ取押ヘラレサルトキハ姦夫姦婦ヲ親屬會ニ呼ビ出スカ或ハ姦婦ヲ直チニ放逐スルナリ本夫ノ姦婦ヲ現場ニ於テ取押フル時ハ直チニ之ヲ殺シ姦夫ハ隨意ノ處分

ヲ爲スヲ得又姦婦ノ父モ本夫ト均シキ權アリ然レトモ法律面恐ラクハ十二版法ニ於テニ若シ本夫或ハ姦婦ノ父殺害シテ怨ヲ晴ラサントスルニハ姦夫姦婦ヲ同一ノ場所ニ於テ直チニ殺害スヘク一人ヲ殺シ一人ヲ許ルスヲ得スト定メタリ

(ユリア法共和時代ノ終ハリニ於テ一般ノ風俗破壊シ貴女ノ本夫ヨリ放逐セラル、者多ク又貴女ノ此罪ヲ犯シ本夫ヨリ放逐セラレ益放縱ヲ極メントスルモノ多キニ至レリ依テヲクタイアヌスアウグストウスノ法律ハ尤モ時世ニ適スルモノニシテ之ヲ姦通ニ係ルユリア法ト云フ此法ニ於テ始メテ姦通ヲ公ケニ罰スヘキモノトシ告訴權ヲ本夫竝ニ父ノ外ナル人ニモ許セリ此法ニ於テハ媒合助者モ罰スヘク即チ一ハ姦通同一ノモノトシ一ハ媒合者トシテ姦通者同様ニ罰セリ  
姦婦ノ父タル者ハ一人ヲ殺シ一人ヲ許スヲ得ス若シ一人ヲ許ストキハ殺人犯ノ訴ヲ受ク因テ一人ヲ殺シ一人ノ者奔逸スルトキハ之ヲ追跡シテ殺スコトヲ得タリ



姦婦ノ本夫ハ此法ニ於テ姦婦ヲ殺スコトヲ得ス姦夫ノ賤シム可キ者(名譽ハレタルモノ及ヒ)ノミヲ殺スコトヲ得又自宅ニ於テ捕ヘ姦夫ヲ殺セルトキハ姦婦ヲ家ニ置クコトヲ得ス直チニ放逐シ其事由ヲ三日内ニ申立ヘシ若シ怒リニ乘シテ殺シ得ヘカラサル姦婦姦夫ヲ殺ストキハ其所業ヲ故殺ト認メタリ

「ユリア法」ノ罰ハ姦婦ハ嫁時持參セル物品ノ半額及ヒ其所有品三分ノ一ノ沒收姦夫ハ財産半額ノ沒收トシ此法ニ於テハ只水火ヲ與ヘサルノ追放ニシテ後チ之ニ代フルニ重追放及ヒ島地ヘノ輕追放ヲ以テセリ然シテ輕追放ヲ普ク通用セラレ死刑トナセルハ最後ノ事ナリ  
右ノ本刑ノ外重刑セラレタル者ハ證人トナルヲ得ス且ツ姦婦ハ再ヒ嫁スルコトヲ許ササルナリ

〔帝國時代ノ法〕コンスタンチンハ姦夫ハ死刑ニ財産沒收ヲ附シ姦婦ハ土地ヲ限ルノ追放トシ告訴權ハ男子ノ近親本夫タル者ノ近親即チ父兄弟亞父ニ限ルモノトセリ此犯罪ハ國家ニ對スルヨリモ親屬ノ信義ヲ破ルモノト

シコンスタンチンチユースハ姦婦姦夫ノ火刑又ハ磔刑ヲ以テ罰セリ「フハーレ」地方ヲ限ルノ追放ヲ以テ罰セシコトアルモ多クハ「ユリア法」ニ從ヒ婦ヲ離別スルヲ得ス其姦通ノ次第ヲ訴ヘ決定スルトキ離別スルヲ得ヘシトナシ且其罰ハ姦夫ハ死刑タルモ近親三等マテノモノナルトキハ財産ノ沒收ヲ附加セス姦婦ハ罰トシテ寺僚ニ止メ二年ノ後チ本夫ノ再歸セシムルヲ待ツ若シ本夫再歸セシメサルトキハ全ク離別セルモノトシ剃髮シテ終身間寺僚ニ止ムルモノトシ且本夫ハ其婦ヲ誘フモノ二三回書面ヲ與ヘテ豫メ告知ヲ爲シ直チニ殺スコトヲ得ヘシトセリ

〔重婚此罪ハ既ニ婚姻セル者ノ其夫或ハ妻ノ生存シ婚姻ノ繼續スルニ關セス他人ト又更ニ婚姻ヲ決定スルナリ此罰ハ始メハ名譽ヲ奪フ刑及檢察官ノ標章ヲ爲スマテナリシヲ姦通ニ係ル「ユリア法」ノ頒布以來重婚ハ姦淫ト姦通ニ屬シ男子ノ既ニ結婚セルニモ係ハラヌ再ヒ婚姻ヲ爲スハ奸淫姦通ニ非スニシテ其女(二度目ノ)ハ固ヨリ無罪ナリ其夫ノ生存スルニ假令ヘハ



兵士トナツテ陣中ニアルカ如シ新ニ婚姻ヲ爲スノ婦ハ姦通ノ罰ヲ科スルナリ尤モ刑罰ヲ科セラルルトキハ必ラス名譽ヲ奪フ刑ヲ附加セリ姦淫ナル語ハ不正ニ情欲ヲ遂クルコトニシテ有夫ノ婦ノ姦通ナルコトト雖モ狹キ意味ニ於テハ寡婦娘或ハ男子トノ不義ノ交媾タルナリ羅馬ニ於テハ娼妓及ヒ他ノ下賤ナル婦女トノ交媾ハ姦淫トナサス只辱シム可ラサル貴女ノ交媾ヲ姦淫トシテ罰スルナリユリア法ノ制定前ニハ第一家長タルモノハ品行ナル其娘ヲ罰スルノ權ヲ有シ第二國民法廳ハ警吏ノ告訴ニヨリ罰金或ハ地方ヲ限ルノ追放ヲ以テ罰シ第三法官奏議ニハ奸淫ナル娘ノ父兄弟或ハ後見人ニ相手ノ男ニ對シ侮辱ノ告訴ヲ爲スコトヲ許セリ

ユリア法ニテハ州官ノ其州内ノ婦女ト婚姻スルモノモ姦淫ト認メ又子父ノ妻ト婚姻スルモノモ姦淫ト認メシナリ罰ハ姦淫セル男子及ヒ婦女承諾スルトキ共ニ財産半額ノ沒收ニシテ賤民ナルトキハ(男ノ賤民ナリ身ヲ體ノ懲戒及ヒ地方ヲ限ルノ追放タリ)婦女ヨリ誘フ

テ姦淫スルトキハ同罪ニシテ若シ婦女ノ強テ行フタルトキハ其男子ヨリ侮辱ノ訴ヲ爲スコトヲ得總テ罰ヲ受ケタル時ハ名譽ヲ奪フノ刑之ニ附加セリ

(自然ニ背ケル淫行羅馬ノ自由國タル初年ニ於テハ男子ノ天理ニ背ケル淫行ニ付テ法律ノ認ムヘキアラスト雖モ此罪ハ國民法廳及ヒ檢察官及ヒ家中ノ裁判或ハ父ヨリ死刑罰金或ハ名譽ヲ奪フ刑ヲ以テ罰セリ後チスカチニア法ニ於テ罰金ト定メコンスタンチンノ子ハ劍ヲ用ユルノ罰トシ又リパレ等ハ死刑トナシソレンチニアンテヲドスアルカドハ火刑ヲ用ヒユスチニアンハ正當ナル罰トシテ劍ヲ用ユルコト、セリ(劍ヲ用フルノルヘシナ)

婦女ノ自然ニ背ケル淫行ニ付テハ只舊羅馬ニ於テ此犯罪人ヲ生ナカラ土中ニ埋メシト云ヘルモノアリ

(強姦威力ヲ以テ行フ姦淫ハ獨立刑ノミナラス侮辱罪或ハ暴行罪ヲ科ス暴行ノユリア法ニハ強姦ヲ暴行ト認メ始メハ水火ヲ與ヘサルノ追放後チニ



ハ重追放或ハ私ニ對スル暴行トシテ罰シ又其後法定外ニカビタル刑ヲ用ヒタリ尤モ此刑ハ多ク奸計ニ出テ暴行ニ因ラサルモノニ用ヒタリ強姦セラレタル者ハ固ヨリ罰ナク正當ノ防衛トシテ強姦セントスル者ヲ殺スコトヲ許セリ

(親屬犯)親屬ノ犯姦ハ近親ノ譯ヨリ婚姻ヲ爲シ得サル所ノ親屬間ノ犯姦ニシテ此犯姦ニハ親屬ノ關係ヲ知ルノ惡意ヲ要用トス羅馬ニテ此犯姦ヲ天理上ノ親屬犯姦民事上ノ親屬犯姦トニ區別シ第一ノモノハ天理ニ背ムキ第二ノモノハ民事上ノ禁ヲ犯スヲ云ヒ第一ノモノハ兩親ト其實子トノ犯姦ニシテ繼父母繼子舅姑婦養父及ヒ養女養父及ヒ養女ハ民事上ニ屬セリノ犯姦モ之レニ屬シ又姉妹トノ間ノ關係モ第一ノモノニ屬セリ是レニ反シ叔姪伯母甥ノ間ノ關係ハ第一ノモノ或ハ第二ノモノニ屬セシカハ疑フヘキナリ

往古ニ在ツテハ右ノ區別アラス只天理上成シ得ヘカラサルモノ即チ兩親ト子及ヒ姉妹間ノ犯姦ノミニシテ此犯罪ニ付テノ往時ノ神罰法ハ男女ト

モタルバイジツシノ岩ヨリ突落スコトヲ或書ニ掲ケタリ

右ノ區別ヲ設ケタリシトキト雖モ尙ホ一定ノ罰則アラヌユリア法ノ如キモ只姦通ニ付テ附記セルマテナリシヲ後チ法官等皇帝ノ勅令及ヒ自己ノ判決ヲユリア法ニ附録シ此犯罪ヲ處スルノ定規トシ然シテ親屬犯姦ヲ姦通ト姦淫ノ中ニ屬セリ其法左ノ如シ

第一 親族ノ間ニテ爲シタル婚姻ハ效力ヲ有セス生子ハ私生ノ子ト認メ男ハ姦通ニ係ルユリア法ニ從ヒ輕追放ニ處シ民事上ノ親屬犯姦ナルトキハ女ハ免罪ニシテ又未丁年者モ同様罪ヲ免セリ

第二 親屬犯姦ニ係ル姦通則チ或ル者ノ人ニ嫁シタル親屬ノ女ト姦通スルヲ云フ此場合ハ二重ノ犯罪ナルヲ以テ其罰ヲ重クス則チ男ハ島地ヘノ重追放女ハ姦通トシテ輕追放タリ

第三 親屬ノ姦淫女ノ未婚者ナルヲ云フ此場合モ親屬犯姦ト姦通ノ二重罪ナルヲ以テ島地ヘノ重追放ナリト雖モ亦輕追放姦通ニ係ルユリア法ノ罰ヲモ用ユ蓋シ茲ニハ一定ノ罰則ヲ定メス天理上ノ親屬犯姦ハ大抵



男ハ島地ヘノ重追放ニ處セラレルコト多シ

「テヲクシチア」ハ錯誤ヲ以テ親屬間ニ婚姻ヲ爲シ直チニ之レヲ解キタル者ハ無罪トナシ「コンスタンチニス」ハ「カピタル」刑ニ處シ「テヲドシウス」ハ火刑ニ財産ノ沒收ヲ附加シ「ユスチニア」ハ土地ヲ限ルノ追放重追放或ハ輕追放官職褫奪財産ノ沒收(若シ正當ノ子アラサル時ハ官沒及ヒ身體ノ懲戒)若シ被告賤民ナルトキハ「ヲ」以テセリ

「姦通姦淫ノ媒介竝ニ容認此罪ハ姦通ヲ勸誘媒介シ或ハ容認シ又他人ノ姦淫ヲ媒介容認スルヲ云フ「ユリア」法ヲ設ケタルトキマテハ此ノ如キ罪ヲ定メス之レ姦通ヲ公ケニ罰スルコト少ナシ實際ニ幫助スル者モ亦稀ナリシナリ

「ユリア」法ニ於テ禁セル媒合者ハ公ケノ貸座敷營業トハ全ク異ナルナリ此法ニ於テ姦通或ハ姦淫ヲ幫助スル多クノ所業ニ刑罰ヲ定メ且媒介ト認ム可キ所業ヲ詳細ニ定メタリ帝國時代ニ於テモ亦此法ヲ變セス只其罰ヲ重ンセリ

第一 姦通スル女ノ夫タル者ニ付テハ

(イ) 利益ノ爲メ己レノ妻ニ姦通ヲ行ハシムル者或ハ直接ニ此事ヲ媒介スル者

「ユスチニア」帝ハ人ノ妻タルモノノ其夫ヨリ姦通ヲ勸メラレルトキハ直チニ離別シ嫁時ノ持參金品ヲ分配スルコトヲ得ヘシトセリ

(ロ) 姦所ニ於テ取押ヘタル姦婦ヲ其儘ニ妻トシ置キ或ハ呼戻シ又ハ姦夫ヲ遣レシメ或ハ其訴ヲ願下クル者

第二 他人ニ付テハ

(イ) 姦通ノ裁判ヲ受ケタル女ト婚姻スルモノ

(ロ) 姦夫ノ取押ヘラルルトキ内濟(金或ハ他ノモノ)ニ因テノコト及ヒ法律ヲ免ルルコトニ付テ助言スルモノ或ハ姦通ヲ知り之レヲ奇貨トシテ人ニ云ハサル爲メ金ヲ貪ホルモノ(又此定メハ金ヲ得テ黙スル姦婦ノ夫ニモ適用スルナリ)

(ハ) 姦通ノ告訴ヲ願下セシムルモノ



(ニ) 他人ノ姦通ノ爲メ場所ヲ貸シタルモノ貴女或ハ若年ノ者ヲ誘引シタルモノハ誘引ノ所業幫助ヨリモ重ク罰セラレナル處ニハ定法外特別ニ罰スルナリ

(ホ) 己レノ娘及ヒ女ノ奴隸ヲ媒介セル父及ヒ主人ハテヲドジウス及ヒ「ヲハ」レンチニアン「ノ」定メ「ニ」從ヒ從屬者ニ超ユル所ノ威權ヲ失ヒ且重キ鑛業使役ニ處セラルハナリ

右總テノ場合ノ「ユ」リア「法」ノ罰ハ姦通及ヒ姦淫ノ罰ニ均シク定法外ニ處スヘキ所業ハ法官隨意ノ罰ヲ科スルヲ許ルセリ「ユ」スチニアン「ハ」更ニ又姦通ノ幫助媒介者ハ姦通者ト同罪ナリトセリ

唐律

諸姦者徒一年半有夫者徒二年部曲雜戶官戶姦良人者各加一等即姦官私婢者杖九十(亦同姦婢)

姦他人部曲妻雜戶官戶婦女者杖一百强者各加一等折傷者各加鬪打傷罪一等

諸姦總麻以上親及總麻以上親妻若妻前夫女及同母異父姉妹者徒三年强者流三千里折傷者絞減一等(餘條姦)

諸姦從祖々母姑從祖伯叔母姑從父姉妹從母及兄弟妻兄弟子妻者流二千里强者絞

諸姦父祖妻(謂曾祖有)伯叔母姑姉妹子孫婦兄弟女者絞即姦父祖所幸婢減二等

諸奴奸良人者徒二年半强者流折傷者絞

其部曲及奴奸主及主之期親若期親之妻者絞婦女減一等强者斬即奸主之總麻以上親及總麻以上親之妻者流强者絞

諸監臨主守於所監守內姦者(謂人)加奸罪一等即居父母及夫喪若道士女冠奸者各又加一等婦女以凡奸論

諸有妻更妻者徒一年女家減一等若欲妄而娶者徒一年半女家不坐各離之諸和娶人妻及嫁之者各徒二年妾減二等各離之即夫自嫁者亦同(仍兩)

若更許他人者(謂許嫁女已報婚書及有私)杖一百已成者徒一年半後娶者知情



減一等女追婦前夫前夫不娶還婢財後夫婚如法諸卑幼在外尊長後為定婚而卑幼自娶妻已成者婚如法未成者從尊長違者杖一百

明律

凡和姦杖八十有夫夫九十刁姦杖一百

強姦者絞未成者杖一百流三千里

姦幼女十二歲以下者雖和同強論

其和姦刁姦者男女同罪姦生男女責付姦夫收養姦婦從夫嫁賣其夫願留者聽若嫁賣與姦夫者姦夫本夫各杖八十婦人離異歸宗財物入官強姦者婦女不坐

若媒合容止通姦者各減犯人罪一等私和姦事者減二等

其非姦所捕獲及指姦者勿論若姦婦有孕罪坐本婦

凡姦同家無服親及無服親妻者各杖一百

若姦總麻以上親及總麻以上親之妻(謂內外有服之親)若妻前夫之女及同母異父姊妹者各杖一百徒三年強者斬若姦從祖姑從祖伯叔母姑從父姊妹母之姊

妹及兄弟妻兄子妻者各絞強者斬若姦父祖妾伯叔母姑姊妹子孫之婦兄弟之女者各斬

妾各減一等強者絞(謂強姦親屬妾者該絞)

凡奴及雇工人姦家長妻女者各斬

若姦家長期親若期親妻者絞婦女減一等

若姦家長總麻以上親及總麻以上親妻者各杖一百流二千里強者斬

妾各減一等強者亦斬

凡軍民官吏姦所部妻女者加凡姦罪二等各罷職役不叙婦女以凡姦論

若姦囚婦者杖一百徒三年囚婦止坐原犯罪名

凡居父母及夫喪若僧尼道士女冠犯姦者各加凡姦罪二等和姦之人以凡姦論

凡奴姦良人婦女者加凡姦罪一等良人姦他人婢者減一等奴婢和姦者以凡姦論

凡縱容妻妾與人通姦本夫姦婦各杖九十抑勤妻妾及乞養女與人通姦者本夫

義父各杖一百姦夫杖八十婦女不坐並離異歸宗



若縱容抑勤親女及子孫之婦妾與人通姦者罪亦加之  
若用財買休賣休和娶人妻者本夫本婦及買休人各杖一百婦人離異歸宗財  
禮入官若買休人與婦人用計逼勤本人休棄其夫別無賣休之情者不坐買休  
人及婦人各杖六十徒一年婦人餘罪收贖給付本夫從其嫁賣妾減一等媒合  
人各減犯人罪一等

凡以妻為妾者杖一百妻在以妾為妻者杖九十竝改正

若有妻受娶妻者亦杖九十離異其民年四十以上無子者方聽娶妻違者笞四  
十

若許嫁女已報婚書及有私約(謂先已知夫身殘疾老幼庶幾類)而輒悔者笞五十雖無婚書但  
曾更聘財者亦是若再許他人未成婚者杖七十已成婚者杖八十後定娶者知  
情與同罪財禮入官不知者不坐追還財禮女歸前夫前夫不願者賠追財禮給  
還其女仍從後夫

若卑幼或仕官或賣買在外其祖父母父母及伯叔父母姑兄姊後為定婚而卑  
幼自娶妻已成婚者仍舊為婚未成婚者從尊長所定違者杖八十

凡送婿嫁女或再招婿者杖一百其女不坐男家知勿娶者同罪不知者亦不坐其  
女斷付前夫出居完娶

清律

與明律同

第三 釋義 本章ハ主トシテ舊刑法第三編第一章第十一節及ヒ第二編第六章  
中ノ第二百五十八條及ヒ第二百五十九條ヲ合シ之ニ修正ヲ加ヘラレタルモ  
シナフ

本章ニ付テハ殆ント説明ヲ要スルコトナシト雖モ聊カ各本條ニ付キ説明ヲ  
加フヘシ

第七十四條ハ舊刑法第二百五十八條ト其趣旨ヲ異ニスル所ナシ唯舊刑法  
ニ於テハ本條ノ罪ニ罰金ヲ科シ本條ハ科料ヲ科スト雖モ舊刑法ノ罰金ト本  
條ノ科料トハ其額ニ於テ大差アルコトナシ畢竟罪質ニ於テ罰金ヲ科スルハ  
妥當ナラサルニ因ルモノナルヘシ

第七十五條ハ舊刑法第二百五十九條ト其趣旨ヲ同フス其修正ノ點ハ新ニ



頒布ナル語ヲ用ヒ公然頒賣スル外廣ク無償ニテ公衆ニ頒ツコトヲ禁シタリ  
 又舊刑法ニハ販賣シタル者云々トアルカ故ニ猥褻ノ圖書物品ヲ販賣セザレ  
 ハ之ヲ處置スルコトヲ得スト雖モ本章ノ罪ハ汎ク風紀ノ取締ニ關スルモノ  
 ナレハ販賣シ了リタル者ノミナラス將サニ販賣セントシタルトキモ亦之ヲ  
 處置スルノ必要アルヲ以テ販賣ノ目的ヲ以テ所持シタル者ヲモ同一ノ刑ニ  
 處スヘキモノト爲シタリ又本條ノ刑ハ舊刑法ノ刑ニ比シ多少重キノ感ナキ  
 ニアラサレトモ風紀維持ノ上ニ於テハ寔ニ已ムヲ得サルモノト謂ハサルヘ  
 カラス

第七十六條前段ハ舊刑法第三百四十六條後半ノ規定ト其趣旨ニ於テ異ナ  
 ル所ナシ唯舊刑法ノ刑ハ稍輕キニ失スルヲ以テ之ヲ重クシタルノ差アルノ  
 ミ其末段ハ舊刑法第三百四十六條前半及ヒ第三百四十七條ヲ合シタル規定  
 ニシテ其趣旨ニ於テハ別ニ異ナル所アルヲ見ス而シテ被害者ノ年齢ヲ十三  
 歳ト爲シタルハ女子發育ノ程度ヲ探究セラレタル結果ニ外ナラサルヘシ  
 第七十七條前段ハ舊刑法第三百四十八條前半ト同一趣旨ノ規定ニシテ後

段ハ舊刑法第三百四十九條ト全然同一ナリ被害者ノ年齢ヲ十三歳ト修正セ  
 ラレタル理由ハ前條ニ説明スル所ト同シ

第七十八條ハ舊刑法第三百四十八條前半ト趣旨ニ於テ異ナル所ナキモ舊  
 刑法ノ規定ハ法文穩當ヲ缺キ且姦淫ノ場合ノミニ關シ狹キニ失スルヲ以テ  
 之ニ修正ヲ加ヘラレタルモノノ如シ

心神喪失トハ如何ナル意義ナル乎又其範圍如何ノ問題ニ關シテハ專門學家  
 ノ意見一致セス或ル學者ハ精神ノ障礙ヲ意味シ其範圍ハ障礙ト耗弱ノ中間  
 ニ位スト云ヒ或學者ハ意識ノ喪失ヲ意味シ意識ノ欠乏ヲ限界トストノ説ヲ  
 唱道スルモ二者共ニ明確ナル範圍ヲ示ス能ハス既ニ總則編ニ於テ説明スル  
 如ク此認定ハ全ク裁判官ノ判斷ニ依ルヘキモノニシテ一定ノ標準アルコト  
 ナシ

第七十九條ハ前三條ノ未遂罪ノ規定ニシテ舊刑法ハ唯強姦罪ノ未遂ヲ罰  
 スト雖モ第七十六條ニ記載スル罪ノ未遂ニ付テモ之ヲ不問ニ付スヘキモ  
 ノニアラサルヲ以テ本條ニ於テ之ヲ補充セリ



第八十條ハ舊刑法第三百五十條ト同シク親告罪ニ關スル規定ニシテ舊刑法ハ被害者又ハ親屬ノ告訴ヲ待ツコトトシ告訴人ノ資格ヲ限定スト雖モ告訴權利者ノ何人タリヤハ刑事訴訟法及ヒ民法ノ規定ニ依リテ定ムヘキモノナルコトヲ期シ本條ニ於テハ單ニ告訴ヲ待テ其罪ヲ論スト規定セリ然レトモ實際ノ例ニ於テ告訴權ヲ有スル者ハ概ネ被害者又ハ其法定代理人ナルコト蓋シ疑ヲ容レズ

第八十一條ハ舊刑法第三百五十一條ト其規定ノ場合ヲ同フスト雖モ趣旨ニ至テハ全ク然ラス舊刑法ハ本章ノ罪ヲ犯シ強姦以外ノ所爲ニ因リ人ヲ死傷ニ致シ又ハ強姦ニ因リ癡篤疾以外ノ傷ニ致シタルトキハ毆打創傷罪ニ比シ重キニ從テ處斷シ強姦ニ因リ人ヲ癡篤疾又ハ死ニ致シタルトキハ特ニ刑ヲ設ケタリト雖モ本法ニ於テハ強姦ニ依ルト否トハ之ヲ區別セス又第七十六條乃至第七十九條ノ罪ヲ犯シ因テ之ヲ死傷ニ致シタルトキハ特ニ刑ヲ設ケ無期又ハ三年以上ノ懲役ニ處スルコトトセリ是レ蓋シ通常ノ傷害罪ニ比シ其情狀重キモノアルヲ以テナルヘシ

第八十二條ハ舊刑法第三百五十二條ニ修正ヲ加ヘタルモノニシテ舊刑法ハ十六歲未滿ノ男女ノ淫行ノ勸誘媒合ヲ處罰スト雖モ其趣旨稍廣キニ失スルヲ以テ本法ハ第一ニ營利ノ目的ニ出テタルモノナルコトヲ要件トシ第二ニ淫行ノ常習ナキ婦女ノミヲ保護スルコトト爲セリ是レ營利ノ目的ニ出テタルモノニアラサレハ之ヲ罰ト爲スノ必要ナキノミナラス男子ハ婦女ニ比シ之ヲ保護スルノ必要ハ實際ノ場合ニ於テ極メテ尠少ナリ且婦女ト雖モ平生素行修マラサル者ヲ保護スルノ要ナク品行善良ニシテ淫行ノ常習ナキ者ノミヲ保護スルヲ以テ足レハナリ

第二百八十三條ハ舊刑法第三百五十三條ト全ク同一趣旨ノ規定ニシテ別ニ註釋ノ要ヲ見ス  
第二百八十四條ハ舊刑法第三百五十四條ト全ク其趣旨ヲ同フシ本法ニ於テ修正ヲ加ヘタル所ナシ

第四 疑問及説明

第一 熟睡又ハ人事不省若クハ有形上身體ノ不自由ナルニ乘シテ姦淫シタ



ルトキハ強姦罪ヲ成立スルヤ  
人事不省又ハ有形上身體ノ不自由ナルトキハ即チ抗拒不能ノ場合ナレハ  
第七十八條ニ依リ第七十七條ヲ適用スルコトヲ得ヘク熟睡ノ場合ハ  
専ラ事實ニ依リ判斷スヘキモノナリト雖モ多クノ場合ニ於テハ抗拒不能  
ニ包含スルカ然ラサレハ暴行ノ中ニ包含スヘク何レニスルモ強姦罪タル  
ヲ失ナハス

第二 詐欺ヲ用ヒテ強姦シタル場合ハ如何

是モ亦一概ニ論斷スヘキモノニアラス事實ノ如何ニ依リテ論結ヲ異ニス  
ト雖モ手段ニ暴行脅迫スルカ抗拒不能ナラシメタル場合ナルニ於テハ強  
姦罪ヲ成立スルコト蓋シ疑ヲ容レス

第三 女子カ男子ノ強姦ニ加功シタルトキハ共犯ナリヤ

女子カ男子ノ強姦ニ加功スルモ強姦ノ行爲ハ男子ニアラサレハ行フコト  
ヲ得サルヲ以テ從犯トナルモ共犯トナルコトナシトノ説ナキニアラサレ  
トモ主犯ニシテ男子タル以上ハ女子ト雖モ共犯タルコトヲ妨ケス

第四 有夫ノ婦ノ中ニ坊間所謂内縁ノ夫婦關係ヲ認ムルヤ

民法施行ノ今日ニ於テハ内縁ノ夫婦關係ヲ認メス民法ニ於テハ婚姻ハ之  
ヲ戸籍吏ニ届出ルニ因テ效力ヲ生シ届出ヲ爲ササレハ夫婦タルノ效ナケ  
レハナリ

第五 異説

第一 第八十四條ヲ削除スヘシ

理由 (イ) 姦通ハ婚姻ヲ破ルノ行爲ニシテ婚姻ハ他ノ私法上ノ契約ト其  
性質ニ於テ異ナル所ナク從テ之ヲ破ル行爲ハ他ノ契約違反ノ行爲ト同  
シク婚姻契約解除ノ結果ト民事上ノ損害賠償トヲ生スルニ過キス決シ  
テ犯罪ト認ムヘキモノニアラサルノミナラス假リニ之ヲ犯罪ナリトス  
ルモ之ヲ處罰スルハ一家ノ平和ヲ阻害シ其結果失フ所多クシテ益スル  
所少ナケレハナリ

(ロ) 婚姻ノ私法上ノ契約ナリヤ否ヤハ姑ク措キ姦通罪ハ親告罪ナルカ  
故ニ今日マテノ實例ニ徴スルモ之カ告訴ハ徒ラニ法ヲ以テ財物強取ノ



手段ト爲シ真正ニ自己ノ權利ヲ遂行セムトスルノ意思ニ出ルモノ極メテ尠少ニシテ今日告訴スルモ明日ハ之ヲ取下ケ示談調ハサルトキハ幾回モ同一ノコトヲ繰返シ爲メニ刑事裁判所ハ告訴人ノ繕弄スル所トナリ徒ラニ費用ト手數ヲ損スルニ過キス此クノ如キハ管ニ事理ニ適セサルノミナラス國家經濟ノ上ニ於テ多大ノ損失ナルヲ以テ全然德義上ノ問題トシ刑法ノ上ヨリ之ヲ除棄スルノ優レルニ如カス

第二

有婦ノ夫姦通シタルトキハ之ヲ處罰スル趣旨ノ法文ヲ設クヘシ理由 男子ト女子トハ其性質ニ於テ全然異ナル所アリ隨テ男子ノ姦通ハ女子ノ姦通ノ如キ害ヲ生スルコトナキハ事實ナリト雖モ畢竟有夫姦ヲ處罰スルノ趣旨ハ其主要ナル點ハ管ニ私人ノ血統保維ノ一點ニ止マラス公ノ秩序ヲ紊亂スル行爲ナルヲ以テ之ヲ不問ニ付スヘカラスト謂フニ在リ果シテ然ラハ其行爲ノ結果ニ多少ノ差異アリト云フ一事ヲ以テ一ハ刑法上ノ犯罪トシ一ハ全然之ヲ道德上ノ制裁ノミニ委スルハ聊カ公平ヲ失スル嫌ナシトセス少クトモ或ル制限ノ下ニ於テ夫ノ姦通モ亦

之ヲ處罰セサルヘカラス

第六 異說ニ對スル説明

第一說ニ付テ

(イ) 姦通ハ決シテ單純ナル契約違反ノ行爲ニアラス婚姻ニ因リ成立シタル公ノ身分即夫タリ妻タル身分ヲ毀傷スルノ罪ニシテ社會ノ秩序ニ關係ヲ有スル所少ナカラス之ヲ破ルノ行爲ハ特リ一家ノ平和ニノミ關スルモノト云フヘカラサルハ自明ノ理ニシテ既ニ社會ノ秩序ヲ紊亂スルノ行爲ナリトスル以上ハ之ヲ刑法罰ト爲スハ當然ノ事理ナリ況ンヤ其及ホス所ノ害ハ雷ニ道義ニ反スルノミナラス血統保維ノ點ニ著シキ影響ヲ及ホスヘキモノアルヲ以テナリ

(ロ) ニ掲クル異說ノ實例ハ今日ニ於テハ論者ノ唱道スル如ク動カスヘカラサル事實ニシテ殆ント其弊ニ堪ヘサルモノアリ然レトモ此事實ハ必スシモ本罪ニノミ特殊ノモノニアラス唯其數ニ多少ノ差異アルノミニテ一般ノ親告罪皆然リ故ニ此一事ヲ以テ直ニ刑法ヨリ本罪ヲ除棄セ



ントスルハ既往ノ歴史ト沿革上ノ理由ニ鑑ミ穩當ナラサルヲ以テナリ  
第二説ニ付テ

女子ハ體質上受胎ノ機能ヲ有シ異性ノ交接ニ因テ生殖ヲ爲スモノナレハ  
夫以外ノ男子ト交接スルノ行爲ハ直ニ血統ヲ紊亂スルノ結果ヲ生スルノ  
ミナラス民法ノ規定ニ依ルモ妻カ婚姻中ニ生ミタル子ハ夫ノ子ト看做ス  
ノ推定アリ隨テ其姦通ヲ不問ニ付スルトキハ一家ヲ擾亂スルノ結果ヲ生  
スヘシ反之男子ノ姦通ハ單ニ道義ニ反スト云フノミニテ如此弊害ヲ生ス  
ルコトナキヲ以テ敢テ刑罰ヲ科スルノ要ヲ見ス純理ノ上ヨリ論スルトキ  
ハ婦ノ姦通ヲ處罰スル以上ハ夫ノ姦通ヲ不問ニ付スヘキモノニアラサル  
ヘシト雖モ今日ノ實情ニ於テハ到底實際ニ行ハレサルノミナラス制限ヲ  
付セントスルモ如何ナル制限ヲ以テ適當トスヘキ乎ハ直チニ起ルヘキ難  
問ニシテ之ヲ解決セントスルハ容易ノ事業ニアラス本問ハ立法院ニ於テ  
モ屢々起リタル議論ナレトモ遂ニ成立セサルハ蓋シ實行ノ困難ナルヲ以  
テナルヘシ

## 第二十三章 賭博及ヒ富籤ニ關スル罪

第百八十五條 偶然ノ輸贏ニ關シ財物ヲ以テ博戲又ハ賭事ヲ  
爲シタル者ハ千圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス但一時ノ娛樂  
ニ供スル物ヲ賭シタル者ハ此限ニ在ラス

第百八十六條 常習トシテ博戲又ハ賭事ヲ爲シタル者ハ三年  
以下ノ懲役ニ處ス

賭博場ヲ開張シ又ハ博徒ヲ結合シテ利ヲ圖リタル者ハ三月  
以上五年以下ノ懲役ニ處ス

第百八十七條 富籤ヲ發賣シタル者ハ二年以上ノ懲役又ハ三  
千圓以下ノ罰金ニ處ス

富籤發賣ノ取次ヲ爲シタル者ハ一年以下ノ懲役又ハ二千圓  
以下ノ罰金ニ處ス



前二項ノ外富籤ヲ授受シタル者ハ三百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第一 沿革

第一案 第二百七十二條 賭場ヲ開帳シテ利ヲ圖リ又ハ博徒ノ結合ヲ組成シテ利益ノ分配ヲ圖リタル者ハ一月以上一年以下ノ有役禁錮及ヒ十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二百七十三條 公ノ場所ニ於テ賭博ヲ爲シ現行ノ際發覺セラレタル者ハ十一日以上六月以下ノ有役禁錮及ヒ五十圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス但現場ニ於テ消費ス可キ飲食物又ハ一時ノ遊戯ニ供スル物品ヲ賭シタル者ハ此限ニ在ラス  
賭博ノ財物其現場ニ在ルモノハ之ヲ沒收ス

第二百七十四條 官許ヲ得スシテ富講ヲ興行シタル者ハ一月以上六月以下ノ有役禁錮及ヒ十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス  
富籤發賣ノ牙保若クハ幫助ヲ爲シタル者ハ一等ヲ減ス

富籤ノ發賣ニ因テ得タル金額ハ之ヲ沒收ス若シ現在セザルトキハ其額ヲ追徵ス

第二百七十五條 官許ヲ得スシテ興行スル富講ノ富籤ヲ購買シタル者ハ五十圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第二案 第二百十四條 偶然ノ輸贏ニ關シ財物ヲ以テ博戯又ハ賭事ヲ爲シタル者ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス但一時ノ娛樂ニ供スル物品ヲ賭シタル者ハ此限ニアラス

第二百十五條 常習トシテ博戯又ハ賭事ヲ爲シタル者ハ三年以下ノ懲役ニ處ス  
博戯場ヲ開帳シ又ハ博徒ヲ結合シテ利ヲ圖リタル者ハ五年以下ノ懲役ニ處ス

第二百十六條 允許ヲ得スシテ富籤ヲ發賣シタル者ハ一年以下ノ懲役又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス  
富籤發賣ノ取次ヲ爲シタル者ハ六月以下ノ懲役又ハ二百圓以下



ノ罰金ニ處ス

第二百十七條 允許ヲ得スシテ發賣シタル富籤ヲ買取シタル者ハ科料ニ處ス

第二百十八條 本節ノ罪ヲ犯シ懲役ニ處ス可キ者ニハ監視ヲ附加スルコトヲ得

第三案

第二百十四條 偶然ノ輸贏ニ關シ財物ヲ以テ博戲又ハ賭事ヲ爲シタル者ハ六月以下ノ懲役又ハ三百圓以下ノ罰金若クハ科料ニ處ス但一時ノ娛樂ニ供スル物ヲ賭シタル者ハ此限ニアラス

第二百十五條 第二案ニ同シ

第二百十六條 允許ヲ得スシテ富籤ヲ發賣シタル者ハ二年以下ノ懲役又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

富籤發賣ノ取次ヲ爲シタル者ハ一年以下ノ懲役又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二百十七條 第二案ニ同シ

第二百十八條 本章ノ罪ヲ犯シ懲役ニ處スヘキ者ニハ監視ヲ附加スルコトヲ得

第四案 第三案ニ同シ

第二 參照法律

佛蘭西刑法

第四百十條 賭博場ヲ設ケ人ヲシテ自由ニ入ラシメシ者又ハ關係アル者ノ申込ニテ人ヲ入ラシメシ者又ハ其賭博場ニ於テ賭博ノ世話ヲ爲ス者又ハ法律ニ於テ允許セサル富場ヲ設ケシ者又ハ賭博場富場ノ支配人世話人ハ二月ヨリ少カラス六月ヨリ多カラサル時間禁錮ノ刑ニ處セラレ且百フランクヨリ多カラサル罰金ノ言渡ヲ受ク可シ

且其犯人ハ其刑ヲ受ケシ日ヨリ五年ヨリ少ナカラス十年ヨリ多カラサル時間第四十二條ニ記シタル權利ヲ行フノ禁ヲ受ケシムルコトヲ得、

何レノ場合ニ於テモ賭博又ハ富ニ用ヒタル金銀證券家具及ヒ其場所ニ



排列シタル家具動産ハ官ニ沒收ス可シ

第四百二十一條 國債證券ノ相場ノ低昂ニ付キ賭博ヲ爲シタル者ハ第四百十九條ニ記シタル刑ニ處セラル可シ

第四百二十二條 國債證券ノ賣拂又ハ引渡ヲ爲ス可キ契約ヲ結ヒシ時ニ當リ自ラ其證券ヲ所有スルノ證ナク又ハ引渡ヲ爲ス可キ時ニ當リ其證券ヲ有スルノ證ナキ時ハ此等ノ契約ヲ賭博ナリト看做ス可シ

第四百七十五條

第五 市街道路街衢ニ於テ富場及ヒ其他ノ賭博ヲ爲ス場所ヲ設ケシ者ニ是等ノ者ハ六「フランク」ヨリ少カラス十「フランク」ヨリ多カラサル罰金ノ言渡ヲ受ク可シ

白耳義刑法

第三百一條 闇ヲ用ヒテ人ニ利ヲ圖ラシムル者ヲ稱シテ富票ト云フ

第三百二條 官許ヲ受ケス富票ヲ施行スル發起人管主人等ハ皆八日ヨリ三月マテノ獄ニ處シ五十「フランク」ヨリ三千「フランク」迄ノ罰金ヲ科ス可シ

富票ニ備ヘタル物品ハ皆官ニ沒入ス可シ  
若シ不動産ヲ賭ル者ハ沒入ニ處セス百「フランク」ヨリ一萬「フランク」マテノ罰金ヲ科ス可シ

第三百三條 官許ヲ受ケサル富票ノ證券ヲ分派販賣スル者掲壁新聞等ニテ富票ヲ公布スル者等ハ皆八日ヨリ一月マテノ獄ニ處シ二十六「フランク」ヨリ一千「フランク」マテノ罰金ヲ科ス可ク若クハ唯此一ヲ科スヘシ證  
票掲壁公告書類ハ直チニ消却ス可シ

第三百四條 證券ヲ持シテ分派シ或ハ掲壁ニ公告書ヲ貼スル者等ノ其書類ヲ發行スル者ヲ告ルハ坐セス

第三百五條 官許ヲ受ケス賭房ヲ開キ或ハ衆ノ出入ヲ自在ニシ或ハ人ヲ其場ニ誘導スル者ハ賭主及ヒ其他ノ管掌人共ニ八日ヨリ六月マテノ獄ニ處シ百「フランク」ヨリ五千「フランク」迄ノ罰金ヲ科ス可シ

且ツ第三十三條ノ奪權ニ處スルコトアリ  
賭房ニアル財物及ヒ賭具ハ皆官ニ沒入ス可シ



獨乙刑法

七八〇

第二百八十四條 賭博場ヲ設ケテ業トスル者ハ二年ヨリ長カラサル禁獄ニ處シ其餘二百「タ」レル「ヨ」リ二千「タ」レルニ至ル罰金ニ處シ仍ホ公權ヲ剝奪スルコトヲ得ヘシ

若シ其犯人外國人ナレハ本地警察官之レヲ聯邦國ノ領地外ニ放逐スルコトヲ得ヘシ

第二百八十五條 公會ノ爲メ設ケタル場所ノ持主此處ニ於テ賭博ヲ免シ或ハ其賭博興行ヲ助ケテ隱匿シタルトキハ五百「タ」レル「ヨ」リ多カラサル罰金ニ處スヘシ

第二百八十六條 官許ナクシテ公然ト富閣ヲ興行スル者ハ二年ヨリ長カラサル禁獄ニ處シ又千「タ」レル「ヨ」リ多カラサル罰金ニ處スヘシ

動産不動産ヲ以テ富閣ヲ興行シタル者ハ金銀ヲ以テノ富閣ト同シク論スヘシ

英吉利刑法典

賭坊ヲ開帳シ或ハ其場ニ在テ金錢ヲ博徒ニ借與シ或ハ受寄スル者ハ警察裁判所ニ於テ開帳スル日ヨリ通計シ一日ニ四十「シ」ル「リ」ング及ヒ度數ヲ計ヘ毎賭九「シ」ル「リ」ング八「ペ」ンスノ罰金ヲ出サシメ且ツ五百封度ニ至ル罰金ヲ加フ或ハ十二月ニ止ル入獄ニ處シ若クハ苦役ヲ加フ

若シ其場ニ在ル者ト雖モ能ク其窩主ノ確證ヲ獲テ官司ニ告首スル者ハ全ク其罪ヲ免ル

若シ偽計ヲ設ケ財物ヲ賭シ人ヲ詐欺スル者ハ詐偽取財物ヲ以テ論ス

若シ市場路傍等ニ於テ財貨ヲ賭博スル者ハ無宿人ト稱シ其犯ス處ニ從テ罪ニ科ス

奧太利刑法

第五百二十二條 博奕諸賭物其他特別ノ制令ヲ以テ禁止セラレタル遊戯ヲ取行フ者ハ其黨類竝ニ住所ヲ貸シテ該戲ヲ爲サシメシ者ハ違式罪トシ十「グ」ル「デ」ン以上九百「グ」ル「デ」ン以下ノ罰金ニ處スヘシ但シ其三分一ハ告知者ニ給與スヘシ若シ告知者其黨ニ係ルト雖モ其刑ヲ免ス可シ



外國人ニシテ此違式ヲ犯ストキハ之ヲ國外ニ追放スヘシ  
魯西亞刑法

第九百九十條 己ノ家或ハ其他ノ場所ニ禁制ノ博戲場ヲ設ケ或ハ設ケシ  
ムル者ハ初度ニ於テハ三十ル以下ノ贖金、再度ニ於テハ同上ノ贖  
金ノ外三週間ヨリ少カラス三月間ヨリ多カラサル時間ノ拘留、三度ニ於  
テハ同上ノ贖金ノ外四月ヨリ少カラス八月ヨリ多カラサル時間ノ禁獄  
ニ處セラルヘシ(第九百二  
十九條)

第九百九十一條 禁制或ハ無禁制ノ遊戯ニ於テ詐欺ヲ爲ス罪人ハ此刑法  
第九百七十條ニ確定シタル罰ニ處セラルヘシ

第九百九十二條 富講ヲ爲スニ當リ詐欺ヲ爲ス罪人ハ骨牌及ヒ骰子等ノ  
遊戯ニ於テ詐僞ヲ爲スニ就キ此刑法第九百七十條ニ確定シタル罰ニ  
處セラル可シ

第九百七十條 禁制或ハ無禁制ノ遊戯ニ於テ假造ノ骨牌及ヒ骰子等ヲ  
使用シ又酒或ハ毒ヲ遊戯者ニ與ヘ又ハ骨牌或ハ骰子ヲ取換或ハ欺貸シ

又ハ總テ勝ヲ得ンカ爲メニ或他ノ詐欺アルヲ證徴セラルル者ハ身體及  
ヒ族位ニ屬シタル特權全部ノ剝奪及ヒ此刑法第三十一條ノ第五等ニ依  
テ西北利住所ノ放流或ハ懲囚隊内ノ編入ニ處セラルヘシ

第九百七十四條 船舶ノ役夫或ハ航夫ハ船舶ニ於テ骨牌或ハ骰子ノ遊  
戯ヲ爲ストキハ初度ニ於テハ一晝夜間ノ賃金ヨリ多カラサル贖金、再度  
ニ於テハ二晝夜間ノ賃金ヨリ多カラサル贖金、三度ニ於テハ三晝夜間ノ  
賃金ヨリ多カラサル贖金ニセラルヘシ

埃及刑法

第三百十六條 賭博場ヲ設ケテ衆人ヲ入レシムル者又ハ其金主ハ一月ヨ  
リ少ナカラス六月ヨリ多カラサル時間禁錮ノ刑ニ處セラレ且ツ百ピア  
ストルヨリ少ナカラス五千ピアストルヨリ多カラサル罰金ヲ言渡サル  
可シ

但賭博場ニ在ル財貨及ヒ動産ハ官ニ沒收ス可シ

第三百十七條 官許ヲ得スシテ富場ヲ設ケタル者ハ一月ヨリ少ナカラス



六月ヨリ多カラサル時間禁錮ノ刑ニ處セラレ且ツ百「ピアストル」ヨリ少  
ナカラス五千「ピアストル」ヨリ多カラサル罰金ヲ言渡サルヘシ但富場ニ  
アル財貨及ヒ動産ハ官ニ沒收ス可シ  
眞ノ仁恤ノ爲メ設ケタル富場ニハ此條ノ規則ヲ通シ用フ可カラス

土耳其刑法

第二百四十二條 賭博場ヲ設ケ公衆ヲシテ入ラシメタル者及ヒ其賭

世話人ハ一月ヨリ少カラス六月ヨリ多カラサル禁錮ニ處シ且金ノ一「メ  
ジジエ」ヨリ少カラス五十「メジジエ」ヨリ多カラサル罰金ヲ科シ 時ニ其  
場ニアル金銀手形類ヲ悉皆官ニ沒收スヘシ

第二百四十三條 富場ヲ設ケタル者ハ一月ヨリ少ナカラス六月ヨリ多カ  
ラサル禁錮ト金ノ一「メジジエ」ヨリ少ナカラス五十「メジジエ」ヨリ多カラ  
サル罰金ニ處スヘシ同時ニ其場ニアル金銀手形類ヲ悉皆官ニ沒收ス可  
シ

和蘭刑法

第四百五十六條 左ノ諸件ヲ犯シタル者ハ六月以下ノ禁錮又ハ三千「フロ  
リン」以下ノ罰金ニ處ス

一 公衆ノ觸目スヘキ委運ノ賭戲所(賭博及之ニ類ス)ニ入場スルニハ或  
條件又ハ或方法ヲ遵守スヘキト否トニ拘ハラヌ此賭戲所ヲ開設シ又  
ハ管理シ或ハ此種ノ起作ニ干與スル者

二 委運ノ賭戲所内ニ於テ堂觀(一人ニテ他ノ請受ツ)又ハ賭事監査役ヲ  
勤ムル者

三 委運ノ賭戲所ヲ開設スル爲メニ土地ヲ供シタル者

第四百五十七條 左ノ諸件ヲ犯シタル者ハ五十「フロラン」以下ノ罰金ニ處  
ス

一 公衆ノ觸目スヘキ賭戲所又ハ委運ノ賭戲所ニ入場スルニハ或條件  
ニ服従シ又ハ或ル方法ヲ遵守スヘキヤ否ヤヲ論スルコトナク此種ノ  
賭戲所ニ於テ賭事ヲ爲ス者

二 市長ノ允許ヲ經スシテ公路ニ委運ノ賭事ヲ開設スルノ便宜ヲ與ヘ



タル者

那威刑法

第二百九十八條 博戲又ハ博戲ノ誑誘ヲ營業ト爲ス者ニハ一年以下ノ禁錮ヲ科刑ス

行爲者業務又ハ營業上罪ヲ犯シタルトキハ之ニ其業務又ハ營業ヲ續行スル權利ヲ否認スルコトヲ得

裁判所ハ取得シタル利得ノ沒收ニ代ヘテ其返還ヲ命スルコトヲ得

第二百九十九條 戲事ノ種類又ハ賭物ノ價額上利慾ノ目的ヲ達スルニ足ルト思料ス可キ金錢又ハ金錢ト同様ナル物ニ關スル戲事ハ凡テ之ヲ博戲ト看做ス

賭事及ヒ差額取引モ亦同一ノ條件ヲ具備スルトキハ之ヲ博戲ト認ム

奧太利刑法草案

第三百五條 何人タリトモ賭博ヲ以テ營業トスル者ハ二年以下ノ禁錮ヲ以テ處刑セラレ之ト共ニ三千フロリン以下ノ罰金ヲ言渡サルルヲ得ル

モノトス

利得及ヒ損失カ單ニ偶然ノ事ニ關スル各個ノ遊技ハ賭博ト看做ス可キモノトス

第三百六條 其ノ場所ニ於テ賭博ヲ許容シ又ハ這般ノ遊技ヲ祕密ニスルコトニ共力シタル公ケノ集會場ノ所持人ハ三月以下ノ禁錮又ハ五百フロリン以下ノ罰金ヲ以テ處刑セララルモノトス

何人タリトモ營業トシテ又ハ其利益ノタメ賭博ヲ行フヘキ房屋ヲ給與シ又ハ周旋シタル者モ亦前項ノ刑ニ處セララルモノトス

第四百四十九條 何人タリトモ第三百六條ニ記載シタル集會場又ハ場所ニ於テ賭博ヲ行ヒタル者ハ拘留又ハ三百フロリン以下ノ罰金ヲ以テ處刑セララルモノトス

賭遊ニ供シタル金錢及ヒ使用シタル賭遊ノ器具ハ沒收スルコトヲ得ルモノトス

常業トシテ些少ノ物品ヲ賭スル者ト雖モ公然ノ場所ニ於テ行ヒ且ツ警



察令ニ違背シタル者ハ第一項ニ記載シタル刑ニ處スヘキモノトス  
瑞西刑法典案

第二百二十六條 銀行遊戯ヲ興行シタル者

管轄廳ノ許可ナクシテ富籤ヲ準備シ又ハ富籤業ヲ爲シ又ハ博奕ヲ興行  
シタル者

ニハ一萬フランク以下ノ贖金又ハ拘留ヲ科刑ス

此二個ノ刑ハ之ヲ併科スルコトヲ得

銀行遊戯又ハ官廳ノ許可セサル博奕ノ場所ヲ給與シタル者ニハ一萬フ

ランク以下ノ贖金ヲ科刑ス

此種ノ興行ニ供シタル金錢及ヒ器具ハ之ヲ沒收ス

唐律

諸博戲賭財物者各杖一百(學博例是例) 賭重者各依已分準盜論(輸者亦依已)

其停止主人及出玦若和合者各如之賭飲食者不坐

明律

凡賭博財物者皆杖八十攤場錢物入官其開張賭坊之人同罪止樣見發爲坐殘

官加一等若賭飲食者勿論

清律

與明律同

第三 釋義 本章ハ舊刑法第二編第六章中賭博及ヒ富籤ニ關スル規定ニ修正

ヲ加ヘタルモノニシテ其要點ヲ列舉スレハ左ノ如シ

第一 本法ハ賭博ニ關スル規定ヲ改メ常習トシテ之ヲ爲ス者ト否ラサル

者トニ分チ常習ト爲ササル者ニ付テハ罰金ヲ科スルコトトセリ是レ常

習ト爲ササル博戲又ハ其賭事ハ牽ネ一時ノ樂戲ニ出ツルモノニシテ其

犯情ノ稍憫諒スヘキモノアレハナリ

第二 舊刑法第二百六十一條本文ノ後段ハ總則從犯ノ規定ヲ適用スルコ

トト爲シ本法ニ於テハ之ヲ削除セリ同條第二項ノ規定即賭博ノ器具財

物ヲ沒收スルコトハ總則沒收例ノ通用ヲ受ケ且本法ニ於テハ賭博ハ現

行犯ニ限ラサルヲ以テ器具財物ノ現場ニ在ルト否トハ之ヲ區別スルノ



必要ナキヲ以テナリ

第三 舊刑法ハ富籤ニ付キ唯其興行者ニ關スル規定ノミヲ設ケ其他ハ之ヲ特別法ノ規定ニ讓リタルヲ以テ適用上彼此討索不便少ナカラス故ニ本法ハ富籤ノ取次及ヒ授受ニ關スル規定ヲ新設シ以テ其缺點ヲ補充セラルモノノ如シ

以下各本條ニ就キ説明スヘシ

第八十五條ハ舊刑法第二百六十一條ヲ修正シタル規定ニシテ其修正ノ要點ヲ擧クレハ左ノ三點ニ歸著ス

第一 「博奕」ノ文字ヲ改メテ「偶然ノ輸贏ニ關シ博戲又ハ賭事ヲ爲シタル者」ト爲シタルコト

第二 「現」ノ文字ヲ削除シタルコト

第三 「飲食物ヲ賭シタル者」ハ此限ニ在ラスヲ改メテ「一時ノ娛樂ニ供シタル者」ハ此限ニ在ラスト爲シタルコト

第一ニ就テ

舊刑法ノ博奕ナル文字ニハ種々ノ解釋アリ著作ノ趣旨ニハアラサルモ解釋ノ便宜上大ニ關係スル者アルヲ以テ本邦有力ナル學說ノ一二ヲ摘録スヘシ蓋シ讀者ニ於テハ熟知ノ說ナレトモ立法ノ趣旨カ果シテ此學說ヲ參酌セシモノナルヤ否ヲ研究スル上ニ於テ彼此參觀ノ勞ヲ避ケム爲メノ編著者ノ婆心ニ過キス況ヤ本章ノ罪ハ實際屢々實顯スヘキ多數犯罪ノ一種ナレハナリ

第一說 博奕ニ博戲賭事ノニアリ關係者ノ確知セサル事實ニ因リ勝敗ヲ決シ利益ヲ得喪スルヲ兩者ノ通性トス

博戲ト賭事トノ區別ニ付テハ學者ニ依リ全然之ヲ排斥スルモノアリ而モ之ヲ認ムルニ付キ亦左ノ二說アリ

第一 客觀說 博戲ハ關係者自身ニ一定ノ動作ヲ爲シ其動作ノ結果カ勝敗ヲ決スルヲ謂フ彼ノ内外國一般ニ行ハルル骨牌ヲ使用スルノ例ハ最モ適切ナリ即チ使用者ノ動作ノ結果カ直ニ勝敗ノ條件ト爲ルナリ其他圍碁將棋相撲等ノ遊戯ニ於テ遊戯者雙方ノ